

石川県立看護大学

年報

第18巻

平成29年度

巻頭言

平成 29 年度は、平成 23 年に法人化してから 6 年を経て、2 クール目の中期計画期間が開始された年に当たります。新たな目標、新たな年次計画の下で大学が動き出しました。近年続いている文部科学省主導の大学教育改革に追われながらも、今後の 6 年間は自大学固有の課題解決も含めて全教職員の力を結集して改革・改善に臨まねばならないと考えています。

全国的な動きでは、漠としていた入試改革の姿が平成 29 年度には明らかになってまいりました。入試改革の重要性は、高等学校までの知識の詰め込み型教育の改革とそれに継続する大学教育改革、それを中継する大学入試改革という論理で説明されています。学力の 3 要素を考慮した入試が検討され、選択問題だけでなく記述式問題が必須との考えでその方法が検討されており、また英語においては、聞く・話す能力を業者委託にて試験することが議論の中心となっています。本学では臨時に入試改革ワーキングを設けて待機していましたが、やっと検討する材料が見えてきたといった状況です。本学独自の課題として推薦入試の精度を上げることや、AO 入試の是非などにも取り組む必要があり、今後は本学でも入試改革の議論が活発になることが予想されます。入試に関連しては、本学を取り巻くローカルな範囲での学生確保対策にも焦点を当て、高校の進路指導教員に意見をうかがうなどの取り組みを強化いたしました。

平成 29 年度の本学の大きな出来事として助産師養成課程設置の文科省への申請がありました。幸い認可が下り、次年度から大学院において助産師養成を開始します。3 つの看護職能を育成できる大学となった記念すべき年になりました。また開学以来初の試みとして日中韓看護フォーラムを金沢市内で開催しました。アジアの MOU 締結校との交流実質化の第 1 歩、そして助産師教育開始のキックオフという意味を込めました。

前年度開始したカリキュラム改革は今年度の検討で大幅に進み、初学年に新科目「アカデミックリテラシー」を設けます。またディプロマポリシーに対する各科目の位置づけと教育的役割を明確にするためのカリキュラムツリーとマップを明示しました。今後はこの意義を全教員に周知徹底することが課題です。一方で、カリキュラムの改革効果は教育の質次第では半減します。今年度から教育の質保証と銘打った取り組みを開始し、学生の意見を取り入れた教育改革につながる一歩を踏み出しました。

その他、本学では学部・大学院における本来の教育研究や、地域ケア総合センター、看護キャリア支援センター、教員の個別ゼミ等による地域貢献活動等において例年通りあるいは例年の活動を改善して真摯に向き合いました。この年報には、この 1 年の大学全体の様相、教職員一人ひとりの学内外での役割・活躍や、個人で努力したことの成果等が、正直にほぼ網羅的に掲載されています。

皆様、是非 <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/> にもアクセスしてみてください。本学に対する忌憚のないご意見をうかがえれば幸甚です。

石川県立看護大学 学長 石垣和子



第 18 回入学式
(平成 29 年 4 月 5 日)



夏のオープンキャンパス
(平成 29 年 7 月 15 日)



第 13 回夏期アメリカ看護研修
(平成 29 年 9 月 1 日～ 9 月 14 日)



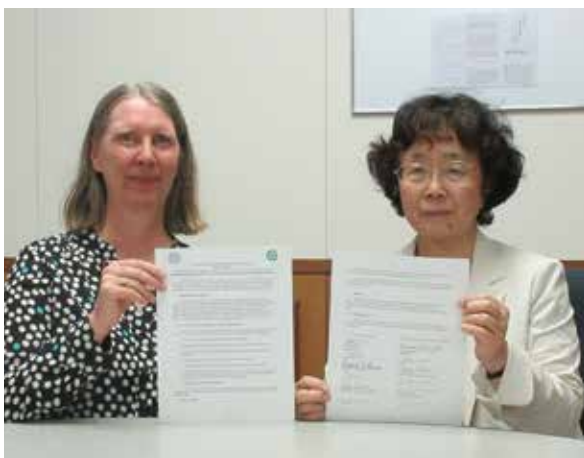
春期韓国看護文化研修
(平成 30 年 3 月 18 日～ 3 月 25 日)



JICA 日系研修
(平成 29 年 6 月 30 日～ 7 月 10 日)



JICA 青年研修
(平成 29 年 11 月 29 日～ 12 月 12 日)



ワシントン大学との学術協定の更新
(平成 29 年 7 月 24 日)



日中韓看護フォーラムいんいしかわ
(平成 29 年 8 月 11 日)



管理者経営研修
(平成 29 年 9 月 29 日)



認知症看護認定看護師教育課程
開講記念特別講演 (平成 29 年 7 月 8 日)



第 14 回卒業式
(平成 30 年 3 月 17 日)

目 次

巻頭言

1. 学事	1
1.1 平成 29 年度学事暦	1
1.2 大学組織図	2
1.2.1 大学組織図	2
1.2.2 常設委員会構成	3
1.3 オープンキャンパス	5
1.3.1 夏のオープンキャンパス	5
1.3.2 秋のオープンキャンパス	5
1.4 懇話会	6
2. 教員・職員	8
2.1 教員紹介	8
2.2 特任教員等紹介	12
2.3 教員組織構成	12
2.3.1 所属領域・講座と職位構成	12
2.3.2 職位別年齢構成	13
2.3.3 大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員	13
2.3.4 博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成	13
2.3.5 博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成	13
2.4 職員	14
3. 中期計画	15
3.1 第 2 期中期計画（平成 29 年度～ 34 年度）における平成 29 年度計画と実績	15
3.1.1 平成 29 年度計画の概略	15
3.1.2 平成 29 年度計画の実績の概略	16
4. 看護学部看護学科	19
4.1 理念・目標	19
4.1.1 教育理念	19
4.1.2 教育目標	19
4.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）	19
4.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）	20
4.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	20
4.2 学部学生の入学・在学・卒業の状況	21
4.3 教育・履修体制	24
4.4 委員会活動	25
4.4.1 常設委員会	25
4.4.1.1 教務委員会	25
4.4.1.2 学生委員会	27

4.4.1.2.1	学生相談専門部会	28
4.4.1.2.2	進路支援専門部会	29
4.4.1.3	研究推進委員会	30
4.4.1.4	学内研究助成審査委員会	32
4.4.1.5	石川看護雑誌編集委員会	32
4.4.1.6	情報システム委員会	33
4.4.1.7	広報委員会	33
4.4.1.8	入学試験委員会	36
4.4.1.8.1	入試実施部会	37
4.4.1.8.2	入試評価部会	37
4.4.1.9	自己点検・評価委員会	37
4.4.1.9.1	教員評価部会	38
4.4.1.9.2	年報編集部会	39
4.4.1.10	FD委員会	39
4.4.1.11	ハラスメント委員会	40
4.4.1.12	情報セキュリティ委員会	41
4.4.1.13	コンプライアンス委員会	41
4.4.1.14	倫理委員会	41
4.4.1.15	衛生委員会	42
4.4.2	特設委員会	43
4.4.2.1	大学改革委員会	43
4.4.2.1.1	カリキュラム改定班	44
4.4.2.1.2	大学院・専攻科検討班	44
4.4.2.1.3	教員組織改編班	45
4.5	平成29年度 卒業研究論文題目一覧	47
5.	大学院・看護学研究科	52
5.1	理念・目標	52
5.1.1	博士前期課程（修士）	52
5.1.1.1	教育理念	52
5.1.1.2	教育目標	52
5.1.1.3	アドミッション・ポリシー（求める人材）	53
5.1.1.4	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）	53
5.1.1.5	ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	53
5.1.2	博士後期課程（博士）	54
5.1.2.1	教育理念	54
5.1.2.2	教育目標	54
5.1.2.3	アドミッション・ポリシー（求める人材）	54
5.1.2.4	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）	55
5.1.2.5	ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	55
5.2	大学院生の入学・在学・修了の状況	56
5.3	大学院教務学生委員会	58

5.4	大学改革委員会 大学院・専攻科検討班	59
5.5	平成 29 年度 修士論文題目一覧	60
5.6	平成 29 年度 博士論文題目一覧	60
6.	教員の業績	61
6.1	書籍	61
6.1.1	書籍 (著書)	61
6.2	学術論文	61
6.2.1	査読有	61
6.2.2	査読無	63
6.3	その他の原稿	65
6.4	学会発表	66
6.5	社会活動・地域貢献	72
6.6	その他 (受賞等)	85
6.7	研究助成金	86
6.7.1	科学研究費助成事業 (日本学術振興会)	86
6.7.1.1	科学研究費補助金	86
6.7.1.2	学術研究助成基金助成金	86
6.7.2	学内研究助成費	88
6.7.3	その他助成金等	89
7.	国際交流	91
7.1	国際交流委員会	91
7.2	夏期アメリカ看護研修 (学部科目「国際看護演習」)	94
7.3	春期韓国看護文化研修 (全北大学校看護大学)	96
7.4	日中韓看護フォーラム	98
8.	地域創生	99
8.1	地域創生委員会	99
8.2	能登キャンパス構想事業	99
8.2.1	能登キャンパス構想事業班	100
8.3	地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)	100
8.3.1	COC プラス事業班	100
8.4	COI 事業班	101
9.	附属図書館	102
9.1	図書館運営委員会	102
9.2	今年度の主な活動概況	104
9.2.1	図書館事業の実施	104
9.3	資料整備状況	105
9.3.1	分野別蔵書構成	105
9.3.2	医学分類蔵書構成	105
9.3.3	看護系資料分類別構成	105
9.4	利用統計	106

9.4.1	開館日数・入館者数	106
9.4.2	館外利用者数及び冊数	106
9.4.3	他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数	106
9.4.4	他大学・公共図書館・個人からの文献複写受付件数	106
9.4.5	館内設置コピー機による複写件数・枚数	107
9.4.6	相互貸借貸出冊数	107
9.4.7	相互貸借借受冊数	107
9.4.8	データベースアクセス状況	107
9.5	利用者サービス	108
9.5.1	学内向図書館サービス	108
9.5.2	学外向図書館サービス	108
9.5.3	学内で利用できるデータベース	109
9.6	職員研修	110
9.6.1	附属図書館職員の研修	110
10.	附属地域ケア総合センター	111
10.1	地域ケア総合センター運営委員会	111
10.1.1	人材育成部会	111
10.1.2	地域活動部会	111
10.1.3	国際貢献部会	112
11.	附属看護キャリア支援センター	113
11.1	看護キャリア支援センター運営委員会	113
11.2	認知症看護認定看護師教育課程	114
11.2.1	受講生の受講・修了状況	114
11.2.2	入学試験・入試説明会の実施	114
11.2.3	認知症看護認定看護師教育課程入試委員会	114
11.2.4	認知症看護認定看護師教育課程教員会	115
11.3	認定看護管理者教育課程	115
11.3.1	受講生の受講・修了状況	115
11.3.2	認定看護管理者教育運営委員会	115
11.4	石川县委託事業の開催	115
11.4.1	石川県看護教員現任研修事業	115
11.4.2	管理者経営研修	116
11.5	感染管理認定看護師フォローアップ研修	116
12.	大学として取り組んでいる連携事業	117
12.1	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成	117
12.1.1	がんプロ企画委員会	117
13.	大学施設の開放	120
	編集後記	121

1. 学事

1.1 平成29年度学事暦

平成29年

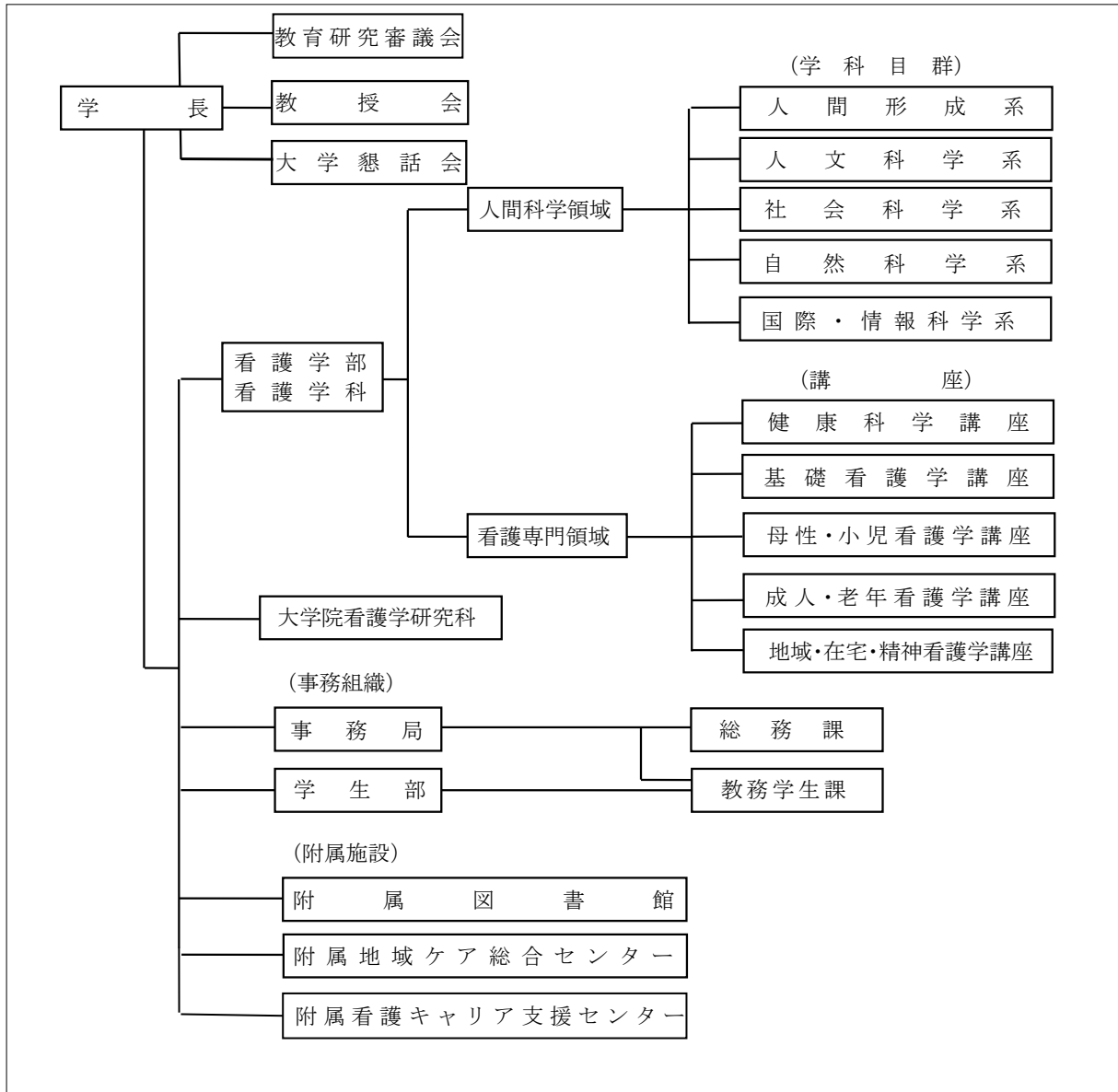
4月 5日 (水)	入学式
4月 6日 (木) ~ 4月 7日 (金)	ガイダンス 学生健康診断
4月10日 (月)	授業開始
4月 6日 (木) ~ 4月12日 (水)	前期履修登録受付
5月29日 (月)	開学記念日・開学記念講演会
7月15日 (土)	夏のオープンキャンパス
7月31日 (月) ~ 8月 8日 (火)	前期補講・試験
8月 9日 (水) ~ 9月30日 (土)	夏季休業
9月23日 (土)	入学試験 (大学院博士前期課程・後期課程)
10月 2日 (月)	後期授業開始
9月20日 (水) ~10月 5日 (木)	後期履修登録受付
10月28日 (土) ~10月29日 (日)	大学祭 28日(土) 秋のオープンキャンパス
11月18日 (土)	入学試験 (推薦・社会人)
12月22日 (金) ~ 1月 4日 (木)	冬季休業

平成30年

1月13日 (土) ~ 1月14日 (日)	大学入試センター試験
1月27日 (土)	入学試験 (大学院博士前期課程・後期課程 (第2次募集))
2月 9日 (金) ~ 2月20日 (火)	後期補講・試験
2月25日 (日)	入学試験 (一般入試前期日程)
3月12日 (月)	入学試験 (一般入試後期日程)
3月17日 (土)	卒業式・学位授与式
2月21日 (水) ~ 3月31日 (土)	春季休業

1.2 大学組織図

1.2.1 大学組織図



1.2.2 常設委員会構成

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載ページ
教務委員会*	学長の指名	小講座から各1名（講師以上） ただし、基礎・成人からは各2名	25
学生委員会*	学生部長	大講座から各1名以上（講師以上） +各学年担任から1名	27
学生相談専門部会	学生部長の指名	4名（助教以上）+学生部長	28
進路支援専門部会	学生部長の指名	看護の小講座から1名（講師以上）	29
図書館運営委員会	附属図書館長	大講座から各1名（講師以上）	102
石川看護雑誌編集委員会*	図書館長の指名	4名	32
研究推進委員会*	学長の指名	大講座から各1名（講師以上）	30
学内研究助成審査委員会	学長の指名	5名（教授のみ）	32
情報システム委員会	学長の指名	5名	33
地域ケア総合センター運営委員会*	附属地域ケア総合センター長	小講座から1名（講師以上）	111
人材育成部会		4名	111
地域活動部会		6名	111
国際貢献部会		4名	112
看護キャリア支援センター運営委員会*	附属看護キャリア支援センター長	センターの教員3名 その他学長が指名する者5名	113
認知症看護教員会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、 公益社団法人石川県看護協会の役員1名、 医療機関の看護管理者2名、 その他学長が指名する者2名	115
認知症看護入試委員会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、 教育経験を有する認知症看護認定看護師3名、 その他学長が指名する者1名	114
認定看護管理者教育運営委員会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員2名、 医療機関の看護管理者4名、 その他学長が指名する者1名	115
国際交流委員会	学長の指名	大講座から各1名（講師以上） +委員長指名3名	91
広報委員会*	学長の指名	役職者+HPへの文章登載の役割を担う者	33
入学試験委員会	学長	大講座から各1名（准教授以上）	36
入試実施部会	入試委員長の指名	大講座から各1名以上（助手以上）	37
入試評価部会	入試委員長の指名	5名（講師以上）	37
問題編集部会（非公表）	学長の指名	必要数	

*委員会運営を助ける助手・助教1～2名が学長指名で追加される。

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載 ページ
自己点検・評価委員会*	学長	役職者、学長指名4名	37
教員評価部会	学長の指名	3名	38
年報編集部会	学長の指名	3名	39
FD委員会*	学長の指名	大講座から各1名(講師以上)	39
ハラスメント委員会	学長	6名	40
情報セキュリティ委員会	学長の指名	学長指名	41
コンプライアンス委員会	研究科長	5名	41
大学院教務学生委員会	研究科長	5名	58
倫理委員会	研究科長	6名程度+学外9名	41
がんプロ企画委員会	学長の指名	学長指名	117
衛生委員会	衛生管理者の資格 を有する教員	理事長指名+過半数代表者 推薦	42

*委員会運営を助ける助手・助教1～2名が学長指名で追加される。

1.3 オープンキャンパス

1.3.1 夏のオープンキャンパス

1. 日 時：平成29年7月15日(土) 10時00分～14時00分
2. 参加者：393名
3. 概 要：
 - 1) 大学説明会
 - ・オリエンテーション
 - ・本学の概要説明
 - ・入試説明
 - 2) 模擬授業 村井教授「救急看護とは…未来の救急看護を支えるみなさんへ」
 - 3) 保護者セミナー
 - ・カリキュラム、国家試験、進学・就職について
 - ・学費・奨学金、アパート情報について
 - 4) 学生によるキャンパスライフの紹介
 - ・看護学実習、アメリカ看護研修について
 - ・サークル・課外活動について
 - 5) 在学生・教職員による相談・交流コーナー
 - 6) 施設見学・看護学実習体験

夏のオープンキャンパス2017では、県内外から高校生、専門学校生、社会人および保護者ら393名の参加があった。

本学の学生広報委員や学生ボランティア、教職員らがキャンパス見学や看護学実習体験、相談・交流コーナー、保護者セミナーなどの各企画を担当し、参加者との交流を行った。

このオープンキャンパスが、参加者にとって本学への理解や関心を深める機会となり、一人でも多く本学への進学を志してもらえることを期待する。

1.3.2 秋のオープンキャンパス

1. 日 時：平成29年10月28日(土) 9時30分～12時00分
2. 参加者：107名
3. 概 要：
 - 1) 大学案内
 - ・学長からのメッセージ
 - 2) 学生によるキャンパスライフの紹介
 - 3) 入試準備セミナー 林一美教授、牧野智恵教授、武山雅志教授
 - 4) 在学生・教職員による相談・交流コーナー

秋のオープンキャンパス2017では、県内外から高校生、保護者や社会人ら107名の参加があった。学長からのメッセージに始まり、学生から講義や実習、夏期アメリカ看護研修を含めたキャンパスライフの紹介、また教員からは入試準備セミナーで小論文と面接について具体的なポイントを伝えた。

参加者のほとんどが今年度の受験対象者であり、入学試験に対する心構えや、大学生活や将来の職業観等について考える上で、参考になったことを期待する。

大学祭(看大祭)が同日開催であったことも、大学の雰囲気を知ることに繋がった。

1.4 懇話会

石川県立看護大学懇話会

県内の看護関係の団体、県民の代表者等から意見を聴取し、地域に密着した大学としての運営に資するため、石川県立看護大学に懇話会を設置する。

1. 開催日時： 平成30年2月26日（月）16時30分～
2. 開催場所： 石川県立看護大学管理棟2階小会議室
3. 学外出席者：

(10名)	石川県医師会長	近藤 邦夫
	石川県看護協会長	吉野 幸枝
	石川県立中央病院長	山田 哲司
	金沢医科大学病院看護部副部長	中村 真寿美
	金沢医療センター看護部長	青木 きみ代
	金沢大学医薬保健研究域保健学系教授	稲垣 美智子
	石川県婦人団体協議会長	能木場 由紀子
	会議通訳、翻訳者	早川 芳子
	石川県保健所長会長	南 陸男
	かほく市長	油野 和一郎

学内出席者： 学長、研究科長、学生部長、図書館長、看護キャリア支援センター長、地域ケア総合センター長、学長補佐、事務局長、総務課長、教務学生課長

4. 主な内容：
 - (1)看護大学の現況について
 - ・組織、教職員数、入学定員、卒業後の資格、入試の状況等について
 - (2)学生の進路状況について
 - ・学部の状況、大学院の状況について
 - (3)学部教育・大学院教育・生涯教育について
 - ・大学院修士・博士課程の研究、キャリア支援センター概要等について
 - (4)地域貢献及び国際貢献について
 - ・地域ケア総合センターの事業等について
 - (5)意見交換
 - ・人材育成、地域連携、官公庁との連携の必要性等について

2 教員・職員

2.1 教員紹介

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	准教授	垣花 渉
	社会科学系群	社会学	講師	三部 倫子
	人文科学系群	心理学	教授	武山 雅志
	自然科学系群	人間工学	教授	小林 宏光
	国際・情報科学系群	情報科学	教授	松原 勇
			准教授	加藤 穰
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	教授	長谷川 昇
			教授	今井 美和
			講師	市丸 徹
		保健・治療学	教授	多久和 典子
			教授	大木 秀一
			教授	丸岡 直子
	基礎看護学講座	基礎看護学	准教授	中田 弘子
			准教授	木森 佳子
			講師	林 静子
			助教	田村 幸恵
			助教	田淵 知世
			助手	三輪 早苗
助手			瀬戸 清華	
教授			濱 耕子	
母性・小児看護学講座	母性看護学	教授	亀田 幸枝	
		准教授	米田 昌代	
		助教	曾山 小織	
		助手	桶作 梢	
		教授	西村 真実子	
	小児看護学	講師	金谷 雅代	
		助教	千原 裕香	
		助手	坂本 洋子	

研 究 課 題
参加型健康教育が心身の健康に及ぼす影響、初年次教育の実践的研究
LGBTによる家族形成の研究、医療者とLGBTの相互行為の研究
新日本版MMPIにおける基礎研究、看護学生のコミュニケーションに関する研究、被災地学生ボランティア活動に関する研究
心拍変動 (Heart rate variability) および唾液バイオマーカーの分布特性その応用研究
在宅ケア（特に脳卒中既往者）の疫学統計、THP（トータル・ヘルス・プロモーション）の疫学統計、情報処理教育方法の改善研究
医学・看護英語に関する研究、英語圏の医療制度に関する研究、医療倫理に関する研究
認知機能・身体機能の低下予防、機能的食品による更年期症状緩和効果、ロコモティブシンドローム予防のための根拠に基づいた実践
若年女性の子宮頸がん予防行動に関する研究
生殖機能の調節に関する研究
生理活性脂質メディエーターの生理学・病態生理学的意義の解明、現代のメディカルプロフェッショナル育成：新しい教育メソッドの構築、疾患の病態生理に立脚した生活習慣病の予防指導、分子と細胞の機能理解の看護学への応用
ライフコース行動遺伝疫学研究、多胎児家庭に関する包括的な研究、当事者参加型の地域実践研究
在宅療養移行支援（退院支援）に関する研究、看護管理に関する研究、転倒リスクマネジメントに関する研究
看護技術に関する研究、補完代替療法に関する研究、看護用具のデザイン・開発に関する研究
看護技術に関する基礎研究と開発、創傷リスクアセスメント、予防・創傷治癒促進の技術についての研究、フィジカルアセスメント技術に関する研究
看護師の視覚による観察に関する研究、看護技術による生理的反応に関する研究
看護学実習における教員と指導者の連携についての研究、基礎看護教育に関する研究、心不全患者への看護に関する研究
外国人住民における健康課題の研究、多文化共生のための保健医療サービスの研究、退院調整に関する研究
基礎看護教育に関する研究
神経難病患者のケアに関する研究
夫婦の親役割適応に関する研究、周産期の健康とQOL評価、女性向け補整下着の開発評価に関わる研究
出産前教育の効果や測定用具に関する研究、助産師教育に関する研究
流産・死産・新生児死亡で子どもを亡くした家族へのグリーフケアに関する研究、周産期のケアに関する研究、子育て支援に関する研究
周産期の看護に関する研究、子育て支援に関する研究、生殖補助医療の看護に関する研究
母乳育児支援に関する研究
子どもの虐待予防に関する研究、育児不安・育児困難・虐待に悩む母親への支援に関する研究、子育て支援に関する研究
育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究、子どもへのデスエデュケーション・グリーフケアに関する研究
子育て支援に関する研究、次世代育成教育に関する研究、育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究
子育て支援に関する研究、育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名	
看護専門領域	成人・老年看護学講座	成人看護学	教授	牧野 智恵	
			教授	村井 嘉子	
			准教授	岩城 直子	
			准教授	北山 幸枝	
			助教	川端 京子	
			助教	松本 智里	
			助教	南堀 直之	
			助手	大西 陽子	
		老年看護学	教授	川島 和代	
			講師	中道 淳子	
			助教	磯 光江	
			助手	渡辺 達也	
		地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	教授	石垣 和子
				准教授	阿部 智恵子
	准教授			塚田 久恵	
	准教授			織田 初江	
	助教			曾根 志穂	
	助教			金子 紀子	
	在宅看護学		教授	林 一美	
			准教授	桜井 志保美	
			助教	子吉 知恵美	
	精神看護学		助教	山崎 智可	
			准教授	谷本 千恵	
講師			川村 みどり		
助教			大江 真吾		
附属看護キャリア支援センター			助教	清水 暢子	
			准教授	石川 倫子	
		助教 (専任教員)	堅田 三和子		

研 究 課 題
がん患者の「生きる意味」への支援、治療中および終末期がん患者への支援方法に関する研究
クリティカルケア看護に関する研究、クリティカルケア看護におけるキュアとケアの融合を基盤とした看護実践に関する研究
がん患者の精神心理的ケアに関する研究、在宅緩和ケアに関する研究
皮膚・創傷の管理および看護技術に関する研究、栄養不良状態下における創傷発生時皮膚の組織学的検討
看護継続教育に関する研究
股関節疾患患者の歩容に関する研究
クリティカルケア看護に関する研究
クリティカルケア看護に関する研究
高齢者施設等の看護と介護の連携に関する研究、看護技術の開発と適用に関する研究、看護理論の実践における検証（優れた実践の理論的検証）
認知症高齢者ケアに関する研究、介護予防に関する研究
認知症を有する高齢透析患者に関する研究
視機能に関する研究、介護予防に関する研究
保健師活動に関する研究、僻地における看護に関する研究、家族看護に関する研究、異文化看護に関する研究
地域と暮らしと健康に関する研究
保健事業の評価に関する研究、保健事業とヘルスリテラシーに関する研究、介護予防に関する研究
地域看護・公衆衛生看護活動の評価に関する研究、行動変容・地域ケアシステム・介護予防・地域包括支援に関する研究、保健指導能力の育成・評価に関する研究
乳幼児をもつ母親の育児支援に関する研究、難病疾患の在宅療養支援に関する研究、地域における防災・減災活動に関する研究
地域特性を踏まえた子育て支援に関する研究、保健活動に関する研究
慢性疾患をもつ療養者と家族の看護に関する研究、要介護者と家族介護者の在宅ケアに関する研究
在宅療養者と同居する家族介護者の健康支援に関する研究
障害児とその保護者への支援方法の構築に関する研究、重症心身障害児のレスパイト施設の看護師の介護者への援助方法に関する研究、子育て期にある在宅がん終末期療養者に対する訪問看護師による支援
精神科訪問看護に関する研究、地域における専門職間の連携に関する研究
精神障がい者の地域移行・定着支援に関する研究、精神科病院におけるインシデントに関する研究、精神障がい者の園芸プログラムに関する研究
長期入院を経験した精神障害者に関する研究、精神科看護の教育に関する研究
自閉症スペクトラム障害患者・患児への支援に関する研究
認知機能障害への介入とその効果測定、精神疾患患者における地域移行支援推進のための研究、認知機能低下予防に関する研究
看護師のキャリア支援に関する研究、看護教育に関する研究

2.2 特任教員等紹介

職 位	氏 名	担 当	任 期
特任教授	浅 見 洋	アカデミックアドバイザー	平成29年4月 1日～ 平成30年3月31日
特任教授	高 山 成 子	老年看護学	平成29年4月 1日～ 平成30年3月31日
特任准教授	徳 田 真由美	附属看護キャリア支援センター	平成29年4月 1日～ 平成30年3月31日
特任講師	出 口 まり子	附属看護キャリア支援センター	平成29年4月 1日～ 平成30年3月31日
特任助手	樋 口 麻衣子	北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン	平成29年7月18日～ 平成30年3月31日
臨時助教	寺 井 梨恵子	基礎看護学	平成30年3月 1日～ 平成30年3月31日
臨時助手	長谷川 美里	基礎看護学	平成29年4月 1日～ 平成30年3月31日
臨時助手	山 田 ちづる	小児看護学	平成29年9月 5日～ 平成30年3月31日

2.3 教員組織構成（平成30年3月現在）

2.3.1 所属領域・講座と職位構成

学部・センター	講座	計	教員	職位構成				
				教授	准教授	講師	助教	助手
人間科学領域		6(1)	6(1)	3(0)	2(0)	1(1)		
看護専門領域	健康科学	5(2)	5(2)	4(2)		1(0)		
	基礎看護学	8(8)	6(6)	1(1)	2(2)	1(1)	2(2)	2(2)
	母性・小児看護学	9(9)	7(7)	3(3)	1(1)	1(1)	2(2)	2(2)
	成人・老年看護学	12(10)	10(9)	3(3)	2(2)	1(1)	4(3)	2(1)
	地域・在宅・精神看護学	14(13)	14(13)	2(2)	5(5)	1(1)	6(5)	
	附属看護キャリア支援センター	2(2)	2(2)		1(1)		1(1)	
	計	56(45)	50(40)	16(11)	13(11)	6(5)	15(13)	6(5)

() の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.2 職位別年齢構成

単位 (人)

職位	計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
教授	16 (11)			1	5	9	1
准教授	13 (11)			3	8	2	
講師	6 (5)		1	4	1		
助教	15 (13)		5	9	1		
教員	50 (40)		6	17	15	11	1
助手	6 (5)	1	4	1			
計	56 (45)	1	10	18	15	11	1

() の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.3 大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員

単位 (人)

課程	計	研究指導教員	研究指導補助教員
博士前期課程	28(16)	15(15)	13(1)
博士後期課程	15(15)	9(9)	6(6)

() の数字は内数であり教授の数を示す

2.3.4 博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位 (人)

職位	計	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
研究指導教員	15 (11)	1	4	9	1
研究指導補助教員	13 (10)	3	8	2	
計	28 (21)	4	12	11	1

() の数字は内数であり女性の数を示す

2.3.5 博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位 (人)

職位	計	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
研究指導教員	9 (9)	1	1	6	1
研究指導補助教員	6 (2)		3	3	
計	15 (11)	1	4	9	1

() の数字は内数であり女性の数を示す

2.4 職員（平成30年3月現在）

事務局 長	出村 邦夫
-------	-------

<総務課>

総務課 長	松田 敏広
主 幹	澤本 保子
専 門 員	細川 智恵
主 査	新田 嘉一
主任 主事	小林 一生
主任 主事	宮川 泰生
主任 主事	杉本 聡子
主任 主事	平村 孝祐
非常勤 嘱託	岸 恭子
事 務 員	上河原 みゆき

<教務学生課>

教務学生課 長	寺 沢 義 人
専 門 員	納 橋 雅 代
専 門 員	山 岸 吉 輝
専 門 員	松 本 礼 司
非常勤 嘱託	井 上 みなみ
事 務 員	小 倉 智 恵

<附属地域ケア総合センター>

センター 長	(兼)武山 雅志
--------	----------

<附属看護キャリア支援センター>

センター 長	(兼)丸岡 直子
非常勤 嘱託	寺 井 みゆき

<附属図書館>

館 長	(兼)西村 真実子
非常勤 嘱託(司書)	山 本 晃 暢
非常勤 嘱託(司書)	山 村 徹
非常勤 嘱託(司書)	山 田 美 花

3. 中期計画

3.1 第2期中期計画（平成29年度～34年度）における平成29年度計画と実績

3.1.1 平成29年度計画の概略（石川県公立大学法人 平成29年度計画 概要版より）

計画策定の基本的考え方

■平成29年度は第2期中期計画（6年間）の初年度であり、中期計画の3つの柱「大学教育機能の強化」「地域連携・地域貢献機能の強化」「ガバナンス機能の強化」に基づき、現行課題の抽出と対応の方向性および解決策の検討、改善に向けた具体的な実行計画の策定を行う。

重点取組項目	看護大学	
	内容	
I. 大学教育機能の強化 - 社会ニーズに応じた教育の提供 - 学生の学びの質向上	①社会ニーズに応じたカリキュラム改定	・医療現場の多様化・高度化に対応するため、医療機関等へのアンケート調査や臨床教授等との看護教育懇談会等を通して臨床現場の意見を収集し、学部教育の改善に向けたカリキュラムの改定を検討する。 ・大学院において、 <u>新たな高度実践看護師養成課程（質の高い助産師養成課程）</u> の設置に向けた準備を行うとともに、CNS（専門看護師）教育を充実させるための検討を行う。
	②体系的で組織的な教育の実施	・改定した3つのポリシー（※）に基づき、教養教育および専門教育等における科目間のつながりを明確化することで、学生の視点に立つてカリキュラムの体系化を図る。 （※）①卒業認定・学位授与、②教育課程の編成・実施、③入学者の受入れ方針
	③学生の能動的学修の推進	・学生の主体性、課題解決能力を高めるため、地域におけるボランティア活動や異学年交流等を促進するとともに、授業方法の見直し等を行うことでアクティブ・ラーニングの推進を図る。
II. 地域連携・地域貢献機能の強化	④産学官連携の推進	・地域ケア総合センターの機能を活かし、看護職者を対象とした事例検討会や医療機関への講師派遣等を行うことで看護の質向上を図る。また、かほく市・能登町等と連携した健康増進活動や地域住民を対象とした公開講座等を行うことで地域の健康・福祉の向上に努めるとともに、産学官連携の更なる強化に向けた調査・検討を行う。
	⑤学生の地元定着促進	・県内他大学とともに地方創生推進事業（COC+）を推進し、石川県の産業や文化等に関する映像教材を使った「地域指向型教育」を実施するとともに、地域における健康増進活動等を通して地域に対する学生の関心を高めることで、学生の地元定着に努める。
	⑥社会人教育の充実	・看護キャリア支援センターにおいて、現職看護職者のキャリア形成支援を行うため、認定看護管理者教育課程（サードレベル）に加え、新たに認知症看護認定看護師教育課程を開講する。
III. ガバナンス機能の強化	⑦ガバナンス体制の構築	・理事長および学長のリーダーシップの下で戦略的に大学をマネジメントできるガバナンス体制を構築し、大学改革を推進するとともに、大学に求められる社会的ニーズや学生にとっての魅力向上策を分析し、大学の将来を見据えた経営戦略および実行計画を策定する。
	⑧大学間連携の推進	・看護大学と県立大学の合同研究発表会の開催に加えて新たに情報共有の場を設置する等、研究交流の機会を増やすことにより共同研究実施に向けた環境の構築を図るとともに、両大学合同のFD（ファカルティ・ディベロップメント）研修を開催する等、教育交流を推進する。

3.1.2 平成29年度計画の実績の概略

(石川県公立大学法人 平成29年度業務実績報告書の概要より抜粋)

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育課程の充実

(1) 平成30年度 助産師養成課程開設

- ・カリキュラム改訂と文部科学省への設置認可申請
- ・必要人員の確保（教授1名、講師1名、助手1名）
- ・3つのポリシー（ディプロマ、カリキュラム、アドミッション）の改訂

(2) 臨床教授との意見交換会の実施

- ・臨床教授等との看護教育懇談会において、実習先での学生の状況、指導上の気がついた点などについて意見交換を行い、次年度の各領域での教育内容の改善を検討。

(3) 看護学教育モデル・コア・カリキュラムに沿った教育体制の見直し

- ・石川県医療行政担当者や看護のコア・カリキュラムに関する有識者の意見を踏まえ、カリキュラム及び教育組織を見直しの検討を進めた。
 - ①各科目の授業時間数を見直し
 - ②科目間の学修内容の重複などを点検し、整理・統合

2 教育実施体制の充実

(1) 学生による授業評価を活用した授業改善

- ・授業評価結果を教員全体会議で共有

(2) 施設・設備の充実

- ・Wi-Fi環境の拡充（演習室4箇所）
- ・学外からアクセスが可能なデータベース「メディカルオンライン」の導入

3 研究の推進

研究時間確保に向けた委員会組織の見直し

- ・委員会の整理統廃合や委員構成数の削減による業務負荷の軽減

4 地域貢献及び国際貢献の推進

(1) 地域人材の育成

- ・COC+の映像教材（奥能登の医療機関で働く卒業生）を授業等で活用
- ・大学祭で新人看護師が不足している過疎地域の病院等を紹介するブースを設置

(2) 地域貢献事業の推進

- ・大学コンソーシアム石川の「地域課題研究ゼミナール支援事業」への参加
→本学の学生による「老人クラブに入ると健康になれるプロジェクトー健康カフェによる高齢者の社会参加の促進ー」が優秀賞を獲得。
- ・県内市町との連携事業（モールウォーキング等）の開催
- ・地方自治体及び石川県看護協会の委員会委員・講師への就任
- ・県内病院における院内看護研究の指導を担当

(3) 国際交流事業の推進

- ・日中韓看護フォーラムの開催
- ・アメリカ看護研修及び韓国研修の実施

5 学生への支援

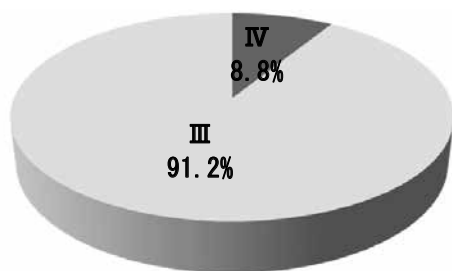
(1) 学生のコミュニケーション能力向上に関する取組み

- ・学生どうしの情報交換会「SOUDAN LABO」の開催（年4回）

(2) 卒業後のキャリア形成支援の充実

- ・ライフイベント（育児など）と看護職の両立に関する卒業生との交流会を開催
- ・同窓会と連携してホームページ、LINEを活用した就職情報提供体制を整備

項目別評価の状況



項目	IV	III	II	I	計
教育	1	23	0	0	24
研究	0	3	0	0	3
地域貢献	1	3	0	0	4
グローバル化	1	2	0	0	3
計	3	31	0	0	34

※ IV…年度計画を上回って実施している。 III…年度計画を順調に実施している。

II…年度計画を十分には実施していない。 I…年度計画を実施していない。

業務運営の改善・効率化に関する目標

1 大学間連携の推進

看護大学・県立大学連携強化

- ・合同FD研修会の開催（8月）
- ・合同研究発表会の開催（8月）
- ・両大学による共同研究（4件）の実施
 - ①椿茶の骨粗鬆症予防に関する研究
 - ②石川県型農福連携（石川ラム）畜産型事業の開発と評価
 - ③複合的アプローチによる農山村地域の持続性評価
 - ④主体的に学ぶ力を育てる授業法の開発

2 学長をリーダーとするガバナンス体制の強化

学長補佐の配置と学長補佐会議の開催

- ・学長補佐会議の設置により、中期計画の現状や教員人事など重要事項に関する審議体制を強化

3 その他業務運営の改善・効率化に関する取組み

経営に関する情報収集及び分析の強化（看護大学）

- ・在学生、卒業生を対象とした新たなアンケート調査の実施
- ・民間業者委託による高校調査の実施

財務内容の改善に関する目標

1 外部資金の獲得

- ・科学研究費補助金新規獲得件数の増加
看護大 前年度比+8件 (H29 : 15件、H28 : 7件)

2 志願者の増加に向けた取り組み

(1) 看護大学

- ・秋季の高校訪問を初めて実施 (石川県 : 13校、富山県 : 10校)
- ・広報冊子「地域包括ケア時代に看護を学ぶなら石川県立看護大学」の作成
- ・高校の進路指導教員との意見交換会の開催

(2) 看護大学・県立大学共通

- ・過年度入試結果及び模擬試験データの分析に基づく広報戦略の策定

自己点検評価及び情報提供に関する目標

1 情報発信の推進

効果的な広報の実施

- ・一般向けの広報活動として、テレビ金沢「ぶんぶんセブン」で大学紹介を放映
- ・志願者向けの広報活動として、看護系情報サイト「ナースナビ」に広報記事を掲載

その他業務運営に関する目標

1 施設設備の整備

施設設備の計画的な更新に関する取り組み

- ・施設設備に関する大学毎の更新計画を策定
- ・教育研究用備品更新費 (20,000千円、運営費交付金) を活用して、老朽備品を更新
- ・情報資産管理システム及び財務会計システムの更新

4. 看護学部看護学科

4.1 理念・目標

4.1.1 教育理念

人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する。

4.1.2 教育目標

1. 豊かな人間性と倫理観を備えた人材の育成
人間の生命、生活を尊重し、人の痛みや苦しみを共に分かち合える温かい心、豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育成する。
2. 看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材の育成
看護専門職として必要な知識、技術を修得し、人々の健康と生活に関わる諸問題に対して、科学的な根拠に基づく判断力と問題解決能力及び看護学研究に関する思考力と創造性を涵養し、看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材を育成する。
3. 調整・管理能力を有する人材の育成
保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協力して行われる看護実践を通して、調整・管理能力を有する人材を育成する。
4. 国際社会でも活躍できる人材の育成
国際的な視野から、健康問題や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる人材を育成する。
5. 将来の看護リーダーの役割を担う人材の育成
社会状況の変化を踏まえ、看護が担うべき役割を展望し発展させるため、自らの研鑽を重ねながら、その資質向上に努め、看護学の発展に寄与し、将来の看護リーダーとなることができる人材を育成する。

4.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験として、一般入試（「前期日程」「後期日程」）、推薦入試、社会人入試を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 大学で学ぶ上で必要とされる基礎学力を身につけている。
2. 人間や生命に関心を持ち、保健・医療・福祉分野で活躍・貢献したいという目的意識を持っている。
3. 周囲の人と協力して物事を進めることができる。
4. 他の意見に耳を傾け、自分の考えを表現できる。
5. 自己学習・自己啓発を継続する意欲がある。

4.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

教育理念・教育目標を受け、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。

1. 看護職として必要な豊かな人間性と倫理観を育成するために、人間科学領域の科目と看護専門領域の科目を統合して学べるように、両者の科目を並行して配置する。
2. 看護職として必要な知識・技術およびそれらの科学的根拠を学ぶことができるように、看護専門領域の科目を健康・疾病・障害の理解、看護の基本、看護援助の方法、看護の実践、看護の発展の順に配置する。
3. 多様な場での多様な対象の健康レベルにあわせた看護実践能力を身に付けるために、人間の成長・発達段階別、健康の維持増進期から終末期にいたる健康段階別、施設内・地域・在宅という看護の提供場所別の看護を段階的に学べるように設定する。
4. 個人・家族・組織・地域の健康課題を解決する能力を育むために、大学の位置する石川県、能登地域を題材にして、文化や自然・暮らしを学ぶ科目、地域の保健・医療・福祉を学ぶ科目、地域の課題を解決しながら学ぶ科目を配置する。さらに、他の地域への応用力を養う看護専門領域の実習科目を配置する。
5. 複雑な状況に対応する能力と、多職種と連携・協働しながら看護の専門性を発揮できる能力を育むために、統合科目を設定する。
6. 将来の多様なキャリア発展の可能性を涵養するために、国際看護、看護マネジメント、政策形成に関連する科目を配置する。
7. 生涯学習能力を養うために、自学自習や討論する機会を積極的に取り入れる。

4.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

卒業までに所定の単位を修得し、看護の基盤を備え、個人・コミュニティ・社会の健康課題の発見と解決に貢献するために、様々な知識や技術を応用し援助する能力と、社会の要請に応じて新たな知識や技術を探求し創造していく意欲や能力を有する者に、学士（看護学）の学位を授与する。

このような能力を修得するためには、以下の学習成果をあげることが求められる。

1. 看護の対象となる人の人権を尊重する姿勢や共感的態度を通して援助関係を形成できる。
2. 人の命や暮らしを理解し、健康課題を科学的根拠に基づいて総合的にアセスメントし、課題解決に向けて適切な看護が実践できる。
3. 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。
4. 看護専門職としての価値観・専門性を生涯にわたり発展させる素地を身につける。

4.2 学部学生の入学・在学・卒業の状況

(1) 入学の状況

①入学定員・収容定員

単位（人）		
入学定員	3年次編入学定員	収容定員
80	10	340

②試験実施日

実施日	
推薦入試・社会人入試	平成29年11月18日（土）
一般入試前期日程試験	平成30年 2月25日（日）
一般入試後期日程試験	平成30年 3月12日（月）

③受験状況等

	単位（人、倍）							
	募集定員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	実質倍率	入学者数
	A	B	B/A	C	C/A	D	C/D	
推薦入試	30	58	1.9	58	1.9	30	1.9	30(30)
社会人入試	若干名	3	—	3	—	1	3.0	1(1)
一般入試前期	40	139	3.5	130	3.3	44	3.0	41(36)
一般入試後期	10	176	17.6	59	5.9	12	4.9	11(10)

() の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 在学の状況（平成30年3月1日現在）

単位（人）						
学 年		1年次	2年次	3年次	4年次	計
在学者数	男性	5	5	4(1)	8(0)	22(1)
	女性	80	78	86(6)	83(5)	327(11)
	計	85	83	90(7)	91(5)	349(12)

() の数字は内数であり編入学者の数を示す

(3) 卒業の状況

①卒業者数 第15期生

単位 (人)

区 分	計	入学年度別卒業者数		
		平成25年度以前 入 学 者	平成26年度 入 学 者	平成28年度 編入学者
卒業者数	81(76)	2(2)	74(69)	5(5)

() の数字は内数であり女性の数を示す

②卒業後の進路状況 第15期生 (平成30年3月31日現在)

単位 (人)

区 分	県 内		県 外		合 計		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
就 職	看護師	48	59.3%	16	19.8%	64 (59)	79.0%
	国公立病院 (独立 行政法人を含む)	38	46.9%	7	8.6%	45 (41)	55.6%
	上記以外の病院	10	12.3%	9	11.1%	19 (18)	23.5%
	保健師	3	3.7%	2	2.5%	5 (5)	6.2%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0 (0)	0.0%
	計	51	63.0%	18	22.2%	69 (64)	85.2%
進 学	大学院博士前期課程	4	4.9%	0	0.0%	4 (4)	4.9%
	養護教諭特別別科	4	4.9%	2	2.5%	6 (6)	7.4%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0 (0)	0.0%
	計	8	9.9%	2	2.5%	10 (10)	12.3%
未 定		1	1.2%	1	1.2%	2 (2)	2.5%
合 計		60	74.1%	21	25.9%	81 (76)	100.0%

() の数字は内数であり女性の数を示す；割合は、総数81人を100%としたもの

③主な就職先 第15期生 (平成30年3月31日現在)

県	内	県	外
	石川県立中央病院		富山県立中央病院
	金沢大学附属病院		富山大学附属病院
	金沢医科大学病院		砺波総合病院
	国立病院機構 金沢医療センター		高岡市民病院
	金沢赤十字病院		福井大学医学部附属病院
	公立松任石川中央病院		名古屋第一赤十字病院
	公立穴水総合病院		聖路加国際病院
	金沢市立病院		三井記念病院
	公立能登総合病院		新百合ヶ丘総合病院
	JCHO金沢病院		国立循環器病研究センター
	市立輪島病院		近畿大学医学部附属病院
	珠洲市総合病院		岐阜県岐南町、長野県高山村保健師 など
	石川県保健師		
	輪島市、能登町保健師 など		

4.3 教育・履修体制

本学の教育は、人間科学領域の5学科目群と看護専門領域の5講座に属する教員が担当します。

領域	学科目群又は講座	科目群	教育内容
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	自己の健康・体力づくりを生涯にわたり実践していくための理論と方法を修得させるとともに、看護の対象者の健康獲得を目指すための知識と技術について教授する。
	人文科学系群	哲学	哲学・心理学的な思考を通して、人間の本質と存在の意義について理解を深めるとともに、看護職者として悩める人を理解し援助するための知識と方法、態度について教授する。
		心理学	
	社会科学系群		人々の生活を支える社会のしくみと人間と社会環境との関わりについて理解を深めさせるとともに、社会科学的視点から保健・医療・福祉・看護が抱える諸問題について教授する。
	自然科学系群	人間工学	人々の生活と環境との関わりや人間と環境との共生について理解を深めさせるとともに、人間の日常生活行動や看護現場での諸問題について人間工学的側面から教授する。
国際・情報科学系群		英語	国際的な視野から健康や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる思考力と語学力を教授する。また、高度情報社会に対応できる基礎力と看護情報の統計処理能力を教授する。
		情報科学	
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	人間の生命現象や身体の構造・機能と心身の健康の保持・増進、疾病・障害の発症と回復のしくみに関する理論と知識、技術を科学的根拠に基づいて系統的に教授する。
		保健・治療学	
	基礎看護学講座	基礎看護学	「看護とはなにか」という看護の概念・本質と看護の基本となる理論と知識・技術、及び看護職者として必要な態度について教授する。
	母性・小児看護学講座	母性看護学	ライフサイクルのうち、妊娠・分娩・出産から思春期にわたる母子とその家族に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		小児看護学	
	成人・老年看護学講座	成人看護学	ライフサイクルのうち、成人期から老年期にわたる対象に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
老年看護学			
地域・在宅・精神看護学講座		地域看護学	地域で生活する個人・家族・特定集団・地域住民全体を対象とした地域看護の特徴を踏まえ、活動の場(学校、職場、在宅、地域全体)とその対象の特性に応じた看護援助、及びライフサイクル各期のメンタルヘルスの課題や精神的な健康問題をもつ対象への看護援助に必要な知識や理論と実践の方法を教授する。
		在宅看護学	
		精神看護学	

4.4 委員会活動

4.4.1 常設委員会

4.4.1.1 教務委員会

委員長：村井 嘉子（教授）

委員：長谷川教授（学生部長）、林教授、垣花准教授、中田准教授、木森准教授、
米田准教授、北山准教授、織田准教授、谷本准教授、金谷講師、中道講師、
寺沢教務学生課長

委員補助：曾山助教、大西助手

事務局：山岸専門員

活動内容：

1. フィールド実習において、課題解決型学習（学生が地域に出て自ら課題を発見し、解決策を提案すること）を継続することで、地域に関する理解を深めるとともに広い視野と人間性の育成を図った。

フィールドワークを通して地域の人々の暮らしや仕事、生活文化、環境を理解する事と共に、スタディ・スキルをゼミの事前学習や現地実習で活用することを意識した結果、実習先での聞き取り調査や質問紙調査を実施したグループが増加した。これによって地域の暮らしを理解するための基礎力を使って思考力を鍛え、自らのフィールドワークを通して実践力を育み、自らの学習課題を明らかにすることができたと考えられる。

2. 「フィールド実習」科目に初年次教育の試みを継続した。

学生のレポート添削や他授業との関連においてレポートの記載形態、論述内容において発展的成果が見られ、また、学生からは大学生として重要で基本的な事柄が学習できたと言う反応が聞かれた。今後、これらの学修内容が定着し学びを進め、深める状況になっているかを追視していく必要がある。

3. 様々な科目や活動（フィールド実習、表現学、看護学演習、看護学実習、卒業研究等）において、自身の学びをまとめ、それを他者に伝え、その反応や評価を得て改善していくことで、プレゼンテーション能力向上の試みを継続した。

フィールド実習報告会は6月21日、ヒューマンヘルスケア報告会は4月5日及び6月21日に実施した。フィールド実習報告会では、各ゼミでの意見交換によって浮かび上がった疑問点について自分で調べ、それを基に実習を通して明らかにすべき内容を実習計画に掲げた。当初の疑問や課題、その結果を発表会で報告し他のグループの仲間より意見を聞いた。また、ヒューマンヘルスケアにおける発表では、海外研修、学童期において学習に課題のある子ども達への学習支援を通して、自分自身の学びや経験、人との関わりの体験の蓄積によって学びを深めたこと、学生個々の取り組みを通して当初の課題から状況理解を深め、自己成長と学びに繋がった報告が多数あった。

4. 異学年の学生グループによるサークル活動や地域ケア総合センター等における実践活動を通して、自主的な問題解決能力や行動力を育むことに努めた。

宝達志水町特定健診・がん検診での骨密度測定（6月18日）、宝達志水町健康づくり推進員研修会での骨密度測定（8月23日）196名参加、かほく市民体力テスト（10月19・20日）に学生を引率し、地域住民との交流を行いながら、地域の人々の健康チェック、健康への動機付け関わりを行っている。保健医療職として人との関わり方、住民の多様性を学び、考える機会となっている（大学HPで公開している）。

5. 各実習科目において市町・保健所・医療機関等との実習指導者と連絡・協働し、看護現場の実態に即した教育を実践する。また、引き続き実習指導者会議を開催した。

保健師教育課程における地域看護学実習について、実習指導者との意見交換を平成28年11月28日県庁会場、及び能登空港会場の2ヶ所において実施した。県庁会場では9施設10名、能登空港会場では5施設5名が出席した。また、産業看護学実習報告会では5施設6名の出席があった。教育方法として地域と職域の関連について具体的なモデル事例を提示し、その展開を学習する、そのモデル事例について考察する視点について教授する等に取り組んだ。この取り組みによって考察内容が深まる傾向が見られた（単年の取り組みでは成果判定は難しい）ことより、今後も継続する。

6. 臨床教授等の任命を継続し、臨床実習をさらに充実させるとともに、看護現場の実態に即した教育を行った。

本学教員と臨床教授等称号付与者との意見交換会を2月21日に実施した。昨年度の意見交換会で出された現場の課題に対するその後の取り組みについて意見交換を行った。また、本年は同日に千葉大学教育センター長 舟島なをみ教授を招聘して『看護学実習再考』をテーマに教育講演会を行った。Ⅰ部意見交換会には77名、Ⅱ部教育講演会には95名が参加した。

7. 英語教育充実に取り組んだ。

授業の中でTOEIC公開テストの予告、また定期・随時試験においては音声を重視した試験を取り入れている。今年度報告のあったTOEIC受験者は、昨年同様5名であった。報告はないが、他にも受験者はいることが推測される。TOEIC受験料が5000円であることが、受験において高いハードルとも考えられる。学生のTOFELやTOEIC等受験支援として、授業外で英語の英語試写会、TOEICのミニ模試等を検討している。

8. 学内カリキュラム改訂班による会議を充実させ、カリキュラム改訂の基本方針や現行カリキュラムの課題抽出および対応策を検討し、新たなカリキュラム策定作業を実施した。

開学後16年が経過して、当時は斬新であった教授内容（科目）がスタンダードとなり、経年的に教授時期が早くなることで科目の学年配当の時期、それらの内容について修正が必要になっている。また、科目間の重複が一部みられること、本学の学生気質を考慮することで、科目の配当年次の再検討、統合実習の在り方、教授内容について修正が必要であることが明らかになった。現在、次年度の早い時期をめざして、重複内容、検討すべき内容と科目を抽出する作業を継続している。

9. 今年度入学生より成績評価方法（GPA制度）を導入し、学生個人の成績、学年集団の学修状況を客観的に把握できるようになった。次年度も継続し学内全体の教育評価につなげる予定である。

4.4.1.2 学生委員会

委員長：長谷川 昇（教授（学生部長））

委員：松原教授、亀田教授、木森准教授、岩城准教授、織田准教授、桜井准教授、市丸講師、米田准教授、林講師、三部講師、寺沢教務学生課長

委員補助：子吉助教、三輪助手、渡辺助手

事務局：納橋専門員

活動内容：

1. 学修意欲の向上・学修支援の充実

- 1) 学生表彰：H28年度は、開学記念式典と卒業式において、それぞれ団体と個人を対象とした学長表彰を行った。H29年度も引き続き、開学記念式典では、第16回「利家とまつ」金沢城リレーマラソンにて上位の成績を獲得した駅伝サークルの活動に対して、学長表彰を行った。卒業式では、成績優秀者と災害ボランティアサークル、サービスマラーニングの活動、津幡町での地域活動、障害者スポーツ活動において、中心的役割を果たした7名を表彰した。H30年度も同様に、成績優秀者や社会貢献などにおいて模範となった団体や個人を表彰することにより、勉学や地域活動などに対する意欲の向上を図る。
- 2) 学修環境の整備：H28年度は、Wi-Fi環境の必要性和PC環境に対するニーズ調査の結果に基づき、大講義室、食堂、図書館にWi-Fi環境を整備し、食堂の喫茶コーナー前にラーニング commons の設置を行った。H29年度は、上述した整備の認知度と利用状況に関する調査を行った。その結果によると、ラーニング commons の利用者は、全体で17.5%と少なかつたため、これらの利用可能な時間や届出方法について検討を開始した。次年度も引き続き、利用状況を改善する方策について検討していく。大学生活に関するアンケート結果によると、大学祭の運営は、主に1、2年生で行われており、進級するに従って参加率が低下していることから、大学祭の企画・立案に対する助言が必要であり、H30年度も学生委員会として引き続き支援する。

H28年度に引き続き、自治会との座談会を行った。その結果、休日の登校、休講の連絡、Wi-Fi使用範囲の拡大、トイレの荷物台設置、パソコンの不具合などについて要望が出された。これらの要望については、委員会で検討を重ね、改善案などを自治会に提案していく予定である。

2. 自学自習能力と自立的な判断力・行動力の育成

- 1) 異学年・卒業生との交流：H28年度は、新入生歓迎会、学習ガイダンスを通し、異学年交流を実施してきた。H29年度も引き続き、3年生が主体となり、4年次の臨地実習に関するアドバイスを聞く目的で、学生セミナーが行われた。卒業生との交流では、開学記念式典において全体交流会を実施した。それぞれ1期から10期までの卒業生に在学時の勉強方法、現在の仕事、育児と仕事の両立についての講演をお願いし、質疑応答を行った。3月には、卒業生を招き、進路決定までの過程や体験談を聞く目的で3年生を対象とした座談

会を実施した。H30年度も引き続き、学生が早期にキャリアイメージを形成できるよう、全学生を対象とした学生セミナー等を開催し、卒業生との交流の機会を設ける。

- 2) 自治会・課外活動への助言：H28年度は、自治会・課外活動・大学祭において学生の自主性を重視しながら自律的に意思決定するように促してきた。H29年度も引き続き、これらの方針を踏襲し、10月28日（土）・29日（日）に、「RENCONTRE（ランコントル）～学生と地域の輪に咲く笑みの花～」と題して大学祭を開催した。準備段階からの支援として、学生委員の中でも自治会・サークル活動担当教員が中心となって、大学祭の企画・立案の会議に同席して助言を行った。本年度の試みとして、講堂をメインステージにして大学祭を開催した。

3. 幅広い教養を深める機会の提供

- 1) 石川コンソーシアムの活用：H28年度は、コンソーシアム石川の活動を紹介し、参加を促した。H29年度も引き続き、入学式ガイダンスや、各学年のガイダンスにおいて、シティカレッジでの単位取得やグローバル人材育成プログラムについて参加を促した。ステップ1の民泊型フィールド実習に本学学生18名が参加した。ステップ3の韓国全北大学研修(3月)に、本学学生11名が参加した。本学教員が講師を務める、シティカレッジでの単位取得者は、前期1名、後期2名で、いずれも社会人であった。
- 2) 外部講師による出前講座：「賢い消費者塾」やチラシ配布などを行い、幅広い教養と学生生活が安全に送れるよう支援した。

4.4.1.2.1 学生相談専門部会

部会長：長谷川 昇（教授（学生部長））

部会員：武山教授（附属地域ケア総合センター長）、川端助教、大江助教、三輪助手、
寺沢教務学生課長、井上囑託

活動内容：

1. 学生支援体制の整備：

- 1) 学生への周知：H28年度に引き続き、リーフレットを活用した学生への学生支援体制の周知を行った。具体的には、学生委員会委員、各学年担任・副担任、学生相談部会員、ハラスメント相談員の研究室と内線番号、保健室担当者と事務担当者の部屋番号と内線番号を記載した「学生支援教職員相談窓口」のリーフレットを4月のガイダンス時に配布し、学生のメンタル面と健康管理の支援を強化した。保護者に対しても、入学時に本体制を説明した。H29年度は、学外からの相談に対して、守秘義務を遵守するために保健室に外線を設置した。
- 2) 学生の相談状況の把握：H28年度に引き続き、保健室教員にも学生相談専門部会に所属してもらい、修学上で課題を抱える学生の保健室での相談状況について把握し、学生相談専門部会員間での情報共有を行った。また、学生相談専門部会員には、実習担当教員も含まれており、臨地実習に課題を持つ学生を把握し、情報を共有した。さらに必要に応じて、学生委員会で修学上課題抱える学生の情報共有も行った。
- 3) SOUDAN LABO：H28年度に引き続き、学生相談専門部会員がオフィスアワー時間を提示し、学生のメンタル面での相談に応じる体制を整えて周知してきた。しかし、H28年度におけ

る実際の相談件数は皆無であった。そこで、H29年度は、先輩からのアドバイスを聴く機会やお互いの悩み事について相談できる場を提供した。第1回は「看護大生の生活情報」(9名参加)、第2回は「試験に向けての勉強のやり方」(9名参加)、第3回は「コミュニケーションについて～基礎実習に向けて～」(8名参加)、第4回は今後のあり方やこれまでの活動に対する感想を聞いた(8名参加)。第5回は、大雪のため開催できなかった。学年や性別に関係なく、学生同士が話しやすい雰囲気を作り、互いの行動を振り返る機会を設け、客観的な自分を知ることは有用であるため、今後も学生が学生を支援するピア・サポート活動を推進していきたい。

4.4.1.2.2 進路支援専門部会

部会長：織田 初江(准教授)

部会員：丸岡教授(学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長)、岩城准教授、桜井准教授、米田准教授、金谷講師、中道講師、川村講師

活動内容：

1. 進路支援

- 1) 4年生に対する進路支援活動は、28年度までの成果を踏まえて、8名のアドバイザー教員による担当制で行った。主たる支援内容は、進路決定への助言や情報提供、履歴書の書き方や面接への助言、小論文の添削等の就職・進学等への助言・指導である。結果、81名中、健康問題により就職を見合わせた1名を除き、全員が就職先の内定や進学先の合格を得た。
- 2) 同窓会との連携により、卒業生の交流会を開催し、新4年生に対して、具体的な就職・進学先の情報を生の体験談とともに得て、進路の希望の具体化を助けるように支援した。
- 3) 早期から看護職としての職業像を描けること、看護職として長く働き続けられることを目的に、全学年への支援を視野に開学記念日に合わせて、同窓会との連携のもとに、看護職として働く先輩たちの体験談に、結婚や出産体験と看護職としての働き方についてを加えて語ってもらうように取り組んだ。

進路支援活動としては、クラスアワーなどを利用して、保健師などの公務員試験を必要とする進路希望者への試験対策に加えて、2、3年生にも早期からのインターンシップ等への参加を促し、将来の職業像を描く助けとなるように、情報の入手方法や申し込み・参加時の注意事項などについて説明を行った。

また、県の人事担当者から県職の保健師採用試験について、希望する学生が直接説明を聞く機会を設けた。

2. 国家試験対策

- 1) 8名のアドバイザーが担当学生の学内の模擬試験結果等を基に、得点の伸び率等を確認しながら個別指導を行った。29年度は、個別指導を強化するため、4月の初回面接に加えて、9月末に、第1回目の学内模試の結果をもとに、学習の進捗状況を確認しつつ、国家試験対策への支援を行った。また12月から1月にかけて、再度必要者を中心に4年生への面接を行い、国家試験合格に向けて支援の強化を図った。

結果、看護師国家試験の合格率は98.7%(全国平均96.3%)、保健師国家試験は82.7%(全

国平均85.6%)であった。看護師試験の不合格者1名に対しては、引き続き、進路アドバイザーおよび教務学生課が支援を図る予定である。

- 2) 学生の希望を基に、夏期休暇期間に疾病障害論、12月～1月に保健師国家試験対策のために補講を行い、学生の基礎的な理解力の強化を図った。ただし、冬期期間の出席者は20～35名と少なく、保健師の合格率は全国平均を下回り（前述）、今後課題を残した。

一方、保健師職としての就職希望者は全員保健師の資格を取得しており、保健師資格への強い動機づけが、なお一層必要ではないかと考える。

- 3) 29年度の国家試験の結果を踏まえて、29年度と同様、4年生には、試験対策への動機づけの強化と、勉強方法へのヒントを得る機会を拡大するため、30年度の4月ガイダンス期間に、試験対策業者による無料出張講義を行う予定である。また、3年生への国試対策への基礎知識の強化を図るため、最も動機が高まる3年後期の実習前に、業者による出張講義（費用は学生の自己負担）を検討している。
- 4) 29年度は、保健師国家試験の合格率が全国平均を下回る結果となったが、不合格となった学生の6割弱は、1月時点での看護師模擬試験の得点率が伸びず、看護師資格の取得に絞らざるを得ず、保健師国家試験の合格に至らなかったと考えられる。

また、近年の保健師教育は、多くの大学等で選択制が導入されており、受験者自身が事前に成績優秀者に絞り込まれている傾向が高く、本学のように全学生に保健師資格までの取得を目指している大学においては、相対的に全国平均よりも合格率が低くなりやすい。

4年次の多重課題に対して、優先順位を適切に判断し、計画的に学習する習慣を身につけていくように、低学年時からの学生への支援方法を検討していく必要がある。

4.4.1.3 研究推進委員会

委員長：大木 秀一（教授（4月～5月））、今井 美和（教授（6月～3月））

委員：村井教授、桜井准教授、米田准教授、林講師、三部講師

委員補助：田淵助教、千原助教

事務局：細川専門員

活動内容：

1. 研究推進に係る会の開催

1) ウェルカムセッション&ワシントン大学研修報告会

開催日時：平成29年5月24日(水) 16:20～17:30 参加者：34名

場所：管理棟1階 地域ケア総合センター研修室

内容および講師：

「LGBT家族の研究から見てきたもの—社会学の観点から—」

三部倫子講師（人間科学）

「ワシントン大学での研修報告」

加藤穰准教授（人間科学）

2) 研究サポート集会

【1回目】

科学研究費補助金や受託研究費をはじめとする外部研究資金獲得に向けて、専門業者による研修会を実施した。

対 象 者：教員および大学院生

開 催 日 時：平成29年7月19日(水) 15:00～16:30 参加者：51名

場 所：教育研究棟1階 大講義室

内容および講師：

「効率的な研究計画調書の構築法を理解する」

「戦略立てに必要なデータとツールの活用を理解する」

ロバスト・ジャパン株式会社

【2回目】

対 象 者：教員

開 催 日 時：平成29年9月22日(金) 11:30～12:00 参加者：37名

場 所：教育研究棟2階 中講義室4

内容および講師：

「科研費申請に関する事務的伝達事項」

平村主任主事(事務局)

3) 平成28年度学内研究助成成果報告会の開催

今年度初めてポスター発表形式で実施した。13課題の発表がなされた。

開 催 日 時：平成29年8月4日(金) 13:30～15:30 参加者：46名

場 所：管理棟1階 地域ケア総合センター研修室

4) 石川県立大学との合同研究発表会の開催

石川県立公立大学法人2大学の学術交流を目的とした研究発表会を実施した。また同時にFD研修会も開催された。

開 催 日 時：平成29年8月8日(火) 15:30～18:05 参加者：41名(本学関係者)

場 所：ANAクラウンプラザホテル金沢 3階 「瑞雲」

演題・講師：

「周産期のグリーフケアに関する研究

～ 流産・死産・新生児死亡で児を亡くした母親・家族へのケア ～」

米田昌代准教授(母性看護学)

「金沢市近郊のクマの生息実態を探る」

大井徹教授(石川県立大学 環境科学科)

「MUA記録法を用いたラット生殖中枢の活動解析」

市丸徹講師(健康科学)

「ビフィズス菌におけるオリゴ糖トランスポーターの機能解析」

阪中幹祥助教(石川県立大学 腸内細菌共生機構学)

2. 研究活動活性化のための実態調査

教員の研究時間確保のため、教育と研究の両立に向けた体制整備を検討することが必要である。そこで、教員個々の研究活動・成果の公表を阻害する要因を把握し、その対策を検討するために、「研究活動を遂行する体制整備のための実態調査」の無記名自記式質問紙調査を行った。

対 象 者：教員

調 査 期 間：7月3日（月）～7月9日（日）

回収率は77%であった。職位、実習期間に関わらず講義演習と大学運営（委員会業務）の活動が多くなされ、研究時間の捻出が課題になっていた。

助教・助手においては、7割前後の者が研究能力不足や研究以外の業務の負担、ワークライフバランスの難しさが自己の研究を妨げていると回答し、研究促進のための工夫ができていないと回答した者が8割近くであった。そこで、助教・助手の研究促進の取り組みが重点課題として挙げられた。

3. 大学全体の研究業績評価

平成29年度外部資金獲得件数については、科学研究費補助金は22件（平成29年度10件採択）、受託研究費等の外部資金獲得件数は4件（すべて29年度採択）であった。また、平成30年度科研費申請割合は、平成29年度と比較して増加していた。次に、平成28年度年報に掲載されている業績（著書・学術論文・学術発表）数を調査したところ、平成28年度業績数は平成27年度と比較して、書籍は増加、筆頭の学術論文（査読あり）は減少、筆頭の学会発表は国内についてはやや増加、国外は同様であった。

4.4.1.4 学内研究助成審査委員会

委 員 長：大木 秀一（教授（4月～5月））、今井 美和（教授（6月～3月））

委 員：小林教授、長谷川教授（学生部長）、丸岡教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長）、瀧教授

事 務 局：細川専門員

活動内容：

本委員会は、学内研究助成全般のあり方の検討と実際の学内研究助成に関する申請書類の審査、報告書の評価、予算案の提案を主たる活動とする。

平成29年度は3回の委員会を開催し、研究成果公表の申請がある場合は随時審査を実施した。平成29年3月に平成29年度学内研究助成（研究プロジェクト）の2次募集を行い、平成29年4月の委員会で4件の課題を採択した。また、平成29年12月には平成30年度学内研究助成（研究プロジェクト）の1次募集を行い、平成30年2月の委員会で7件の課題を採択した。その他に、平成29年度の研究成果公表助成6件（海外渡航費助成3件、学術論文等掲載費助成3件）を採択した。平成30年度に開催される学会に対する学会開催助成の申請はなかった。

4.4.1.5 石川看護雑誌編集委員会

委 員 長：小林 宏光（教授）

委 員：長谷川教授、牧野教授（研究科長）、中田准教授

委員補助：松本助教、大江助教

活動内容：

石川看護雑誌第15巻の編集を行った。総説1編、原著論文6編、資料4編、特別報告2編の計12編の論文を掲載した。本年度は論文投稿区分の変更など投稿規定を大幅な変更を行った。

4.4.1.6 情報システム委員会

委員長：谷本 千恵（准教授）

委員：加藤准教授、米田准教授、市丸講師、林講師

事務局：杉本主任主事（松田総務課長、平村主任主事）

開催頻度：随時

活動内容：

本委員会は本学情報システムの管理・運営、および本学における情報環境の改善を担当している。

1. 新任教職員に対する情報システムの説明（事務局）

4月の新任教職員オリエンテーション時に学内ネットワークシステムの概要とメール設定方法についての説明を行った。

2. 石川県公立大学法人情報ネットワークシステム保守委託業務の作業実績報告会議への出席（委員長、事務局平村主任主事）

開催日：4月14日（金）、7月18日（火）、10月18日（水）、2月16日（金）

開催場所：石川県立大学

石川県立大学と合同で石川県公立大学法人情報ネットワークシステム保守委託業務の作業実績報告を受け、その際に法人本部・両大学・業者の間で意見交換を行った。

3. 情報システムに関する事項の教職員への周知

1) Zドライブ空き容量確保の作業について

7/28 一斉メール（情報システム委員会・事務局総務課）

2) 情報システム機器等更新に係る要望調査・法人本部との調整

8/4 教員全体会議で説明（情報システム委員長）、一斉メール送信（情報システム委員会・事務局総務課）

法人本部との調整（事務局・総務課）

4. 情報システム委員会 3月2日（金） 10:40～11:30

活動報告とまとめ、次年度以降の予定について

4.4.1.7 広報委員会

委員長：川島 和代（教授（兼学長補佐））

委員：武山教授（学長補佐兼附属地域ケア総合センター長）、長谷川教授（学生部長）、丸岡教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長）、濱教授（国際交流委員長）、西村教授（附属図書館長）、牧野教授（研究科長）、中田准教授、出村事務局長

委員補助：山崎助教、千原助教、瀬戸助手

事務局：宮川主任主事

活動内容：

1. 委員会開催

年6回開催、広報戦略について大学の役職者らによる提案を活かした広報活動を検討した。

2. オープンキャンパス

1) 第18回 平成29年度 オープンキャンパス2017の企画立案・準備・実施

夏：開催日時 平成29年 7月15日（土）10：00～14:00 参加者393名

看護系の実習室、スキルラボ、人間機能学実習・実験室の紹介を企画した。それぞれの領域・講座において例年とは異なる新企画を工夫して授業風景を紹介した。

相談コーナーは例年同様、学生主体で企画した。

秋：開催日時 平成29年10月28日（土）9：30～12:00 参加者107名

例年同様、大学紹介と入試準備セミナーを実施した。

2) 第19回 平成30年度（2018年）オープンキャンパスの検討

日程 夏 平成30年7月14日（土）、秋 10月27日（土）午前 開催予定

3. キャンパスネット IPNU（大学新聞）

1) 第32巻 2017. 10の企画立案・編集・発行

メインテーマは石川県立看護大学の国際交流事業&助産師養成課程新設のキックオフ事業『日中韩看護フォーラム』を取り上げた。また、開学記念行事や新たな学生サークル（演劇サークル・子育てボランティアひよっこ等）の紹介、認定看護師として活躍し始めている卒業生にインタビューした記事をトピックスとした。

2) 第33巻 2018. 3の企画立案・編集・発行

メインテーマは国際貢献事業「石川県立看護大学が取り組む国際貢献：JICA北陸採択事業青年研修」とし、タイ王国から見えた14名の研修生の研修の様子を取り上げた。また、新石川県立中央病院探訪においては新築された石川県立中央病院で実習している学生の様子、北國健康生きがい支援事業で教員の研究・社会貢献の公開講座などを取り上げて掲載した。

4. ホームページの充実

1) ホームページの運用・・・昨年に継続して各委員会や事業担当者の中でHP担当を定め、随時事業内容をHPアップに努めた。

2) 新着情報コーナーの変更・・・昨年に引き続き、新着情報を見えやすい工夫を行った。

3) 教員用HPの立ち上げ・・・武山研究室、母性・小児看護学講座、成人看護学講座の運用を見守りつつ、さらに新規立ち上げ希望を確認した。

4) 大学紹介・学生生活紹介用のDVDに関する方法の検討・・・5分程度の短いDVDを作成してはどうかとなり、作成に必要なパソコンや動画ソフトの購入の準備をすすめた。

5. 外部の広報媒体の活用

テレビ金沢による「ぶんぶんセブン」に本学の学生や教員が紹介番組に出演した。平成29年12月3日（日）7:00～7:30に放映された。石川県が運営する看護情報サイトのナースナビへの掲載が決定し、石川県立看護大学の特徴的な授業風景の撮影、学生・教員のインタビューを行った。

6. 大学案内（学部・大学院）

- 1) 2018（学部・大学院）の企画立案・編集・発行 大学院生の写真撮影を行った。
- 2) 2019（学部・大学院）の企画立案・編集

7. 大学コンソーシアム石川

1) 情報発信部会

- ・第1回 平成29年 5月12日（金）委員長出席
- ・第2回 平成29年 10月25日（水）欠席
- ・第3回 平成30年 1月10日（水）委員長出席

2) 事業内容

- (1) 広報事業：「大学コンソーシアム石川概要」、「石川の大学ガイドブック」等、発行協力
- (2) 石川県高大連携セミナー事業
- (3) 出張オープンキャンパス事業 担当講師の調整と依頼、実績は県内3校、県外2校
- (4) 学都石川情報発信事業
県外進学説明会
高校訪問 本学は受験生や在学生のいる高校訪問 栃木県、群馬県、千葉県6校

8. 学生広報委員活動のサポート

- 1) オープンキャンパス 学生の意見を取り入れた運営に取り組む、アンケート実施
- 2) 石川県の大学のガイドブック 本学の学生広報委員会の学生を起用、
- 3) 高校生向けの広報チラシを学生広報委員会の協力を得て『MyColor』を発刊した。

9. メールマガジン登録システム構築

メールマガジンへの登録を呼びかける。3月末現在99名登録
毎月、掲載したい内容について事務局担当者が募集、メールマガジンの内容充実が課題

10. 海外研修時の受け入れ先やMOU締結大学等への訪問時用の大学広報Goodsの活用

昨年度作成した広報Goodsを有効活用継続、平成30年度には新規の希望あるが、予算獲得が課題。

11. 高校訪問時に活用するPRチラシ『地域包括ケア時代に看護を学ぶなら石川県立看護大学』を作成し、活用した。更に、高校教員に関心を持ってもらえる広報が今後の課題。

12. 平成29年度広報委員会活動総括

平成29年度は2年間の委員会の活動計画に従って活動した。新たな広報戦略は試みたが、魅力あるHP等の改訂には至らず、教員の活動のPRや学生の授業や課外活動を伝える有効な大学広報戦略に向けてダイナミックな活動が期待されると考える。

広報委員会は役職者が中心で企画案や広報活動の周知、原稿執筆などには機動力があるが、実際の作業や準備などの広報活動には事務局の負担などが大である。HP作成やDVD作成に秀でた部署・スタッフの確保が課題である。

4.4.1.8 入学試験委員会

委員長：石垣 和子（教授（学長））

委員：武山教授（附属地域ケア総合センター長）、長谷川教授（学生部長）、濱教授、
牧野教授（研究科長）、林教授、垣花准教授、中田准教授、出村事務局長

事務局：松本専門員

活動内容：

1. 前年度の実績および問題点・課題等

前年度は委員構成・事務局メンバーが変わり、確実かつ円滑な入試の実施を担保することに気がつけた。その結果、各入学試験の学生募集、実施準備、当日運営、合格発表にいたる一連の事務作業は堅実に行なえた。

2. 今年度の目標

- 1) 各入学試験の募集、実施準備、当日運営、合格発表にいたる一連の事務作業を確実・円滑に実施する。
- 2) 県内及び近隣県に看護系大学の増加が見込まれることから、受験生の確保に留意する。
- 3) 作問体制について作問委員に周知し、適切な作問、採点を保証する。
- 4) 高大接続改革に伴う入試改革を行うための情報を収集する。
- 5) 入試評価に必要なデータを集め評価する。
- 6) その他の入試委員会が担当する作業を確実に行う。課題を発見し、その解決につなげる。

3. 今年度の活動内容・その評価

- 1) 各入学試験の募集、実施準備、当日運営、合格発表にいたる一連の事務作業はほぼ円滑に実施できた。新たな委員構成での委員会活動も2年目に入り順調であった。
- 2) 県内に看護系大学が新たに開設されたが、受験生数及び合格者の入学手続き率も通常と変わらなかった。次年度には隣県にも開設予定があり、気持ちの引き締めが必要である。
- 3) 今後の受験生の確保には広報委員会、教育研究審議会と連携し、高校訪問やチラシ作成、ホームページの改善が必要である。
- 4) 入試改革WGと連携して高大接続入試改革に対応する必要がある。それには正確で最新の情報が必要であるが、平成29年度は主として情報収集に力を入れた。
- 5) 作問体制について作問部会長が試験ごとの作問委員長を支援しながら作問にあたった。問題作成の時間管理が予定通りに運ばず、問題印刷、封入などにおいて、作問部会長にしわ寄せが行く状況が生じた。

- 6) 高大接続改革に伴う入試改革を行うため、高校の進路指導教員との意見交換会を開催し、時間不足ではあったが有意義な意見交換ができた。

日 時：2017年8月8日

場 所：石川県立看護大学大会議室

参加者：24校の高校教員、大学の入試委員

- 7) 助産師養成課程が大学院に新設されたことを受け、学内選抜及び学外選抜を新たに行なった。

4. 次年度以降に向けた課題・発展

- 1) 作問部会長の負担を軽減する。
- 2) 文部科学省の主導のもと、高大接続改革に伴う入試改革が具体化されようとし始めているため、さらなる情報収集が必要である。
- 3) 次年度から、助産師養成課程の学内選抜に加えて助産に限定せず博士前期課程の学内選抜を行なうことを決めた（研究科委員会）。それによって入試の機会が増えることから、実施体制を見直して安全・確実と実施負担のバランスを取る必要がある。
- 4) これまでこの委員会とは切り離して行なってきたキャリア支援センターの入試の実施体制をこの委員会で扱ってゆく方向性で検討する。

4.4.1.8.1 入試実施部会

部 会 長：非公開

部 会 員：非公開

活動内容：

1. 看護学部入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
2. 研究科入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
3. 大学入試センター試験の会場準備・実施体制およびそれに付随する業務

4.4.1.8.2 入試評価部会

部 会 長：非公開

部 会 員：非公開

活動内容：

以下について検討した。

1. H28年度卒業生の選抜方法と入学後の成績との関係に関すること
2. H28年度およびH29入学生の選抜方法と修学状況との関係に関すること
3. H28年度およびH29入学生の選抜方法のうち面接評価方法と修学状況との関係に関すること
4. 全国の国公立看護系大学の入試選抜方法のうち面接試験に関すること

4.4.1.9 自己点検・評価委員会

委 員 長：石垣 和子（教授（学長））

委 員：浅見特任教授（アカデミックアドバイザー）、武山教授（附属地域ケア総合センター長）、多久和教授（年報部会長）、大木教授（公大協研究員）、長谷川教授（学生部長）、丸岡教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長）、西村教授（附属図書館長）、

牧野教授（研究科長）、村井教授（教員評価部会長）、川島教授（学長補佐）、林教授（FD
委員長）、出村事務局長

委員補助：田村助教、金子助教、南堀助教

事務局：平村主任主事

活動内容：

1. 前年度の実績及び問題点・課題

- 1) 自己点検評価報告書の骨子を作成し、分担して執筆した。（評価対象年:H27年度、発行年:H29年夏）
- 2) 次の認証評価受評の準備（評価対象年:H30年度、資料執筆及び提出:H30年度、現地調査:H31年度）（大学基準協会による受評を予定）
- 3) 学生による授業評価の活用の検討
- 4) 職位ごとの教育力、研究力の標準化の検討開始
- 5) 複数年にわたる教員の個人評価方法及びそのフィードバック方法の検討を開始した。

2. 今年度の活動とその評価

- 1) 計画的に議題を調整し、隔月に委員会を開催した。
- 2) 認証評価年（7年ごと）だけに行ってきた自己点検評価を隔年に行なう方針に変更したことを受け、28年度を対象とした自己点検評価報告書を作成した。報告書作成に終わり、点検するには至らなかった。29年度が認証評価年に当たるため、この報告書を活用して大学基準協会に提出する報告書を作成することとした。
- 3) 教育の内部質保証への取り組みが求められる社会的状況に鑑み、教育の受け手から授業や学生支援の評価を得るため、在学生アンケート・卒業生アンケートを作成した。年度末の2月に全在学生にWeb調査協力を依頼したが、回収率が悪かったため、次年度に延長することとした。卒業生アンケートは紙媒体調査に切り替えて次年度に行なうこととした。
- 4) 休止中であった部会（教員評価部会、年報部会）を復活させて2年目となり、教員評価部会は従前の評価のプロセスを改善の上、進行管理しつつ、複数年評価の案を作成して委員会の審議にかけた。年報部会は自己点検評価報告書を通常の年報記事に合体させて年報を発行した。

3. 次年度以降に向けた課題

- 1) 認証評価受診のための自己点検評価報告書の作成
- 2) H29年度から石川県公立大学法人が打ち出したIRの充実を受け、本委員会で検討してきた実績や評価の数値化をそれに充てる。
- 3) 教育の質保証のための調査の方法や項目の改善、調査結果の評価
- 4) 職位ごとの教育力、研究力の標準化の検討と教員の複数年評価の試行

4.4.1.9.1 教員評価部会

部会長：村井 嘉子（教授）

部会員：今井教授、林教授、松田総務課長（適宜参加）

活動内容：

平成28年度の教員評価の実態について精査、その過程における課題の対応策について検討し、全学的に周知し、平成29年度評価を実施した。一次評価結果に対する不服申し立て関わる再評価報告書のフォーマットを作成し、再評価の実態が明確になるようにした。

平成28年度実施に引き続き、教員活動評価の複数年評価を採用している公立大学の情報収集を行い、それを土台に本学の教員活動複数年評価を採用する内容（案）を作成した。次年度に複数年評価に関する事項を確定し、平成32年度より試行できるように準備する。

4.4.1.9.2 年報編集部会

部会長：多久和 典子（教授）

部会員：塚田准教授、川村講師

事務局：平村主任主事

活動内容：

平成28年度の年報 第17巻を発行した。また、平成29年度年報の編集作業を迅速化するため、昨年改定した教員研究活動記録の記入にあたっての留意事項を確認し、委員会報告等のフォーマットをわかりやすく表示して周知した。

4.4.1.10 FD委員会

委員長：林 一美（教授）

委員：多久和教授、加藤准教授、木森准教授、北山准教授、金谷講師

委員補助：曾山助教、松本助教

事務局：松本専門員

活動内容：

1. FD研修会

FD研修会は前期1回、「第1回石川県立大学との合同FD研修会」を学外で開催した。

1) 学外FD研修会

(1) 第1回FD合同研修会

8月8日に本学と県立大学主催FD合同研修会を「学生の学びを活かす授業改善」のテーマでおこなった。本学からは30名の教員参加者があった。両大学教員が合同でグループワークを行い、授業改善に関する意見交換を行った。研修会アンケートでは、研修内容について94%が満足・やや満足、今後の活用については、77%が活用できるという結果であった。

(2) FDに関する他大学等の先進的取り組みの情報収集

①初年次教育学会主催「医歯薬看護系におけるアクティブラーニングの実践と展開」のパネルディスカッションにおいて、本学実行委員会（FD委員会・教務委員会）が運営した。本学の取り組みを報告するとともに、県内医歯薬看護系4大学の関係者と情報交換・共有を図った。

②日本看護系大学協議会（JANPU）主催「実習指導にあたる教員のFD企画ワークショップ」や玉川大学主催「学習成果の可視化とFD活動」に出席したFD委員が、FD委員会で伝達講習をして、今後のFD活動について検討をした。

2. 授業評価アンケート結果の検討

H28年授業評価結果の授業評価の評点1・2の低得点の分布を、H29年度4月の教員全体会議で提示し、教員全体に前期授業改善を呼びかけた。後期は引き続き、授業評価の評点1・2の低得点の分布を前期と後期を比較した。その結果は、授業について、理解の低い学生は減っているが、授業の進め方については改善が見られなかった。教員全体会議で結果提示をした後、学生に授業改善についての聞き取り調査をした。聞き取り内容をまとめ、全学教職員にメール配信した。教員に対しては、聞き取り内容のまとめをもとに大講座毎に「教育改善」に関する意見交換をおこなうよう依頼した。

3. 新任教職員オリエンテーション

29年度新任教職員 6名に対し、2回にわたりオリエンテーションを実施した。

4.4.1.11 ハラスメント委員会

委員長：石垣 和子（教授（学長））

委員：小林教授、丸岡教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長）、
西村教授（附属図書館長）、阿部准教授、谷本准教授、出村事務局長

相談員：武山教授（附属地域ケア総合センター長）、川島教授（学長補佐）、中田准教授、
塚田准教授

活動内容：

1. 前年度の実情及び問題点・課題

前年度はハラスメント事案が発生し、会議を3回開催して調査・審議を行ない、グレーゾーンであると結論付けた。申し立て者への支援と、被申し立て者の自覚と改善を今後見守る必要がある。

2. 今年度の目標

- 1) ハラスメントを予防するような学習環境、職場環境を醸成し、前年度のような事案の発生を予防する。
- 2) ハラスメント事案が発生した場合には、ハラスメント防止規定に従い、適切に対応する。
- 3) ハラスメント防止規定の見直しを行い本学にふさわしいハラスメント防止規定を作成する。

3. 今年度の活動内容・その評価・次年度に向けた課題

- 1) 委員会に対するハラスメント申し立てではなく、ハラスメント相談員、学生相談員を交えた拡大委員会を3月に開催してハラスメントの現状についての情報交換を行なった。
- 2) ハラスメント相談員、学生相談員にも特には相談がなかったことが明らかになった。
- 3) 申し立てはなかったが、1事例について複数の相談がハラスメント委員に寄せられたことを受け、そのようなタイプのハラスメント（教員⇒学生）を防止するためのチラシ作成を提案し、内容を検討した。継続して検討することになった。
- 4) 「石川県立看護大学キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規程」の見直しについては次年度に検討することとなった。

4.4.1.12 情報セキュリティ委員会

委員長：今井 美和（教授）

委員：加藤准教授、北山准教授、川村講師、出口特任講師、曾根助教、渡辺助手

事務局：澤本主幹

活動内容：

1. 情報セキュリティに関する研修の実施

1) 新任教職員対象 4月3日

「石川県公立大学法人情報セキュリティーポリシー（平成24年1月）」「情報セキュリティに関する10ヶ条 2009.6.11」について説明した。

2) 全教職員対象 11月29日

「石川県公立大学法人情報セキュリティーポリシー（平成24年1月）」「情報セキュリティに関する注意事項、簡単なパソコン操作、用語」について説明した。さらに、「情報セキュリティの問題事例とその対応」を紹介し、「Windows Updateの自動更新の設定」を依頼した。

2. 情報セキュリティに関する注意事項の検討

- 1) 日常的に教職員や学生の情報セキュリティ対策の意識を高める目的で、「石川県公立大学法人情報セキュリティーポリシー（平成24年1月）」や「本学情報セキュリティ問題事例と対応の報告」「情報セキュリティに関する設定状況の報告」に基づいて標語の作成を検討した。

4.4.1.13 コンプライアンス委員会

委員長：多久和 典子（教授）

委員：牧野教授（研究科長）、林教授、木森准教授、出村事務局長

事務局：納橋専門員

活動内容：

倫理委員会との連携の重要性に鑑み、研究倫理研修会を両委員会共催により7月6日（木）に開催した（参加者：教員及び大学院生計53名）。平成29年4月よりCITI Japanから事業を継続したAPRIN（Association for the Promotion of Research Integrity:一般財団法人公正研究推進協会）に本学は法人本部を通じて引き続き機関登録しており、新任教員の受講を確認するとともに大学院生に受講を奨励し、さらなる研究倫理の推進を確認した。なお、学生については、委員会で協議した結果、APRINへの登録を見送ることとなった。

4.4.1.14 倫理委員会

委員長：牧野 智恵（教授（研究科長））

委員：今井教授、長谷川教授（学生部長）、加藤准教授、中田准教授、塚田准教授、外部委員（9名）

事務局：杉本主任主事

活動内容：

1. 委員会開催状況

- 1) 平成29年度も学長が委嘱した2名の外部委員の参加を得て、計11回の委員会を行った（1回の委員会に2名の外部委員が出席）。
- 2) 今年度は、個人情報保護法等の改正に伴い、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の一部改正が平成29年5月30日施行となったことから、主な改正点を確認した。
主に、本学の倫理申請書と審査基準の見直し、研究データの保存方法、対応表の作成と提出先の検討、迅速審査の申請方法・審査基準の作成について委員会で数回にわたり検討し、学外講師による研修会を実施するとともに、共有フォルダーに各書類を設置し倫理審査の環境を整えた。また、学外からも本学の倫理審査についてわかるよう、本学のホームページへの各書類のアップを検討し、次年度早々に整備することとした。
- 3) 平成29年度の通常申請数は、教員 18件、前期課程生 10件、後期課程生 6件、卒業論文 21件、迅速審査12件(3件減)で合計 67件であった（H28年度は59件）。審査の結果は、承認20%（昨年9%）、条件付き承認73%（昨年84%）、変更の勧告5%（昨年7%）、不承認0%（昨年0%）、非該当2%（昨年0%）であった。条件付承認は、修正された申請の再審査で、90%が承認となった。
- 4) 平成29年7月6日(木)にコンプライアンス委員会と合同研修会を開催した。本年度は、まず、個人情報保護法の改正に伴い、変更の内容について、学外の講師を招き講演を実施し、その後、申請書の修正箇所の説明と今年度記入漏れの目立つ箇所を示し、本学教員および大学院生（計53名）に説明した。
- 5) 新年度に向けて、卒業研究や大学院生の申請がスムーズに実施できるように、「倫理審査申請書提出の際の注意事項」を共有フォルダーに置き、メールで教員に周知した。
迅速審査の対象を次の2点とした。①研究計画書の軽微な変更に関する審査（調査期間・施設の変更、対象人数の拡大その他）、②卒業研究のうち、本学の学生・教職員を対象とし、精神的侵襲を伴わない調査書を用いた研究。
- 6) 委員会開催中の待機について審議し、メールで教員に周知した。
倫理審査の際、申請内容について説明を求める場合があるため、研究代表者または共同研究者は、倫理委員会開催予定時間内は必ず連絡のつく場所で待機してもらうこと。また、学外にいる場合は、提出書類のみでの審議とし、書類不備の場合は「変更の勧告」となる場合がある旨をメールにて周知した。

4.4.1.15 衛生委員会

委員長：今井 美和（教授）

委員：大木教授、川村講師、川端助教、子吉助教、出村事務局長、井上囑託、中川産業医
事務局：平村主任主事

活動内容：

1. 職場巡視

6月21日（水）、11月8日（水）、3月14日（水）に校舎の設備や衛生状態について職場を巡視した。
なお、巡視前には職員からもメールにて情報を収集した。

2. 定期健康診断

「教職員保健だより」やメールにて職員に受診を勧奨し、受診状況を調査した。

3. 時間外労働

7月に職員に労働時間に関する質問紙調査を行った。その結果、時間外業務時間の増加、休憩時間を確保できない割合の増加、年休取得率の低下、振替休日の取りにくさ、健康不安の増加、労働時間や仕事と生活のバランスに対する満足度の低さなどがみられた。衛生委員会では「自分の時間外労働について考えよう 働き過ぎて疲れていませんか？」のリーフレットを改めて職員に周知した。

4. ストレスチェック

法人の指示に従い、7月にストレスチェックを実施し、職員に受検を勧奨した。

5. 消防体制と避難訓練

- 1) 本学の消防体制の整備は、衛生委員会ではなく防火管理者を中心に行うものである。衛生委員会においては防火管理者の管理のもとで消防避難訓練を行うことを確認した。
- 2) 消防避難訓練（地震対応訓練を含む）の実施 7月18日（火）
学生及び職員約330名が参加した。

6. 敷地内全面禁煙

禁煙宣言から1年経った6月30日（金）にメールにて職員に再度周知した。

7. 労働安全衛生研修会の実施 11月29日（水）15：00～16：00

「労働安全衛生についての取り組み」「職場巡視報告・職員定期健康診断受診状況」「労働時間に関する実態調査」について報告し、中川産業医が「食事について」の講演を行った。

8. 環境マネジメント活動

公立看護単科大学の活動状況を調査した。

4.4.2 特設委員会

4.4.2.1 大学改革委員会

委員長：丸岡 直子（教授（学長補佐兼看護キャリア支援センター長））

委員：牧野教授（研究科長）、村井教授、出村事務局長

活動内容：

1. 今年度の活動内容

今年度は、学部カリキュラム改訂班、大学院・専攻科検討班、教員組織改編班の検討内容の情報交換を行うことを中心に活動し、3班の検討状況を確認した。

学部カリキュラム改訂の検討が進められ、その内容の理解をより深めるため教員全体会議で進捗状況を説明する機会を設けた。

教員組織改編は学部・大学院カリキュラムの改訂と連動するため、学部カリキュラム改訂班と教員組織改訂班を合体した組織編制とすることを提案し、次年度から大学改革委員会は2班で検討をすすめることとなった。

2. 次年度以降に向けた課題・発展

引き続き、2班の検討内容や改訂にむけた進捗状況の情報交換を行う。

4.4.2.1.1 カリキュラム改定班

班 長：村井 嘉子（教授）

班 員：長谷川教授（学生部長）、小林教授、垣花准教授、中田准教授、木森准教授、
北山准教授、織田准教授、桜井准教授、谷本准教授、市丸講師、金谷講師、中道講師
事務局：山岸専門員

活動内容：

本委員会では、平成31年度からの学内カリキュラム改訂をめざして、平成28年から今年度末までに会議を継続し、改定案を作成した。その過程において3ポリシーとの整合性の検討、『看護学教育モデル・コア・カリキュラム』を参考にした。各分野、各科目の位置づけ、必修科目及び選択科目のバランス、看護師保健師養成指定規則、本学の学生課題の解決の対応策、卒業単位数などについて、丁寧に検討した。

今後、時間割構築、学修が遅れている学生（過年度生）への対応等、平成31年度よりスタートできるように計画的に検討を行った。

4.4.2.1.2 大学院・専攻科検討班

班 長：牧野 智恵（教授（研究科長））

班 員：西村教授（附属図書館長）、林教授、濱教授、亀田教授（9月から）、塚田准教授、
石川准教授、米田准教授、曾山助教、松本助教、大江助教

事務局：寺沢教務学生課長、納橋専門員

活動内容：

1. 大学院助産師養成課程新設の準備

1) 大学院助産師養成課程の検討WGによる、申請書類の検討

(1) 大学院での助産師養成課程の立ち上げに向けて、昨年度に引き続き検討を行った。メンバーは、委員長（牧野教授）、濱教授、西村教授、米田講師、曾山助教、寺沢課長、納橋専門員とした。なお、9月からは、助産師養成課程を中心的に担う亀田教授にも参加いただいた。

(2) 平成30年春からの教育開始に向けて準備を行った。法人本部および県との調整を図りながら、12月下旬から本格的に急ピッチでWGによって申請書作成の準備を行った。

(3) 文部科学省への申請および、教育環境の調整

学長、研究科長、教務学生課長、濱教授、亀田教授を中心に、申請書類の作成を行った。7月に文部科学省からの正式な設置の承認が届き、その後は、シラバスの作成、実習施設への最終調整、非常勤講師の調整、学内院生室・実習室の整備にとりかかった。

2) 入試方法の検討

大学院助産師養成課程で、優秀な入学者を確保するために、どのような入試方法が必要かについても検討し、研究科委員会での審議を依頼した。

2. 大学院でのプライマリー NPのニード調査および意識化

1) WGでの検討

昨年度に引き続き、本学大学院でのプライマリー NP教育の必要性について、WGを立ち上げ、検討した。WGメンバーは、林教授、石垣学長、牧野教授、塚田准教授、桜井准教授、石川准教授、松本助教、大江助教である。今年度は、3回（8月、12月、3月）の班会議を行った。内容は、学長裁量による研究で「大学院プライマリケア看護カリキュラム構築のための基礎研究」の結果を受け、今後、能登地域でのNPの必要性やどのように行政等の理解を得るか、また、どのような分野の教育を行うかについて検討を行った。本学では「精神看護に力を入れたNP」を輩出する方向で考えていくこととなった。今後は、何をどのくらい特徴付けていくか、科目をどうするかを考えていく。

4.4.2.1.3 教員組織改編班

班 長：丸岡 直子（教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長））

班 員：武山教授（附属地域ケア総合センター長）、西村教授（附属図書館長）、
牧野教授（研究科長）、村井教授、林教授、中田准教授、田淵助教、金子助教、千原助教、
大西助手、浅見特任教授

事務局：杉本主任主事

活動内容：

1. 前年度の実状および問題点・課題等

魅力ある大学の将来を実現するための検討ワーキンググループとして班が編成され、その目的を班員と共通理解することから検討を始めた。教員組織の改編は、学部カリキュラムの改訂や高度実践看護師育成を中心とした大学院の新たな研究教育分野の検討と密接に関連するため、他の2つの班の動きおよび、医療・福祉の動向や看護学教育の動向にも注視していくことを課題とした。

2. 今年度の目標

今年度も、引き続き学部カリキュラム改訂班と大学院検討班の動向を注視していく。さらに、平成24年度の大学基準協会における大学認証評価における教員組織に対する評価内容において、大学が求める教員像や教員組織の編成方針の策定を望む指摘がなされており、引き続き検討する。

3. 今年度の活動内容・その評価

1) 求める教員像の検討

教育理念・教育目標およびカリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーの則った教育に向き合う姿勢、専門領域にふさわしい教育力とその向上、大学運営・大学改革への貢献などの内容について検討した。

2) 教員組織の編成方針の検討

法令や規程に準拠し、学部・大学院の3ポリシーを実現するための教員組織であること、教育研究の責任の所在が明確であり、その水準を維持向上できること、教員の業績を適正に評価することなどを盛り込む編成方針を確認した。

- 3) 求める教員像(案)および教員組織編成方針(案)を教育研究審議会での審議依頼を行った。
- 4) 教員組織の構成に関する検討
学部カリキュラムの改訂も検討段階であり、具体的な組織改編への検討には至っていない。

4. 次年度以降に向けた課題・発展

- 1) 「求める教員像」および「教員組織の編成方針」は教員組織改編班として内容をまとめ、学内の合意がすすめ、公表する。
- 2) 次年度には、学部カリキュラム改訂が具体化することが見込まれることから、その内容が達成できる教員組織について検討する。

4.5 平成29年度 卒業研究論文題目一覧

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目
人間科学領域 (13人)	池本美有紀	タッチングに関する研究で明らかとなった課題についての文献レビュー
	梅村 遥	歩く健康づくりが高齢者の形態や体力に及ぼす短期的な効果
	笠井 桃花	近年米国で行われている乳がん検診受診率の向上に向けた取り組みについての文献検討
	角村 莉奈	精神疾患をもつ患者が地域で家族とともに暮らしていくための支援
	北野 来弥	児童虐待防止マニュアルの内容分析—養護教諭の視点から—
	木村 將太	農業を生業とする中山間地域に住む高齢者の健康状態—歩行能力に関連する因子に焦点を当てて—
	西村 陸	路面性状の違いによる歩行中の膝への衝撃加速度の変化
	平光 水城	路面の性状によるウォーキング効果の違い
	藤崎 真実	中強度以上の身体活動量が高齢者の全身持久力に及ぼす影響
	本江 優香	外国人看護師候補者受入れ制度の現状と課題
	益谷 友佳	沈黙時間と友人関係のあり方が沈黙の捉え方に及ぼす影響
	山田 志織	わが国の看護分野における脳死臓器移植に関する研究
	若狭 淳美	救急領域における終末期患者家族に対する看護師の支援についての文献検討
健康科学領域 (13人)	加藤 美里	看護系女子大学生が行った女子高校生への子宮頸がん予防啓発活動2017の効果—1年生の分析—
	飯田真一朗	看護学生のコミュニケーション能力の実態
	井上 舞香	性周期に伴う嗜好性の変化と睡眠との関連性
	垣内 文菜	性周期に伴う嗜好性の変化と月経痛との関連性
	加藤 英里	性周期に伴う嗜好性の変化とエネルギーバランスとの関連性

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目
健康科学領域 (13人)	桑原まりあ	看護系女子大学生が行った女子高校生への子宮頸がん予防啓発活動2017の効果—啓発活動2015または2016を経験した2年生と3年生の分析—
	塩谷 咲希	三次元マトリクス環境が筋芽細胞の分化に及ぼす影響についての研究
	階戸 瑠奈	看護学生のご生活習慣とセルフケアの認識と実態
	中川 拓哉	新人看護師の継続した二交代制勤務のための援助についての文献検討—三交代制勤務との比較と今後の課題—
	濱 一稀	看護系女子大学生が行った女子高校生への子宮頸がん予防啓発活動2017の効果—啓発活動2015および2016を経験していない2年生と3年生の分析—
	筆 奈緒子	筋細胞の分化におけるビタミンDの効果—二次元・配向性を有する3次元シャーレ上での培養条件での検討—
	前田 野衣	コラーゲンが筋芽細胞の分化に及ぼす効果について
	山本真菜美	看護大学生の自己効力感の実態と必要とされる支援
看護専門領域 基礎看護学 (11人)	太田美紗貴	懐かしい音楽の聴取が脳活動に及ぼす影響
	光林 美穂	高齢者における車椅子乗車時の移送速度の違いによる心拍・自律神経系への影響
	竹野 菜々	患者の在宅療養移行期を支える看護の実態 (第一報) —医療上の課題に焦点をあてて—
	立田恵梨子	看護学生による、心臓の超音波検査技術習得過程 —下大静脈計測に要する時間—
	玉川千夏子	看護学生による心臓の超音波検査技術の正確性評価
	出嶋 莉子	患者の在宅療養移行期を支える看護の実態 (第二報) —生活上の課題に焦点をあてて—
	中嶋咲也子	心機能評価に用いる超音波診断装置教育プログラムに対する看護学生の意識
	西野 雛	高齢者における車椅子乗車時の移送速度の違いによる心理的变化との関係
	丹羽 絞香	懐かしい音楽の聴取が脳活動に及ぼす影響
	山田 実穂	高齢者における車椅子乗車時の車椅子移送速度の違いによる眼球運動への影響
	横山 操	懐かしい音楽の聴取が脳活動に及ぼす影響

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目
看護専門領域 母性看護学 (5人)	川之上莉央	緊急母体搬送時の妊産婦の心理と看護についての文献検討
	木村紗也夏	不妊治療終結過程における女性の心理と必要な支援
	新谷里沙子	精神疾患をもつ妊産婦に対する妊娠期からの継続的な育児支援についての文献検討
	中野 愛美	10代母親への支援の実際—2007～2017年の文献検討—
	中村 佳穂	産後の乳房緊満に応じた効果的なケアとケアに対する評価についての文献検討
看護専門領域 小児看護学 (7人)	浦根 希実	NICUを退院した低出生体重児をもつ母親の育児不安・困難感と関連要因に関する文献検討
	太田悠以奈	子ども虐待予防に関する看護師の認識と医療機関の予防システムに関する文献研究
	岡本 麗	病気をもつ子どもの学校生活における困難とその支援に関する文献検討
	木村 友香	父親が子育てで経験していることに関する文献検討 —多胎と単胎の比較文献を中心に—
	高橋 里帆	医療的ケアが必要な児の家族への支援についての文献検討
	新田 明里	学校における虐待対応に関する現状と今後の課題
	橋本 奈美	小児病棟での保育士の支援内容とその効果に対する文献検討
看護専門領域 成人看護学 (9人)	阿部 春菜	認定看護師による終末期がん患者と家族への看護実践
	勝泉 彩生	骨転移をもちながら疼痛・苦痛を緩和するための自己管理方法の文献的考察
	坂口 遥	AYA世代のがん患者の告知後の心理過程—手記を分析して—
	新田 三起	胃切術後患者の体重減少を最小限に抑えるために看護師が行っている食事指導の実態
	馬場 菜摘	セルフケア実施が困難な化学療法中の患者の看護 —がん看護専門看護師へのインタビューから—
	浜辺実乃里	がん患者の告知直後、再発直後における心理的危機に対する看護師の対応
	堀口 幸紀	母親患者の子供への思いに関する文献研究 —がん患者、その家族による手記を読んで—

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目
看護専門領域 成人看護学 (9人)	牧野日向子	自然災害における大学生が参画するボランティア活動の文献的考察
	山本菜津美	オストメイトの家族が感じる困難とその対処方法の実態
看護専門領域 老年看護学 (6人)	市野 由香	配食事業者によるICTを活用した在宅高齢者のリアルタイム見守りシステム構築に関する予備調査1 —家族の視点からの効果の検証—
	羽左間成美	配食事業者によるICTを活用した在宅高齢者のリアルタイム見守りシステム構築に関する予備調査2 —配食スタッフの視点からの効果の検証—
	平野 佑幸	認知症高齢者の楽しみや思い出を取り入れた笑いヨガプログラムの試み 第3報：GHにおける認知症高齢者とケアスタッフのストレス軽減効果
	福田 果奈	認知症高齢者の楽しみや思い出を取り入れた笑いヨガプログラムの試み 第2報：笑いヨガ実施が困難と予測された事例の参加状況
	古島 安夏	認知症高齢者の楽しみや思い出を取り入れた笑いヨガプログラムの試み 第1報：認知症高齢者の楽しみや思い出を取り入れた笑いヨガプログラムの作成
	細川 結貴	認知症高齢者を介護する男性介護者の介護負担と介護を継続できる要因 —男性介護者がよりよく介護するために—
看護専門領域 地域看護学 (7人)	稲田 美紀	メタボリックシンドローム発症の地域差と各地域における効果的な介入方法の検討
	河合 映歩	在日留学生の健康意識・行動の特徴 —食生活を中心とした考察—
	河合 良枝	働く母親に対する祖父母の育児参加の実態と祖父母教室へのニーズ
	木戸 仁美	在日留学生の健康意識・行動の特徴 —メンタルヘルスを中心とした考察—
	濱口 未夢	小児肥満についての文献検討 —生活習慣・家庭環境による影響から—
	藤沢 夏帆	高齢者の抑うつに関連する要因についての文献検討
	龍角友里香	在日外国人母親の異文化における育児体験 —困難と対処のプロセスに注目して—

領域または科目群	氏名	論文題目
看護専門領域 在宅看護学 (6人)	酒井 裕香	在宅療養における介護者が時期別に抱いていた思いと家族へのケア —訪問看護師の手記を通して—
	新保 晶子	日中の足浴が夜間の睡眠に与える効果
	岩崎 文香	在宅看護学実習における看護学生の学びの特徴の一考察
	西野 実奈	へき地診療所医療者が捉えた看護の現状 —看護師からの聞き取り調査から—
	松本 侑子	へき地診療所医療者が捉える医療の現状 —医師の聞き取り調査から—
	与畑 拓哉	日中の足浴が夜間の睡眠に与える影響 —OSA睡眠調査票MA版を用いた主観的睡眠感の評価—
看護専門領域 精神看護学 (5人)	河崎 舞華	精神疾患を有する母親が妊娠・出産・育児をしていく中での問題や困難と支援の現状についての文献検討
	熊藤 春花	長期入院精神障害者への退院支援を促進するための看護師への教育体制の検討
	中瀬 瑞希	精神科訪問看護の実態と精神障がい者および家族のニーズについて —障害者福祉サービス利用者と家族会への質問紙調査から—
	橋本 百合	発達障害児を持つ親を支援していくための保健師の関わり方
	本城 あや	発達障害児の母親が抱える育児上の精神的苦痛の緩和に必要な関わり —ペアレントトレーニングの視点から—

5. 大学院・看護学研究科

5.1 理念・目標

5.1.1 博士前期課程（修士）

5.1.1.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中であって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.1.2 教育目標

1. 看護教育を支える教育・研究職の育成

本課程では、学部で蓄積された看護学に関する成果を、さらに深化・発展させることによって時代と地域の要請に応えるため、看護学分野における学術上の先端的役割を担うとともに、知識の体系化と看護技術の開発を積極的に推進し、看護学の学問体系の構築に貢献する教育・研究職の人材を育成する。

2. 高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職者の育成

実践現場において当面する種々の問題について、体系的、継続的に研究を行い、合理的に問題解決できる人材や、看護職に対する指導・相談、関係する職種間の総合的調整能力、ケアの環境条件を積極的に改革していく役割を担う人材の養成が求められている。そうした要請に応えるため、専門看護師（CNS:Certified Nurse Specialist）の養成を図り、もって地域の看護の発展に一層寄与する高度専門職業人を育成する。

3. 女性の一生を通じた性と生殖に関わる健康を推進できる助産師の育成

時代の流れや社会情勢に高い関心と洞察力を持ち、多様化する女性の生き方や家族のニーズ、専門化・複雑化する助産に対応できる人材や、保健・医療・福祉に携わる多職種と積極的に連携・協働し、継続的に援助を推進できる人材の養成が求められている。そうした要請に応える助産師の養成を図るとともに、助産学の発展に寄与する専門職業人を育成する。

4. 生涯にわたって研鑽できる看護職の知的交流の場づくり

日々進歩・発展する医療技術と看護環境の変化に機敏に対応し、看護の知識と技術の向上を図るため、看護の実践現場と教育・研究の場の交流を活発にし、地域が要望する質の高い看護サービスの提供を図っていく。そのためには、学部の社会人入学に加えて、卒業後の継続教育、社会人の再教育の場を提供する必要がある。本課程は、このような向上心旺盛な学部卒業生や社会人の受け皿としての機能を持ち、看護現場のより一層の質の向上のために寄与することを目指す。

5.1.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専攻分野の基礎知識を有する人
2. 人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人
3. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人
4. 専門看護師コース志望者は、対応する分野の実務経験を有し、専門看護師の資格取得を志す人
5. 助産実践コース志願者は、助産師の免許取得を志す人

5.1.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士前期課程では、より卓越した看護実践能力と高い研究能力を有し、看護学の研究や教育、看護実践・管理に携わることのできる研究者・教育者・高度看護実践者を育成する。研究コースに加え、専門看護師コースと助産実践コースを設け、次のような教育課程を編成している。

1. 広い視野で看護を学ぶための学際的な科目から構成されている「共通科目A」、科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を育成するための「共通科目B」、各研究教育分野におけるより深い専門性を学ぶ「看護専門科目」を置いている。
2. 国際的な視野を持ち、より効果的な看護を探究し提供していくために、海外の招聘教員による国際看護を学ぶ科目を置いている。
3. 論文作成にあたっては、研究計画の中間報告や複数教員による、組織的で計画的な研究指導体制をとっている。
4. 専門看護師コースでは、特定分野におけるケアとキュアを融合した看護実践力、保健医療福祉チーム内の調整力などの育成をめざし、看護実践力の高い専門看護師とタイアップして日本看護系大学協議会で認定された専門看護師教育を展開している。
5. 助産実践コースでは、助産師免許取得に必要な科目のみならず、多職種と連携してハイリスクに対応でき、多様な年代の性と生殖に関わる健康課題に応えられる専門的知識・技術や倫理的態度を育成する科目を置いている。

5.1.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、次のような研究能力や看護実践能力を有する者に修士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護学に寄与する修士論文の作成を通して、学際的で深い科学的知識を基にした体系的な研究方法を修得している。
2. 専門看護師コースでは、1に加えて特定の看護分野における高度な知識と技術を修得している。さらに、総合的な判断力をもって組織的に問題解決をはかる能力を身につけている。
3. 助産実践コースでは、1に加えて専門化・複雑化する助産分野に対応できる助産実践能力と助産管理の基盤となる能力を修得している。さらに、女性のライフサイクル全般の性と生殖に関わる健康課題に応える能力を身につけている。

5.1.2 博士後期課程（博士）

5.1.2.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中であって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.2.2 教育目標

1. 看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者の育成

看護・保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化や地域の要請に対応することができる高度で専門的な知識・技術と、総合的判断力、リーダーシップを備えた看護職を養成する。また、これまで蓄積された経験知や実践知に基づいてより効果的な看護ケアプログラムを開発していくとともに、健康に関する人々の反応や看護援助にまつわる専門的知識を系統的に理解し、諸科学の知見と関わらせながら看護学をさらに体系化し、かつ現代社会の変化や趨勢に照らして看護が果たすべき役割を發展的、科学的、体系的かつ原理的に探求していくことができる教育者・研究者を育成する。

2. 科学的な理解に基づいて看護をデザインできる研究者の育成

地域社会並びにそこで生活するあらゆる健康レベルの人々やその家族に対して総合的なヘルスケアをデザインするために、高度な理論・方法など学際的な知識体系を修得・活用して新しい看護実践方法、環境、用具等の開発を行なう。さらに、それらの実践の場における有用性の検証を図り、実践に活かせるエビデンスを明らかにできる研究者を育成する。

3. 対象の特性を踏まえた看護を実践できる研究者の育成

効果的な看護ケアプログラムの開発、あるいは対象者個々の個別性を踏まえ、その人たちが帰属する地域の文化的特性を踏まえた看護援助の開発、エビデンスに基づいた看護援助法の確立をめざした高度の研究を継続的に推進していくことのできる研究者を育成する。

5.1.2.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 実務経験を有し、看護学への探求心を有する人
2. 看護学研究に対する高い動機と学びに必要な基礎的研究能力を身に付け、自立して学修する姿勢を有する人
3. 看護学や看護実践の発展に寄与する意志を有する人
4. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人

5.1.2.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士後期課程では、看護学や看護実践の発展に寄与する研究者・教育者を育成するために、教育課程においては次のような点を重視している。

1. 広い視野で看護学の学的基盤を見据え、看護実践のもととなる原理を解明する能力や人々の健康ニーズに役立てる能力を身につけるために、研究計画の中間報告や複数教員による組織的、かつ計画的な研究指導体制をとっている。
2. 学位論文の審査にあたっては、他の大学院等の教員を審査委員に加える等、論文の質の向上と客観性の確保に努める。

5.1.2.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、看護学や看護実践の発展に向け、学位論文において新しい知見を産出し、自立した研究活動に必要な能力を有する者に博士（看護学）の学位を授与する。

5.2 大学院生の入学・在学・修了の状況

1. 入学の状況

1) 入学定員・収容定員

課 程	単位 (人)	
	入学定員	収容定員
博士前期課程	10	20
博士後期課程	3	9

2) 試験実施日

	実施日
博士前期課程入学試験	平成29年 9月23日 (土)
博士前期課程入学試験 (第2次募集)	平成30年 1月27日 (土)
博士前期課程入学試験 (助産看護学領域)	平成30年 1月27日 (土)
博士後期課程入学試験	平成29年 9月23日 (土)
博士後期課程入学試験 (第2次募集)	平成30年 1月27日 (土)

3) 受験状況等

課 程	単位 (人、倍)							
	募集定員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	実質倍率	入学者数
	A	B	B/A	C	C/A	D	C/D	
博士前期課程	10	3	0.3	3	0.3	3	1.0	3(3)
博士前期課程2次	若干名	4	-	4	-	3	1.3	3(3)
博士前期課程助産	5	6	1.2	6	1.2	5	1.2	5(5)
博士後期課程	3	0	-	-	-	-	-	-
博士後期課程2次	若干名	2	-	2	-	2	1.0	2(2)

() の数字は内数であり女性の数を示す

2. 在学の状況 (平成30年3月1日現在)

課 程	単位 (人)			
	1年次	2年次	計	
博士前期課程	7(6)	14(14)	21(20)	

課 程	単位 (人)			
	1年次	2年次	3年次	計
博士後期課程	4(4)	3(3)	6(6)	13(13)

() の数字は内数であり女性の数を示す

3. 修了の状況

1) 修了者数と修了後の進路状況（平成30年3月31日現在）

単位（人）

課 程	修了者数	修了後の進路
博士前期課程第13期生	6(6)	医療機関、教育機関
博士後期課程第10期生	2(2)	教育機関

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2) 修了後の進路状況（平成30年3月31日現在）

(1) 博士前期課程（第13期生）

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
就 職 医 療 機 関	2	1	3(3)
研 究 機 関	0	0	0(0)
教 育 機 関	3	0	3(3)
保 健・福 祉 機 関	0	0	0(0)
合 計	5	1	6(6)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
進 学 大学院博士後期課程	0	0	0(0)
そ の 他	0	0	0(0)
合 計	0	0	0(0)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 博士後期課程（第10期生）

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
就 職 医 療 機 関	0	0	0(0)
研 究 機 関	0	0	0(0)
教 育 機 関	1	1	2(2)
保 健・福 祉 機 関	0	0	0(0)
未 定	0	0	0(0)
合 計	1	1	2(2)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

5.3 大学院教務学生委員会

委員長：牧野 智恵 教授（研究科長）

委員：川島教授（学長補佐）、林教授、長谷川教授、小林教授、亀田教授

事務局：寺沢教務学生課長、納橋専門員

活動内容：

1. 大学院教務に関する以下の事項について審議し、必要事項は研究科委員会で審議・報告し、大学院運営を行った。

1) 年度初めに新入生および在校生へのガイダンスを行い、次年度に向けて、ガイダンススケジュール検討を行った。

2) 修士論文・博士論文に関する検討・審議を行った。

修士論文（7件）の中間評価委員、博士論文（2件）の予備審査委員を決定した。

その他の修士論文に関しては、予定通り、4月に修士中間報告会（7名発表、参加者62名）、2月に修士論文発表会（6名発表、参加者66名）を実施し、研究科委員会にて可否の判定を行った。博士論文の中間報告会は2名実施した。今年度修了予定の博士課程学生2名に対しては、10月に予備審査希望提出を締め切り、2名の提出があり、2名とも予備審査・本審査に合格し、2月に博士論文を発表した（参加者72名）。

研究科委員会にて審議の結果2名が合格となった。

3) 既修得単位、14条学生、長期履修生、科目等履修生、休学・復学の認定を行った。

4) 前期・後期成績判定、学位授与・修了判定を行った。

5) 非常勤講師、院内講義担当者、実習施設に関する事項の申請を受けて検討した。

6) 時間割の作成、大学院便覧の作成を実施した。

2. 博士前期・後期課程の3ポリシーの見直しを行い、さらに、助産看護学分野の認可の後、助産師を含め、再度見直しを行った。

3. 博士前期課程の助産看護学分野の申請に向け、科目、単位、教育目的、非常勤講師、実習室、講義室、院生研究室などについての検討を行い、研究科委員会にて審議決定後、文部科学省に申請し、8月に認可された。助産看護学分野認可に伴い、院生の入学後の学習環境整備（実習室、院生室）を行った。さらに、次年度に向け、大学院学生便覧（履修要件、研究指導教員）の記載の大幅な変更を行った。

4. 博士前期課程の研究コースとCNSコースの修士論文審査基準について検討し、各コースの審査基準を区別することとし、研究科委員会で審議し決定した。

5. 助産看護学分野の設置に伴い、高度実践看護師教育課程の特別研究の履修単位について、昨年に引き続き検討を行った。検討した結果、現在のCNSや助産師の役割として、現場の看護実践の向上のために研究することが大きな役割であることから、6単位とすることとなった。

6. 博士論文ガイドライン「2. 学位申請のための要件」の検討

博士論文の学位申請のための要件について、ガイドラインでの記載を以下のように修正した。「博士論文の内容に関連した論文を、学術雑誌（査読有り）に筆頭著者として1編以上公表していること。ただし、この論文が原著論文でない場合には、これ以外に1編以上の原著論文（査読有り）を学術雑誌に筆頭著者として公表していること。どちらの場合も掲載決定でも可。（29年度以降入学生）」

7. 専門看護師の受験生の増加および、実習場所拡大を目的に、昨年度に続き7回目の「北陸3県看護部長との懇談会」を実施し、13名の看護部長等の参加のもとに意見交換をした。

8. 「院生との懇談会（9月，2月）」開催、院生のニーズの把握に努め、連絡徹底、博士前期課程および後期課程の発表会日程の検討などを実施した。

5.4 大学改革委員会 大学院・専攻科検討班

4.4.2.1.2 大学院・専攻科検討班（44頁）を参照のこと。

5.5 平成29年度 修士論文題目一覧

分野	氏名	論文題目	担当教員
子どもと家族の看護学	本部 由梨	「虐待に至る前の気になるレベル」の子育て状況の関連要因とその状況にある母が望む支援	西村真実子
成人看護学	大西 陽子	クリティカルケア領域における浅い鎮静深度で管理されている人工呼吸器装着患者に対する看護実践の特徴	村井 嘉子
看護管理学	江藤真由美	認定看護師資格をもつ看護師のキャリア発達の構造とプロセス	丸岡 直子
看護管理学	山田 良子	看護学実習指導における看護師の調整行動指標の開発	丸岡 直子
成人看護学	瀧澤 理穂	乳がん患者が子どもに真実を伝える苦悩を乗り越える体験 —M. ニューマン理論に基づく対話から—	牧野 智恵
老年看護学	長瀬佐知子	急性期病院における高齢心不全患者に対する意思決定支援	川島 和代

5.6 平成29年度 博士論文題目一覧

氏名	論文題目	担当教員
寺井 孝弘	育児困難心性尺度の開発	西村真実子
渡邊 陽子	認知症高齢者に対する長期的・継続的な自己決定支援が認知症高齢者とケア提供者に及ぼす効果	川島 和代

6. 教員の業績

6.1 書籍

6.1.1 書籍（著書）

浅見洋, 中嶋優太, 山名田沙智子（共編著）： 西田幾多郎未公開ノート研究資料化 報告1（2017）, 前田印刷株式会社出版部, 金沢, 2018.3

加藤穰（分担執筆）： 14章 脳と心・行動. 霜田求編: テキストブック生命倫理. 法律文化社, 京都, 2018.1

加藤穰（単著）： English Fundamentals for Nursing Students (Fourth Edition). 三恵社, 愛知, 2018.3

三部倫子（分担執筆）： セクシュアル・マイノリティにとっての子育て. 永田夏来. 松木洋人（編著）： 入門家族社会学, 新泉社, 東京, 2017.4

三部倫子（分担執筆）： 家族に生まれ家族に戻る. 森栄喜: Family Regained. ナナロク社, 東京, 2017.12

多久和典子, 多久和陽（共著）： なるほどなっとく！解剖生理学. 南山堂, 東京, 2017.4

長谷川昇（分担執筆）： 第12章 感覚, 第14章 14.4 健康づくりのための身体活動基準, 第15章 15.1 マウスの性周期と精子. 青峰正裕, 清末達人, 長谷川昇, 大和孝子, 熊井まどか, 竹嶋美夏子, 大澤得二, 河手久弥, 日野真一郎, 長谷川幹治, 平野可奈, 川端龍史, 市原俊： イラスト解剖生理学実験第3版. 東京教学社, 東京, 2018.2

林静子（分担執筆）： 第4章 活動・急速援助技術. 任和子・井川順子・秋山智弥（編著）： 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版. 医学書院, 東京, 2017.10

村井嘉子（共著）： ファーストエイド すべての看護職のための緊急・応急処置 改訂第2版. へるす出版, 東京, 2017.9

6.2 学術論文

6.2.1 査読有

浅見洋： エンドオブライフケアの展開とその基盤としての死生観(総説). 日本エンドオブライフケア学会誌, 1, 3-9, 2017.7

浅見洋： 情報化時代における哲学館のレゾンデートルー資料展示と史料保存一. 比較思想研究, 44, 58-63, 2018.3

大永慶子, 浅見洋： 精神科病院で最期を迎える疾患患者への看取りケアについて. 石川看護雑誌, 15, 83-97, 2018.3

阿部智恵子： 白山市における子育て支援の現状と課題. 日本都市学会年報, VOL. 50, 151-160, 2017.5

阿川啓子, 石垣和子, 塚田久恵： 訪問看護における超重症児を療育する母親支援—看護師が母

注1) 本学の教員の氏名の下にはアンダーライン

注2) 本学の学生・院生（卒業・修了生含む）の氏名の下にはアンダーラインかつ氏名の前にアスタリスク（*）

- 親の状況を察した経験に着目して一. 文化看護学会誌, 10(1), 34-42, 2018.3
- 徳田真由美, 辻村真由子, 石垣和子: 沖縄に暮らす高齢者が語る排泄習慣の変化. 文化看護学会誌, 10(1), 79-84, 2018.3
- 辻村真由子, 石垣和子: 訪問看護師が行う排便ケアに影響を与える在宅高齢者と家族看護者の文化. 文化看護学会誌, 10(1), 51-60, 2018.3
- 石川倫子: 看護基礎教育課程における看護技術の到達度の実態調査. 日本看護学教育学会誌, 27(1), 61-67, 2017.7
- 石川倫子, 丸岡直子: 患者・家族に対する在宅療養移行支援における病棟看護師の臨床判断. 看護実践学会誌, 30(2), 4-11, 2018.3
- Akagami M., Ito M., Niira K., Kuroda M., Masuda T., Haga K., Tsuchiaka S., Naoi Y., Kishimoto M., Sano K., Omatsu T., Aoki H., Katayama Y., Oba M., Oka T., Ichimaru T., Yamasato H., Ouchi Y., Shirai J., Katayama K., Mizutani T., Nagai M.: Complete genome analysis of porcine kobuviruses from the feces of pigs in Japan. *Virus Genes*, 53(4), 593-602, 2017. 05
- Ito M., Kuroda M., Masuda T., Akagami M., Haga K., Tsuchiaka S., Kishimoto M., Naoi Y., Sano K., Omatsu T., Katayama Y., Oba M., Aoki H., Ichimaru T., Mukono I., Ouchi Y., Yamasato H., Shirai J., Katayama K., Mizutani T., Nagai M.: Whole genome analysis of porcine astroviruses detected in Japanese pigs reveals genetic diversity and possible intra-genotypic recombination. *Infection, Genetics and Evolution*, 50, 38-48, 2017. 06
- 今井美和, 吉田和枝, 塚田久恵, *英あおい, *杉本玲奈, *西田麻理奈: 看護系女子大学生が実施した女子高校生への子宮頸がん予防啓発活動2016の効果 -啓発活動2015と比較して-. 石川看護雑誌, 15, 63-74, 2018.3
- 今井美和, 吉田和枝: 子宮頸がんとその予防に関する女子高校生の知識と態度の状況について. 石川看護雑誌, 15, 51-62, 2018.3
- 大江真人, 田中浩二, 長山豊, 長谷川雅美, 大塚亜寿香, 南光代, 大江真吾: うつ症状の鑑別診断補助のための光トポグラフィ検査を受けた患者の体験. 日本精神保健看護学会誌, 26(1), 47-56, 2017.6
- 大江真吾, 田中浩二, 大江真人: 国内における成人期広汎性発達障害者への看護ケアの現状. 石川看護雑誌, 15, 27-38, 2018.3
- Kobayashi H., Song C, Ikei H, Park BJ, Lee J, Kagawa T, Miyazaki Y.: Population based study on the effect of forest environment on salivary cortisol concentration. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 14(8), 931, 2017.8
- Kobayashi H., Song C, Ikei H, Park BJ, Kagawa T, Miyazaki Y.: Diurnal changes in distribution characteristics of salivary cortisol and immunoglobulin A concentrations. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 14(9), 973, 2017.8
- 桜井志保美, 河野由美子, 平井真理: 要介護者を同居して支える家族介護者の慢性ストレスと血圧の関連. 保健の科学, 59 (6), 423-429, 2017.6

- Shimizu N., Umemura T., Matunaga M., Hirai T. : Effects of movement music therapy with a percussion instrument on physical and frontal lobe function in older adults with mild cognitive impairment: a randomized controlled trial.. *Aging & Mental Health*, , p1-p13, 2017.9
- Shimizu N., Umemura T., Matunaga M., Hirai T. : An Interactive Sports Video Game as an Intervention for Rehabilitation of Community-Living Patients with Schizophrenia: A Controlled, Single-Blind, Crossover Study.. *PloS one*, 12(11), e0187480, 2017.10
- 曾根志穂 : 神経難病患者の在宅療養支援に対する訪問看護師の不安と困難感, 負担感. *石川看護雑誌*, 15, 75-82, 2018.3
- Ohkura SI, Usui S, Takashima SI, Takuwa N, (他9名) : Augmented sphingosine 1 phosphate receptor-1 signaling in cardiac fibroblasts induces cardiac hypertrophy and fibrosis through angiotensin II and interleukin-6. . *PLoS One* , 12(8), e0182329. doi: 10.1371/journal.pone.0182329, 2017.8
- 武山雅志, 川島和代, 長谷川昇, 垣花渉, 塚田久恵, 中田弘子, 金子紀子, 渡辺達也 : 産学官連携による健康づくり事業参加者の特徴と変化 ~運動習慣のない参加者に注目して~. *石川看護雑誌*, 15, 117-124, 2018.3
- Tanimoto C., Yayama S., Suto S., Matoba K., Kajiwara T., Inoue M., Endo Y., Yamakawa M., Makimoto K. : Self-harm and Suicide Attempts in a Japanese Psychiatric Hospital. *East Asian Archives of Psychiatry* , 28, 23-7, 2018.3. doi:10.12809/eaap181732
- 田淵知世, *笠嶋風紗, *田嶋瑞穂, 丸岡直子 : 地域包括ケア病棟における退院支援の現状と課題—病棟棟長・病棟看護師・退院支援看護師へのグループインタビューから— . *石川看護雑誌*, 14,, 2018.3
- 塚田久恵, 川島和代, 曾根志穂, 石垣和子 : 韓国看護短期研修プログラムの開発及びその成果と課題. *石川看護雑誌*, 15, 125-133, 2018.3
- 中田弘子, 三輪早苗, 田淵知世, 小林宏光 : ハンドマッサージが脳活動に与える影響—前頭前皮質酸素化ヘモグロビン濃度および主観的指標の観点から—. *日本生理人類学会誌*, 9-16, 23(1), 2018
- 中道淳子, 森田聖子, 磯光江, 小林宏光 : ストレス軽減および認知機能の維持向上を意図した笑いヨガプログラムの開発. *地域ケアリング*, 19 (14), 52-56, 2017.12
- 子吉知恵美 : 発達障害児の保護者が子どもの障害を受容する状況に応じた保健師の支援方法. *日本小児保健研究*, 76(3), 278-288, 2017.5
- 子吉知恵美 : 子育て期にあるがん終末期在宅療養者への訪問看護師とケアマネジャーによる支援. *訪問看護と介護*, 23(4), 100-104, 2018.3
- 牧野智恵, *松本友梨子, 川端京子 : 子どもをもつがん患者同士の対話の特徴—親子参加型がん患者支援プログラムでの母親同士の語りの分析—. *日本がん看護学会誌*, 31, 172-180, 2017.12

6.2.2 査読無

- 浅見洋 : 教育者・西田幾多郎から現代教育を考える. *石川教育展望*, 69, 26-33, 2017.11

- 石垣和子： 地域のケアカ-スキーマと文化ケア-。文化看護学会誌, 10 (1), 101-104, 2018.3
- Ishigaki K., Kun L., XU G., Kong E.S., Kawashima K., Jiao S., Jian K., Hama K., Shimizu N., Tsukada H., Nishimura M. : The Current Situation, Development and Challenge of Nursing and Midwifery Education in Far East Asian Countries, - China, Korea and Japan -. 石川看護雑誌, 15, 1-20, 2018.3
- Ishigaki K., Hama K., Kawashima K., Nishimura M., Shimizu N., Tsukada H.: The Current Situation, Development and Challenge of Nursing and Midwifery Education in Far East Asian Countries, - China, Korea and Japan
Chapter 1 Broad Overview and Comparisons of Nursing and Midwifery Education in Three Countries. 石川看護雑誌, 15, 1-3, 2018.3
- Shimizu N., Kun LI., Guihua XU.: Current Situation, Development, and Challenges of Advanced Nursing Education in China: Present and Future. *Ishikawa Journal of Nursing*, 30, 2-6, 2018.3
- Hisae Tsukada , Eun Suk KONG : The Current Situation, Development and Challenge of Nursing and Midwifery Education in Far East Asian Countries, - China, Korea and Japan
Chapter 4 The History of Nursing and Midwifery Education in Korea. 石川看護雑誌, 15, 8-13, 2018.3
- Mamiko Nishimura, Sun Jiao, Kang Jian: The current Situation, Development, and Challenges of Midwifery in China, *Ishikawa Journal of Nursing*, 15, 7-8, 2018.3
- Kohko HAMA: The Current Situation, Development and Challenge of Nursig and Midwifery Education in Far East Asian Countries, - China, Korea and Japan - Chapter 6 Trends and Challenges in Japanese Midwifery Education *Ishikawa journal of Nursing*, 15, 16-19, 2018.3
- 林一美, 石川倫子, 塚田久恵, 金谷雅子, 中道淳子, 谷本千恵, 中田弘子, 長谷川昇, 牧野智恵, 石垣和子 : 2017米国Family Nurse Practitioner 視察報告. 石川看護雑誌, 15, 21-26, 2018.3
- Shizuko Hayashi: The Structure of Clinical Judgement Making Basea on Nurse' s Visual Observation.. *Digital Human Modeling ,Applications in Health, Safty, Ergonomics, and Risk Management: Health and Afety*, 8th International conference, DHM2017, Held as part of HCI International 2017, Vancouver, BC, Canada July914, 2017, Proceedings Part II., 13-22, 2017.
- 丸岡直子： 地域包括ケアシステムにおける「外来機能」の見直し・拡充の工夫。看護部長通信, 15(1), 2-7, 2017.4
- 村井嘉子, 中野泰規： 看護実践力の向上を支援するためのシナリオ学習教材の開発 -クリティカルケア看護領域における終末期にある患者家族支援に焦点を当てた試み。看護人材育成, 2017.6・7月号, 53-59, 2017.6・7
- 村井嘉子： 地域包括ケアシステム時代の救急看護—救急看護師個人の実践力を組織へと浸透・拡張させる—*日本救急看護学会雑誌*, 20(1), 37-40, 2018

6.3 その他の原稿

石垣和子： 草創期JANPUから成熟期JANPUへの過渡期に会長を拝命して，日本看護系大学協議会40年誌—JANPU40周年の歩み—そして未来へ—，96，2016.6

垣花渉，*梅村遙，*木村将太，*藤崎真美，*久木佑香，*北本さくら，*東祥子，*東川智美，*藤原佑衣： 老人クラブに入ると健康になれるプロジェクト—健康カフェによる高齢者の社会参加の促進—．平成29年度地域課題研究ゼミナール支援事業成果報告集，21-24，2018.2

北山幸枝，南堀直之，山本菜津美： オストメイトの家族が感じる困難とその対処方法の実態．調査研究報告書，1-7，2018.3

桜井志保美： 石川県立看護大学が取り組む国際貢献．大学新聞，2018.3

清水暢子： HMDを使用した認知症疑似体験講習会．螢雪時代 旺文社，2017.10

武山雅志，曾根志穂，金谷雅代，林静子，石垣和子： 石川県における女性防災士の活動の現状と課題．平成29年度いしかわ女性基金調査研究事業報告書，1-11，2018.2

西村真実子： 特集看護師国家試験新出題基準その意図と現場の対応⑧小児看護学改定委員の立場から，看護展望，42 (9)，2017

子吉知恵美： 子育て期にある在宅がん終末期療養者支援の狭間を埋めるために必要なインフォーマルな支援に関する研究．公益財団法人在宅医療助成 勇美記念財団2015年（後期）一般公募「在宅医療研究への助成」完了報告書，2017.3

長谷川昇： 今月のワーク&テスト 薬理学編 第1回 薬物の基礎知識、抗感染症薬．クリニカルスタディ 10月号，メジカルフレンド社（東京），38巻第11号，51-56，2017.10

長谷川昇： 今月のワーク&テスト 薬理学編 第2回 心臓・血管系作用薬、中枢神経作用薬．クリニカルスタディ 11月号，メジカルフレンド社（東京），38巻第12号，51-56，2017.11

長谷川昇： 今月のワーク&テスト 薬理学編 第3回 抗がん薬、抗炎症・鎮痛薬．クリニカルスタディ 12月号，メジカルフレンド社（東京），38巻第14号，51-56，2017.12

長谷川昇： 今月のワーク&テスト 薬理学編 第4回 消化器系・呼吸器系作用薬、内分泌・代謝系作用薬．クリニカルスタディ 1月号，メジカルフレンド社（東京），39巻第1号，51-56，2018.1

Shizuko Hayashi： The Structure of Clinical Judgement Making Basea on Nurse' s Visual Observation.. Digital Human Modeling ,Applications in Health, Safty, Ergonomics, and Risk Management: Health and Afety, 8th International conference, DHM2017, Held as part of HCI International 2017,Vancouver, BC,Canada July914,2017,Proceedings Part II., 13-22, 2017.

牧野智恵： 「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」（北信がんプロ）の概要と本学におけるがん看護専門看護師養成．北信がんプロ 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 平成29年度事業報告書，5-7，2018

牧野智恵： 本学におけるインテンシブコースの成果．北信がんプロ 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 平成29年度事業報告書，9-10，2018

牧野智恵： 新しい「北信がんプロ」のスタートの1年を振り返って．北信がんプロ 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 平成29年度事業報告書，47，2018

松本智里： 公開講座 「グリーフの理解とナースに求められること」を開催して．北信がんプロ

- ロ 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 平成29年度事業報告書, 25-26, 2018.3
- 丸岡直子: 認知症の看護を向上. 北國新聞 舞台, 44639号, 2017.5
- 村井嘉子: e-Word Never give up -積み重ねが自分を支え成長させる. Emergency Care, 30(9), 1, 2017

6.4 学会発表

- 浅見洋: 情報化時代における哲学館のレゾンデートルー資料展示と史料保存—(パネルディスカッション発題), 比較思想学会第44回, 東京, 2017.6, 比較思想学会第44回要旨集, 27, 2017
- 浅見洋: 死生について考える機会と場を設けよう! (シンポジウム発題), 第1回日本エンドオブライフケア学会学術集会, 東京, 2017.9, 第1回エンドオブライフケア学会要旨集, 46, 2017
- 浅見美千江, 彦聖美, 浅見洋: 自宅で親を看取った経験について—看取って気づいたこと・死生観の変化—, 第1回エンドオブライフケア学会学術集会, 東京, 2017.9, 第1回エンドオブライフケア学会要旨集, 97, 2017
- 浅見美千江, 彦聖美, 伊藤愛, 浅見洋: 自宅で親を看取った経験について—自分自身の最期の迎え方—, 第21回日本在宅ケア学会学術集会, 東京, 2017.9, 第21回日本在宅ケア学会学術集会要旨集
- 浅見洋: 現代看護と西田哲学の接点—終末論的思惟—(招待講演), 2017年度西田哲学会年次大会, かほく, 2017.7
- 阿部智恵子: 報道からみる相模原殺傷事件—新聞記事をもとに—, 日本都市学会64回大会, 石巻, 2017.10, 日本都市学会64回大会要旨集, 116, 2017
- 米澤洋美, 石垣和子: 地方農村部シルバー人材センター会員のヘルスリテラシー・協同作業の認識, 第28回医学看護学教育学会, 広島, 2018.3, 第28回医学看護学教育学会抄録集
- 石垣和子, 宮崎美砂子, 米澤洋美, 塚田久恵, 金子紀子, 曾根志穂, 阿川啓子: 地域性タイプと関連させた保健師活動の実態調査, 第37回日本看護科学学会, 仙台, 2018.1, 第37回日本看護科学学会抄録集
- 米澤洋美, 石垣和子: シルバー人材センター(SC)への介護予防への期待, 第37回日本看護科学学会, 仙台, 2018.1, 第37回日本看護科学学会抄録集
- 米澤洋美, 石垣和子: シルバー人材センターにおける会員の自主的健康づくり活動の意義, 第6回日本公衆衛生看護学会, 大阪, 2018.1, 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会講演習
- Hohashi N., Honda J., Sato N., Takatani S., Ishigaki K., Nojima S.: The Current Status and Challenges to Family Nursing Education and International Exchanges in Asia, 7th Hong Kong International Nursing Forum, 香港, 2017.12
- 石川倫子: 新人看護師に対する看護技術修得のための研修に関する実態調査, 第5回看護理工学会学術集会、第11回看護実践学会学術集会、国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第7回学術集会 合同学術集会, 金沢, 2017.10, 第5回看護理工学会学術集会、第11回看護実践学会学術集会、国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第7回学術集会 合同学術集会抄録集, 88, 2017
- 市丸徹: MUA記録法を用いたラット生殖中枢の活動解析, 平成29年度 石川県立大学・石川県立

- 看護大学合同研究発表会, 石川, 2017. 8
- 早松美矩, 岩城直子, 川端京子: 終末期がん患者との関わりに対する看護学生の戸惑いと対処, 第32回日本がん看護学会学術集会, 千葉, 2018. 2, 第32回日本がん看護学会学術集会講演集, 32, 188, 2018
- 大西陽子, 村井嘉子: 特定行為を実践する看護師の活動実態に関する文献的考察, 第19回日本救急看護学会学術集会, 金沢, 2017. 10, 第19巻第3号 日本救急看護学会雑誌, 19(3), 307, 2017
- 垣花渉: 看護学生の主体的に学ぶ力を地域で育てる—スタディ・スキルの育成と経験のふり返りに着目して—, 初年次教育実践交流会 in 北陸, 金沢, 2017. 5, 初年次教育実践交流会 in 北陸要旨集, 27-31, 2017
- 垣花渉, 北山幸枝: 看護学生の「主体的に学ぶ力」を育てる授業デザインの検討—早期体験に着目して—, 愛知, 2017. 9, 初年次教育学会第10回大会発表要旨集, 88-89, 2017
- 垣花渉, *梅村遙, *木村将太, *藤崎真美, *久木佑香, *北本さくら, *東祥子, *東川智美, *藤原佑衣: 老人クラブに入ると健康になれるプロジェクト—健康カフェによる高齢者の社会参加の促進—, 平成29年度大学・地域連携アクティブフォーラム, 金沢, 2018. 2, 平成29年度地域課題研究ゼミナール支援事業成果報告集, 21-24, 2018
- 加藤穰: 看護倫理教育に関する議論と課題—海外の文献調査と聴き取り調査から—, 第36回日本医学哲学・倫理学会大会, 東京, 2017. 11, 第36回日本医学哲学・倫理学会大会 プログラム・予稿集, 36, 20, 2017
- Kato, Y.: Religious and Non-Religious Grounds for Refusing Vaccination - The Results of a Database Search, The Asian Conference on Ethics, Religion & Philosophy 2018, 神戸, 2018. 3, The Asian Conference on Ethics, Religion & Philosophy 2018, 52, 2018
- 金子紀子, *阿川啓子, 石垣和子: ソーシャルキャピタルが高い地域におけるソーシャルキャピタル低群の母親の地域の人々とのつながりの現状と問い—自由記載の内容からの分析—, 日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会, 鹿児島, 2017. 11, 日本ルーラルナーシング学会第12回学術集会鹿児島奄美大会抄録集, 48, 2017
- 金子紀子, *阿川啓子, 石垣和子: 子育て中の母親の子育ての肯定的感情とソーシャルキャピタルとの関連—3地域の比較—, 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島, 2017. 10, 日本公衆衛生雑誌, 第76回日本公衆衛生学会総会抄録集, 64(10), 461, 2017
- 川島和代, 元女貴久乃他: 療養病床における排泄ケア委員会・ICT委員会・褥瘡委員会協働でオムツ交換の勉強会を行った効果について, 第59回全日本病院学会in石川, 金沢, 2017. 9, 第59回全日本病院学会抄録集, 475, 2017
- 石井一美, 川島和代, 中田弘子: 保湿成分が含まれた不織布タオルによる部分清拭が高齢者の皮膚に与える影響, 看護技術学会第16回学術集会, 東京, 2017. 10, 看護技術学会第16回学術集会抄録集, 56, 2017
- 川島和代, 梅村俊彰: 北陸地域在住の高齢者の生活と行動の特徴, 日本ルーラルナーシング学会, 鹿児島奄美, 2017. 11., 第12回学術集会 鹿児島奄美大会 抄録集, 56, 2017
- 嘉地詩織, 畠真理子, 多幡明美, 大塚明日香, 廣瀬亜衣, 川村みどり: 高齢者閉鎖病棟で帰宅要求を訴える認知症を有する患者への看護師の対応, 石川県立高松病院こころの臨床学会, 石川, 2018. 3, 第30回石川県立高松病院こころの臨床学会, 30, 1, 2018

- 木森佳子, 古市佑哉, 久保守, 佐藤賢二: Windowsタブレットと深度センサ付きカメラを用いた静脈可視化試作機の可視化性能評価, 第5回看護理工学会学術集会 第11回看護実践学会学術集会 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第7回学術集会 合同学術集会, 金沢, 2017. 10, 第5回看護理工学会学術集会 第11回看護実践学会学術集会 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第7回学術集会 合同学術集会 プログラム・抄録集, 100, 2017. 1
- 小林宏光, 宋チヨロン, 池井晴美, 香川隆英, 宮崎良文: 森林環境における生理指標の集団的応答解析, 日本生理人類学会75回大会, 千葉, 2017. 6, 日本生理人類学会75回大会概要集, 47, 2017
- 小林宏光: 人間工学と医療(特別講演), コメディカル形態機能学会16回学術集会, 名古屋, 2017. 9, 形態・機能, 16(1), 27-28, 2017
- *笠井恭子, 小林宏光, 川島和代: 一年間の追跡調査による特別養護老人ホーム入居者の睡眠状態の可視化, 日本看護技術学会第16回学術集会, 東京, 2017. 10
- 木村賛, 小林宏光, 中山栄純, 垣花渉: 高齢者歩行の特徴をサイズ・速度・安定性から考える, 日本人類学会71回大会, 東京, 2017. 11
- 河野由美子, 桜井志保美, 小泉由美子, 森山治: 認知症グループホームの管理者における介護職の教育指導に対する認識, 第22回日本在宅ケア学会学術集会, 札幌, 2017. 7. 15
- *多田朱里, *越野美貴, 桜井志保美: 看護学生の介護観に関する実態調査—看護専門分野の履修有無に着目して—, 第37回日本看護科学学会学術集会, 仙台, 2017. 12. 17
- 北村佳子, 柳原真知子, 河野由美子, 岡山未来, 桜井志保美, 寺井孝弘: 看護学部1年次生の能動的学習をねらった模擬授業に対する評価, 第27回日本看護教育学会学術集会, 沖縄, 2017. 8. 17
- 清水暢子, 梅村朋弘, 松永昌宏, 平井一芳: 介護予防対象高齢者への鳴子を使用したMovement Music Therapy(MMT)の前頭葉機能への効果, 第7回 日本認知症予防学会 岡山コンベンションセンター(2017), 岡山, 2017. 9, 第7回日本認知症予防学会学術抄録集, 81, 2017
- 清水暢子, 梅村朋弘, 松永昌宏, 平井一芳, 山田恭子, 望月美也子, 加藤真弓, 長谷川昇: 軽度認知症高齢者の言語課題実施時の認知機能検査と前頭葉活性部位との関連, 第7回 日本認知症予防学会 岡山コンベンションセンター(2017), 岡山, 2017. 9, 第7回日本認知症予防学会学術抄録集, 87, 2017
- 清水暢子, 梅村朋弘, 松永昌宏, 平井一芳, 山田恭子, 望月美也子, 加藤真弓, 長谷川昇: 軽度認知症高齢者の社会生活面と認知機能との関連, 第7回 日本認知症予防学会 岡山コンベンションセンター(2017), 岡山, 2017. 9, 第7回日本認知症予防学会学術抄録集, 87, 2017
- 曾根志穂, 武山雅志, 金谷雅代, 林静子, 石垣和子: 地域住民における防災活動の実態と課題, 第45回北陸公衆衛生学会, 福井, 2017. 11, 第45回北陸公衆衛生学会, 44, 30, 2017
- 曾根志穂, 石垣和子: 地域住民が取り組む防災活動の実態とその意識, 第76回日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017. 10, 第76回日本公衆衛生学会総会抄録集, 64(10), 595, 2017
- 吉田和枝, 米田昌代, 曾山小織, 長谷川昇: 化粧行動と保健行動の関連性とヘルスプロモーションに向けての研究, 第11回看護実践学会学術集会, 金沢, 2017. 10, 第5回看護理工学会学術集会・第11回看護実践学会学術集会・国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第7回学術集会 合同学術集会プログラム・抄録集, 98, 2017

- 吉田和枝, 松野智香子, 小澤雪絵, 那波閨美, 米田昌代, 長谷川昇, 曾山小織: 化粧と健康について考える機会提供と化粧品被害予防の啓発活動の効果, 第11回看護実践学会学術集会, 金沢, 2017.10, 第5回看護理工学会学術集会・第11回看護実践学会学術集会・国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第7回学術集会 合同学術集会プログラム・抄録集, 98, 2017
- 多久和典子: 細胞の情報伝達と生理機能 (教育プログラム 生理学モデル講義 招待講演) 第95回日本生理学会大会, 高松 (香川県), 2018.3.29, 第95回日本生理学会大会プログラム集 p.173.
- PQ Hoa, K Yoshioka, SK Azadul, AT Khin, S Islam, S Aki, S Nakamura, N Takuwa, Y Takuwa. : Myotubularin-related protein 4 (MTMR4), a phosphoinositide 3'- specific phosphatase, regulates endolysosome integrity and autophagy flux in A549 human lung carcinoma cells. , 第40回日本分子生物学会年会 , 神戸, 2017.12.7-9, Abstract of the 40th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan , 40, 2017
- AT Khin, K Yoshioka, S Aki, PQ Hoa, SK Azadul, S Islam, K Ishimaru, N Takuwa, Y Takuwa. : Class II phosphoinositide 3-kinase isoforms PI3K-C2 α and PI3K-C2 β play essential roles in pinocytosis in vascular endothelial cells, 第 95 回日本生理学会大会 , 高松 (香川県), 2018.3.28, J Physiological Sci., 68, Suppl.1, S76, 2018
- SK Azadul, S Aki, K Yoshioka , Kuno, Y Okamoto, AT Khin, PQ Hoa, S Islam, N Takuwa, Y Takuwa. : Indispensable role of α and β isoforms of class II phosphoinositide 3-kinases (PI3K) in the uterine smooth muscle contraction during labor, 第 95 回日本生理学会大会 , 高松 (香川県), 2018.3.28, J Physiological Sci., 68, Suppl.1, S76, 2018
- PQ Hoa, K Yoshioka, SK Azadul, AT Khin, S Islam, S Aki, S Nakamura, N Takuwa, Y Takuwa. : Myotubularin-related protein 4 (MTMR4), a phosphoinositide 3'-phosphatase, regulates endolysosome integrity and autophagy flux in human lung alveolar epithelial A549 cells. , 第 95 回日本生理学会大会 , 高松 (香川県), 2018.3.29, J Physiological Sci., 68, Suppl.1, S76, 2018
- 多久和典子, 石丸和宏, 岡本安雄, 多久和陽: 抗がん剤による臓器障害におけるスフィンゴシン-1-リン酸 (S1P) 情報伝達系の関与 , 第27回日本病態生理学会大会 , 東京, 2017.8.19, 日本病態生理学雑誌, 26(2), 39, 2017
- 武山雅志, 岩脇陽子, 北岡和代, 室田昌子, 表志津子, 松本勝, 丸岡直子: 看護学生のコミュニケーション・スキルの変化, 第37回日本看護科学学会学術集会, 仙台, 2017.12, 第37回日本看護科学学会学術集会講演集, 007-3, 2017
- 武山雅志, 曾根志穂, 金谷雅代, *中谷朱里, 石垣和子: 地域の防災活動の継続と活性化を目指した公立看護系I大学の活動と役割 - 学生とともに担う災害につよい街づくり -, 日本災害看護学会第19回年次大会, 鳥取, 2017.8, 日本災害看護学会誌, 19(1), 76, 2017
- 田淵知世, *笠嶋風紗, *田嶋瑞穂, 丸岡直子: 地域包括ケア病棟における看護管・看護ケアの実態と課題-病棟看護師長へのグループインタビューから-, 第11回看護実践学会学術集会, 金沢, 2017.10, 第5回看護理工学会学術集会、第11回看護実践学会学術集会、国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第7回学術集会合同学術集会プログラム・抄録集, 110,

2017

*笠嶋風紗, *田嶋瑞穂, 田淵知世, 丸岡直子: 地域包括ケア病棟における看護管・看護ケアの実態と課題—退院調整看護師へのグループインタビューから—, 第11回看護実践学会学術集会, 金沢, 2017. 10, 第5回看護理工学会学術集会、第11回看護実践学会学術集会、国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第7回学術集会合同学術集会プログラム・抄録集, 111, 2017

*田嶋瑞穂, *笠嶋風紗, 田淵知世, 丸岡直子: 地域包括ケア病棟における看護管・看護ケアの実態と課題—病棟看護師へのグループインタビューから—, 第11回看護実践学会学術集会, 金沢, 2017. 10, 第5回看護理工学会学術集会、第11回看護実践学会学術集会、国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第7回学術集会合同学術集会プログラム・抄録集, 111, 2017

千原裕香, 西村真実子, 金谷雅代, *本部由梨, 伊達岡五月, *寺井孝弘, 成田みぎわ, 坂本洋子: 高校生のための「親子交流を通して親になることを考えるプログラム」の効果と課題, 日本子ども虐待防止学会第23回学術集会ちば大会, 千葉, 2017. 12, 日本子ども虐待防止学会第23回学術集会ちば大会プログラム・抄録集, 224, 2017

千原裕香, 西村真実子, 金谷雅代, 坂本洋子, *本部由梨, *寺井孝弘, 伊達岡五月: 高校生の子どもや子育てに対する意識とその関連要因, 第5回看護理工学会学術集会 第11回看護実践学会学術集会 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第7回学術集会 合同学術集会, 金沢, 2017. 10, 第5回看護理工学会学術集会 第11回看護実践学会学術集会 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第7回学術集会 合同学術集会 プログラム・抄録集, 100, 2017

塚田久恵, 石垣和子, 田畑正司: 夜間交代制勤務従事者のいる事業所のヘルスリテラシーの特徴と保健行動との関連, 第27回日本産業衛生学会全国協議会, 高知, 2017. 11, 第27回日本産業衛生学会全国協議会講演集, 111, 2017

塚田久恵, 石垣和子, 田畑正司: 事業所における夜間交代制勤務従事者のヘルスリテラシーと保健行動の特徴, 第76回日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017. 10, 第76回日本公衆衛生学会総会抄録集, 64(10), 659, 2017

*山本歩美, *松本万弥, *吉村由里子, 田村幸恵, 中田弘子: ゲル状擦式手指消毒剤の使用量と擦り込みの有無が手指の汚染除去効果に与える影響, 看護実践学会学術集会抄録集, 83, 2017

中道淳子, *元川瞳, *青木知佳子, *竹島梨紗, 磯光江, 北山礼子: 認知症高齢者とケアスタッフが共に笑いヨガを行った際の唾液アミラーゼ活性値の変化, 第18回日本認知症ケア学会, 沖縄, 2017. 5, 日本認知症ケア学会誌, 16(1), 315, 2017

子吉知恵美: 子育て期にある在宅がん終末期療養者に対する訪問看護師による支援, 第22回日本在宅ケア学会学術集会, 北海道, 2017. 7, 第22回日本在宅ケア学会学術集会抄録集, 243, 2017

子吉知恵美: 発達障害児の早期療育のための保護者の思いに寄り添った保健師による支援に関する研究, 日本地域看護学会 第20回学術集会, 大分, 2017. 8, 日本地域看護学会 第20回学術集会 講演集, 112, 2017

Chiemi Neyoshi: Survey on Public Health Nurse's Support for Early Support According

- to Acceptance of Disorder by Parents of Children with Autism Spectrum Disorder, The 2nd Asia-Pacific Nursing Research Conference, Taipei, 2017.8, The 2nd Asia-Pacific Nursing Research Conference, 2017
- 伊藤美香, 瀧耕子: 産後サポート終結時の家事・育児技術の習得状況と不安に関する一考察, 第73回日本助産師学会, 品川, 2017.6, 平成29年度(第73回)公益社団法人日本助産師学会抄録集, 24, 2017
- 石井美里, 瀧耕子: 死産を経験した母親に対する必要なケアに関する文献検討, 第34回石川県母性衛生学会総会・学術集会, 第32回北陸母性衛生学会総会・学術集会, 金沢, 2017.7
- 高木明日香, 瀧耕子: 妊娠期の女性が産前に就労継続する要因の文献検討, 第34回石川県母性衛生学会総会・学術集会, 第32回北陸母性衛生学会総会・学術集会, 金沢, 2017.7
- Kohko Hama: The Expertise and Education of Midwives in Japan, China-Japan-Korea Nursing Forum in Ishikawa, 金沢, 2017.8, 日中韓看護フォーラム いん いしかわ プログラム(講演資料添付), 3-5, 2017
- 永江真弓, 武海栄, 瀧耕子, 門脇千恵: 若者が医療者に望むデートDV被害者支援, 第58回日本母性衛生学会総会・学術集会, 神戸, 2017.10, 母性衛生, 58(3), 192, 2017
- 城賀本晶子, 瀧耕子, 濱田雄行, 松原圭一, 杉山隆: 妊娠期から産褥期までを支援する姿勢補整と骨盤矯正機能を付加したサポートアンダーウェアの開発, 第58回日本母性衛生学会総会・学術集会, 神戸, 2017.10, 母性衛生, 58(3), 220, 2017
- 城賀本晶子, 瀧耕子, 濱田雄行, 松原圭一, 杉山隆: 姿勢補整と骨盤矯正機能を付加したサポートアンダーウェアの着用が身体に与える影響, 第58回日本母性衛生学会総会・学術集会, 神戸, 2017.10, 母性衛生, 58(3), 221, 2017
- 渡部香名映, 瀧耕子: 双子の母親と共に双子育児を行う祖母の生活の実態と適応状況～孫二人の世話が中心となる祖母の生活, 第58回日本母性衛生学会総会・学術集会, 神戸, 2017.10, 母性衛生, 58(3), 286, 2017
- 林一美, 石川倫子, 塚田久恵, 松本智里, 大江真吾: 過疎地の訪問看護師が必要としてる高度実践力, 日本在宅ケア学会, 札幌, 2017.7.15, 第22回日本在宅ケア学会学術集会, 211, 2017
- 林一美: 過疎地域における訪問看護師の認識する地域課題, 第48回 日本看護学会, つくば, 2017.9.14, 第48回 日本看護学会-在宅看護-学術集会抄録集, 107, 2017
- 林静子, 丸岡直子, 武山雅志, 石川倫子, 田淵知世, 田村幸恵, 吉田千文, 樋口キエ子: 看護師による在宅療養移行支援質指標の開発 一病棟看護師用一(第2報), 第37回日本看護科学学会学術集会, 仙台, 第37回看護科学学会学術集会講演集, 2017.12,
- 林静子: The structure of clinical judgment making based on nurse's visual observation, HCI International, カナダ・バンクーバー, 2017.7
- 牧野智恵, 簀下佳子, 長谷川昇: 便座に付着したシクロフォスファミドの効果的な除去方法の検討, 第32回日本がん看護学会, 千葉, 2018.2.4, 第32回日本がん看護学会学術集会, 32, 255, 2017
- 簀下佳子, 牧野智恵, 長谷川昇: 排泄環境におけるシクロフォスファミド汚染の実態, 第48回日本看護学会, 北海道, 2017.10.12-13, 第48回日本看護学会-看護管理-学術集会抄録集, 132, 2017
- 高野智早, 牧野智恵: がん患者のセクシャリティに対する看護実践に影響を与える要因の検

- 討, 第32回日本がん看護学会, 千葉, 2018. 2. 4, 第32回日本がん看護学会学術集会, 32, 235, 2017
- 丸岡直子, 武山雅志, 林静子, 石川倫子, 田淵知世, 田村幸恵, 吉田千文, 樋口キエ子: 看護師による在宅療養移行支援質指標の開発(第1報)ー外来看護師用ー, 第37回看護科学学会学術集会, 仙台, 2017. 12, 第37回看護科学学会学術集会講演集, [PA-41-9], 2017
- 瀬戸乃扶子, 中尾弥生, 板谷康代, 田中苑, 南堀直之: Rapid Response System導入後の院内急変対応の実態調査, 第19回日本救急看護学会, 金沢, 2017. 10, 第19回日本救急看護学会学術集会プログラム・抄録集, 19(3), 304, 2017
- 田中苑, 南堀直之, 瀬戸乃扶子, 板谷康代, 畠野智江, 島村明日香: RRT要請時に看護師が直面した困難感, 第19回日本救急看護学会, 金沢, 2017. 10, 第19回日本救急看護学会学術集会プログラム・抄録集, 19(3), 266, 2017
- 村井嘉子: 会長講演: 地域包括ケアシステム時代の救急看護ー救急看護師個人の実践力を組織へと浸透・拡張させるー, 第19回日本救急看護学会学術集会, 金沢, 2017. 10, 日本救急看護学会学術集会プログラム・抄録集, 19(3), 63, 2017
- 佐々木智美, 庄野和実, 島瀬里奈, 村井嘉子: 急変8時間前から急変確知までの課題とその教育に関する検討, 第19回日本救急看護学会学術集会, 金沢, 2017. 10, 日本救急看護学会学術集会プログラム・抄録集, 19(3), 257, 2017
- 田中陽子, 村井嘉子: クリティカルケア看護師の患者の《記憶のゆがみ》に対するアプローチの特徴, 第19回日本救急看護学会学術集会, 金沢, 2017. 10, 日本救急看護学会学術集会プログラム・抄録集, 19(3), 305, 2017
- Masayo Yoneda, Keiko Shimada: Usefulness of post-discharge perinatal grief care and tentative design of a regional cooperation system by the Delphi method, 31st ICM Triennial Congress, Toronto, 2017. 6, 31st ICM Triennial Congress Final Programme, 170, 2017
- 米田昌代: 退院後の周産期のグリーフケアと地域連携システムモデル試案の妥当性の検討, 一般社団法人日本助産学会第8回(第32回)学術集会, 横浜, 2018. 3, 一般社団法人日本助産学会第8回(第32回)学術集会集録, 31(3), 469, 2018
- 高科瞳, 米田昌代: 流産・死産新生児死亡を体験した母親の医療施設退院後の悲嘆反応・思いとケアについての文献検討, 第32回北陸母性衛生学会総会・学術集会, 金沢, 2017. 7, 第32回北陸母性衛生学会総会・学術集会抄録集, 7, 2017
- 渡辺達也, 垣花渉, 川島和代: 地域在住高齢者の「歩くことを意識した生活プログラム」の開発に関する研究ー導入後の主観的变化を通してー, 第24回日本未病システム学会学術総会, 神奈川, 2017. 11, 第24回日本未病システム学会学術総会抄録集, 143, 2017

6.5 社会活動・地域貢献

浅見洋: 西田哲学会 理事

浅見洋: 日本宗教学会 理事

浅見洋: 比較思想学会 理事

浅見洋: 北陸宗教文化学会 理事・監事

浅見洋：日本エンドオブライフケア学会 理事・市民と専門職の協働委員会委員長
浅見洋：日本医学哲学・倫理学会 評議員・学会運営委員
浅見洋：石川県西田幾多郎記念哲学館 館長
浅見洋：公益信託能登町エンデバーファンド21 審議委員
浅見洋：石川県博物館協会 監事
浅見洋：西田幾多郎博士頌徳会 理事
浅見洋：鈴木大拙・西田幾多郎記念 金沢大学国際賞選考委員
浅見洋：北國新聞「新聞を読んでコンクール」審査員
浅見洋：（講演）石川県民大学、女性哲学者のフロンティアー高橋ふみ，西田幾多郎記念哲学館，2017. 4.
浅見洋：（セミナー主催）自分らしい人生の旅立ちを考える，聖路加国際大学学術センター，2017. 4. 22
浅見洋：（講師）石川県教員（社会科、地歴公民科）研修 西田教育論—人間を形成するとはどういうことか，石川県教育センター，2017. 6. 14
浅見洋：（講演）高田博厚没後三十周年記念イベント 思索の灯:指で思索するということ—高田博厚の生涯と思索—，松山市民活動センター，2017. 6. 17
浅見洋：（対談司会）企画展イベント 女性と哲学，西田幾多郎記念哲学館，2017. 7. 2
浅見洋：（講義）金沢検定対策講座 ～中級・上級合同クラス～ 思想/教育，北國新聞文化センター，2017. 7. 8
浅見洋：（講演）野々市市寿大学，西田幾多郎における人生の問題，野々市公民館，2017. 7. 21
浅見洋：（講義）認知症看護認定看護師教育課程「看護倫理」，石川県立看護大学研修室，2017. 7. 24、25
浅見洋：（指導・アドバイザー）がんサロン・学びの会，石川県社会福祉会館，2017. 8. 5
浅見洋：（講演）緩和ケア講演会，エンドオブライフケアと日本人の死生観，市立砺波総合病院，2017. 7. 28
浅見洋：（講演）人生哲学よもやま話，曙会館（金沢市金石），2017. 8. 27
浅見洋：（講演）石川県女性歯科医師会例会，鈴木大拙に触れる，金沢東急ホテル，2017. 9. 10
浅見洋：（講座）金沢市高砂大学，鈴木大拙に触れる，金沢市中央公民館（彦三），2017.10、11、12
浅見洋：第1回エンドオブライフケア学会会長講演座長，学士会館（東京），2017. 9. 16
浅見洋：比較思想学会研究発表第一部司会，中央大学，2017. 7. 18
浅見洋：（講義）認定看護管理者教育課程（ファーストレベル）「看護倫理」，富山県看護協会，2017. 9. 20
浅見洋：（講義）認定看護管理者教育課程（サードレベル）「看護倫理」，石川県立看護大学研修室，2017. 10. 25，26
浅見洋：（講演）石川県賢不全看護研究会，人工透析におけるエンドオブライフケア，JCHO金沢病院，2017. 11. 5
浅見洋：（講義）実習指導者研修会「看護倫理」，富山県看護協会，2017. 11. 9
浅見洋：（講義）国立長寿医療研究センター高齢者・在宅医療総合看護研修，死生観とEOLケア，国立長寿医療センター（愛知），2017. 12. 13
浅見洋：（講演）金沢百万石ロータリークラブ，後期西田哲学における世界観と人生観，ホテル

日航金沢, 2018. 1. 18

浅見洋 : (対談) 企画展示イベント, 父・木村素衛からの贈り物, 西田幾多郎記念哲学館,
2018. 2. 12

浅見洋 : (座談会司会) 望ましい最後をどう迎えるかを考える, かほく市高齢者ケアセンター,
2017. 2. 25

阿部智恵子 : 石川県准看護師試験委員

石垣和子 : 石川県医療審議会委員

石垣和子 : 石川県医療計画推進委員

石垣和子 : 大学コンソーシアム石川理事

石垣和子 : 石川県ユニセフ協会評議員

石垣和子 : NPO法人 いしかわ在宅支援ねっと理事

石垣和子 : かほく市介護保険運営協議会委員

石垣和子 : 沖縄県立看護大学外部評価委員

石垣和子 : 日本ルーラルナーシング学会理事

石垣和子 : 日本家族看護学会監事

石垣和子 : 文化看護学会理事／編集委員長

石垣和子 : 日本看護系大学協議会プライマリケア看護ナースプラクティショナー教育課程審査
委員

石垣和子 : かほく地区日中友好協会会長 (石川県)

石川倫子 : 厚生労働省看護教員養成講習会事業 評価委員

石川倫子 : 日本看護協会 特定行為研修管理委員会 委員

石川倫子 : 看護実践学会 査読委員

石川倫子 : 石川県看護教員現任研修 講師, 石川県立看護大学, 2017. 6. 3、6. 17、8. 25、8. 26

石川倫子 : 教務主任養成講習会講師 (看護学教育評価), 東京慈恵医科大学, 2017. 8~9月

磯光江 : H29年度認知症看護対応力向上研修 ファシリテーター, 金沢医科大学病院, 2017. 9. 24

磯光江 : 第19回日本救急看護学会学術集会 企画実行委員, 金沢歌劇座及び本多の森ホール,
2017. 10. 6~7

磯光江 : かほく市「生涯現役」ランチフォーラム 講師, かほく市七塚健康福祉センター,
2018. 2. 13

磯光江 : 河北中央病院 看護研究指導・講評, 河北中央病院, 2017. 5~12, 2018. 2. 15

磯光江, 中道淳子, 渡辺達也, 川島和代 : 高齢者ケア研究・事例検討会 企画実行, 石川県立
看護大学, 2017. 5~2018. 3

市丸徹 : 認知症基礎病態論, 石川県立看護大学, 2017. 7. 10, 7. 12, 7. 19

今井美和 : 日本病理学会学術評議員

今井美和 : 石川県立看護大学 衛生委員会 衛生管理者

今井美和 : 2017年春 LOVE49 全国街頭予防・啓発アクション『子宮頸がんを予防する日』集中キャ
ンペーン, イオンタウン金沢市示野マックスバリュ棟前, 2017. 4. 9

今井美和 : 平成29年度 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 (北信がんプロ) SD講演
会「医療者・患者への抗がん剤曝露予防を考えよう」司会, ホテル金沢, 2018. 2. 24

岩城直子 : 第19回日本救急看護学会学術集会査読者

岩城直子：第19回日本救急看護学会学術集会企画・実行委員
岩城直子：第32回日本がん看護学会学術集会査読委員
岩城直子：第32回日本がん看護学会学術集会 座長
岩城直子：北信がんプロ 教務委員
岩城直子：第一回北信がんプロ合同市民公開講座 座長
岩城直子：JICAタイ青年研修 実施
岩城直子：臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編 企画・実施
岩城直子：ケアの意味をみつめる事例研究 実施
岩城直子：臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編 企画・実施
岩城直子：ライフステージ事例検討会 企画・実施
岩城直子：看護研究講義・指導，富山県立中央病院，2017. 11. 10, 12. 26, 2018. 2. 9
岩城直子：富山大学附属病院新人研修「メンタルヘルスの自己管理」講演，富山大学附属病院，
2018. 2. 23
岩城直子，金谷雅代，林静子，山崎智可，樋口麻衣子：ライフステージ事例検討会，石川県立看護大学，
2017. 6. 6, 7. 4, 8. 1, 10. 3, 11. 7, 12. 5, 2018. 2. 6, 3. 6.
岩城直子，金谷雅代，林静子，山崎智可，樋口麻衣子：ケアの意味をみつめる事例研究，石川
県立看護大学，2018. 1. 28.
大江真吾：看護研究指導，国立病院機構 金沢医療センター，2017. 7. 4, 7. 5, 7. 11, 10. 3, 10. 4,
10. 5
大西陽子：第19回日本救急看護学会学術集会 企画・実行委員
織田初江：津幡町健康推進協議会委員
織田初江：羽咋市国保運営協議会委員
織田初江，山崎智可，金子紀子：限界集落における閉じこもり予防活動，宝達志水町，2017. 6. 18, 8.
27,
垣花涉：日本体力医学会 学会評議員
垣花涉：石川県大学健康教育研究会 委員
垣花涉：石川県広域スポーツ支援センター「クラブネットいしかわ」運営委員会 委員
垣花涉：かほく市観光物産協会 理事
垣花涉：初年次教育実践交流会 in 北陸 実行委員長
垣花涉：「ワクワク健康サークル」活動，看護大学，2017. 4～2018. 3
垣花涉：棚田が織りなす食・緑・健康の郷づくり，津幡町興津地区，2017. 4～2018. 3
垣花涉：「健康カフェ」事業，津幡町中条地区公民館，2017. 4～2018. 3
垣花涉：講演 平成29年度津幡町老人クラブ連合会総会「スモールチェンジ活動 少しの運動
であなたは大きく変わる」，津幡町福祉センター，2017. 5
垣花涉：講義 石川県地域スポーツ指導者養成講習会「中高齢者の体力とスポーツ指導」，いし
かわ総合スポーツセンター，2017. 6
垣花涉：講義 平成29年度津幡町高齢者健康ウォーキング事業「ウォーキングを始める前に」，
津幡町種谷地区防災センター，2017. 6
垣花涉：講義 かほく市立高松小学校6年生「食育授業」，体育館ミーティングルーム，2017. 7
垣花涉：講義 平成29年度のいちコミュニティ・カレッジ「今からできる健康法ースモールチェ

ンジ活動のススmer」, 野々市市中央公民館, 2017. 7

垣花渉: シティーカレッジ授業「石川の市町、かほく市・」 授業コーディネーター, 石川県政記念しいのき迎賓館, 2017. 7

垣花渉: 招待講演 平成29年度白山・野々市学校保健研究協議会, 白山市交流センター, 2017. 12

垣花渉: 「健康講座」, 津幡町刈安地区公民館, 2018. 2

垣花渉: 講義 「高齢者の健康について」, NPO法人いしかわ在宅支援ねっと, 2017. 10, 11

垣花渉, 北山幸枝, 川村みどり, 村井嘉子, 林一美, 木森佳子, 中田弘子, 米田昌代, 市丸徹, 金谷雅代, 林静子: 初年次教育実践交流会in北陸実行委員, 金沢, 2017. 5. 20

堅田三和子: 平成29年度専門的看護実践力研修「認知症看護」講義, 石川県庁, 2017. 10. 2

加藤穰: 編集委員: 丸善出版『生命倫理百科事典(第2版)』翻訳刊行

加藤穰: Senior Reviwer, the International Academic Forum

加藤穰: 生命科学と倫理(S), 立命館大学産業社会学部, 2017. 9. 26-2018. 3. 31

加藤穰: 生命科学と倫理(L), 立命館大学文学部, 2017. 9. 26-2018. 3. 31

金谷雅代: 「小児保健コンサルテーション」講義, 石川県立保育専門学園, 2017. 4~7

金谷雅代: 看護研究指導・講評, 浅ノ川総合病院, 2017. 5. 27, 6. 17, 9. 30, 11. 25

金谷雅代, 西村真実子, 米田昌代: 子育てどろっぷ・イン・さろん NP親育ち・子育てを考える会ファシリテーター, 北陸スウェーデンハウス(金沢市), 2017. 6~10

金谷雅代: 富木医療器株式会社 社員研修会講師, 金沢流通会館, 2017. 7

金谷雅代: 医療的ケア研修会講師, 石川県立明和特別支援学校, 2017. 8. 10

金子紀子: かほく市介護認定審査会委員

金子紀子: 看護研究指導・講評, 珠洲市総合病院, 2017. 7~2018. 2

金子紀子: JICA青年研修 講師, 2017. 12

金子紀子: か歩く健康ウォーキング事業 健康レッスン講師, イオンモールかほく, 2017. 12. 22

金子紀子: 女性のエンパワーメント支援事業 講師, 金沢市女性センター, 2018. 3. 3

亀田幸枝: 第26回~第28回 金沢がん哲学外来, 金沢がん哲学外来事務局, 2017. 9. 24, 11. 19
2018. 2. 18

川島和代: 大学コンソーシアム石川「グローバル人材育成・共創インターンシップ専門部会」委員

川島和代: かほく市地域ケア推進会議 委員

川島和代: 石川県後期高齢者医療懇話会 副座長

川島和代: 石川県介護保険審査会 委員

川島和代: 看護科学研究学会 理事

川島和代: 看護実践学会 理事・査読委員

川島和代: 高齢者ケア協会 理事

川島和代: 日本看護科学学会 社員

川島和代: 日本未病システム学会 評議員・査読委員

川島和代: 日本老年看護学会 評議員・査読委員・生涯学習支援委員会委員

川島和代: 日本看護研究学会 評議員

川島和代: 日本看護研究学会近畿・北陸地方会世話人

川島和代: NPOトトロの家 理事

川島和代：NPOまちかど倶楽部たかまつ 理事

川島和代：石川県介護支援専門員協会 河北支部 運営支援

川島和代：院内研修「看護過程展開能力を高める1」講師，春日井市民病院，2017.6

川島和代：院内研修「看護過程展開能力を高める2」講師，春日井市民病院，2017.11

川島和代他：日中韓看護フォーラム in いしかわ パネラー，ホテル金沢他，2017.8.

川島和代，清水暢子：北國健康生きがい支援事業 平成29年度石川県立看護大学プログラム「認知症者700万人時代をしなやかに迎える」講師，北國新聞20階ホール，2017.9.

川島和代他：一般社団法人日本老年看護学会 平成29年度 認知症看護対応力向上研修企画・運営・講師，金沢医科大学病院研修棟，2017.9.

川島和代：JICA日系研修「高齢者の理解と対応」講師，石川県立看護大学スキルラボ室，2017.6.

川島和代：JICA青年研修「看護人材の育成について」代理講師，石川県立看護大学小講義室，2017.12.

川島和代：石川県立盲学校「介護実習」講師，石川県立看護大学スキルラボ，2017.9.

川島和代：かほく市における介護従事者研修 講師，石川県立看護大学成人老年看護学実習室，2017.9

川島和代：平成29年度ネクストリーダー研修「介護福祉士と医療的ケア」研修講師，石川県社会福祉会館別館，2017.12.

川島和代：石川県における喀痰吸引等研修事業 全体コーディネーター、講師 前期，石川県立看護大学地域ケア総合センター研修室，2017.5.

川島和代：石川県における喀痰吸引等研修事業 全体コーディネーター、講師 後期，七尾サンライフプラザ，2017.9.

川島和代：地域で認知症をサポートする会 特別講義 座長，石川県立看護大学講堂，2017.7.

川島和代他：平成29年度看護キャリア支援センター 認知症看護認定看護師教育課程「認知症者へのコミュニケーション」講師，石川県立看護大学小講義室，2017.8.

川島和代他：平成29年度喀痰吸引等研修事業 指導者フォローアップ研修，石川県立看護大学基礎看護学実習室，2017.5.

川島和代他：平成29年度喀痰吸引等研修事業 第2回指導者フォローアップ研修，石川県立看護大学 成人老年看護学実習室，2018.1.

川島和代他：第19回日本救急看護学会学術集会企画委員，石川県立看護大学 金沢歌劇座，2017.10.

川島和代：第24回日本未病システム学会学術総会 ポスター発表 座長，ワークピア横浜，2017.11.

川端京子：第19回日本救急看護学会学術集会 企画実行委員

川村みどり：看護実践学会誌査読委員

川村みどり：研究指導，石川県立高松病院 東1病棟，2017.6～2018.3

川村みどり：看護研究指導・講評，公立宇出津総合病院，2017.6～2018.3

川村みどり：精神障害を有する人の地震等災害避難に関する情報提供，石川県立看護大学，2017.7

川村みどり：平成27年度 第7回つるまセミナー講師，金沢大学保健学類，2017.12

北山幸枝：日本褥瘡学会 評議員
北山幸枝：第19回日本救急看護学会学術集会 企画・実行委員
北山幸枝，米澤直子：金沢アートグミつまみぐみ講座「おやすみ前のクスリ箱」講師，北國銀行武蔵ヶ辻支店3階（金沢市），2018. 3. 8
木森佳子：看護理工学会査読委員
木森佳子：看護研究指導・講評，公立能登総合病院，2017. 6，2018. 1
木森佳子：石川看護協会訪問看護研修ステップ1 フィジカルアセスメント講師，石川県看護協会，2017. 7
木森佳子：認定看護管理者教育課程サードレベル「アカデミックリテラシー」講義，石川県立看護大学研修室，2017. 10
木森佳子：第5回看護理工学会学術集会、第11回看護実践学会学術集会、国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第7回学術集会合同学術集会実行委員，金沢大学医学類宝町キャンパス，2017. 10
小林宏光：日本生理人類学会理事
小林宏光：Journal Physiological Anthropology. Associate editor
小林宏光：千葉大学健康環境フィールド科学センター倫理審査委員会外部委員
小林宏光：International Journal of Environmental Research and Public Health. Guest editor for special issue.
小林宏光：Journal Physiological Anthropology. Reviewer
小林宏光：International Journal of Environmental Research and Public Health. Reviewer
小林宏光：日本生理人類学会誌 査読担当
小林宏光：「睡眠とサーディアンリズム」講義，名古屋大学・大幸キャンパス，2016. 7
小林宏光：認定看護管理者教育課程（サードレベル）保健医療福祉組織論「組織デザイン 療養環境のデザイン」講義，石川県立看護大学，2016. 10
小林宏光：出張講義「バリアフリーって何？」，小松市立高校，2016. 11
小林宏光：「人間工学」講義，高岡看護専門学校，2017. 4-9
桜井志保美：かほく市障害者福祉計画委員
桜井志保美：「目のメンテナンス」健康講話，石川県立看護大学，2017. 8. 24
桜井志保美：「日本の訪問看護の現状」タイ青年研修講義，石川県立看護大学，2017. 11. 30
桜井志保美：「諸外国の地域看護活動」特別講義，金沢医科大学看護学部，2018. 1. 17
三部倫子：石川看護雑誌15巻 査読委員
三部倫子：社会理論・動態研究所 査読委員
三部倫子：関東社会学会 査読委員
三部倫子：日本社会学会第90回大会部会司会「性・ジェンダー（2）」
三部倫子：石川県庁人権シリーズ講座講師（依頼講演）
三部倫子：米国弁護士John Lewisを招いた講演会の実施，金沢大学サテライトオフィス，2017. 9. 7
三部倫子：第1回 LGBTと教育フォーラムin金沢——SDGs『誰も置き去りにしない』から考える、地域コミュニティにできること，しいのき迎賓館，2017. 11. 23
三部倫子：家族社会学特別講義「女性カップルの子育て——あるステップファミリーの場合」

ゲスト講師小野春氏を招いて、石川県立看護大学，2017.11.28

清水暢子：認知症疑似体験認知症サポーター養成講座，福井県永平寺町役場永平寺支所2階消防ホール，2016.7.7

清水暢子：永平寺町介護予防教室，福井県永平寺町福祉総合センター翠荘2階保健会議室，2016.7.18

清水暢子，日本ALS協会福井支部：日本ALS協会福井支部総会&講演会・事務局，敦賀市立看護大学，2017.6.28

清水暢子：認知症疑似体験認知症サポーター養成講座，福井県松岡福祉総合センター翠荘2階，2017.7.7

清水暢子：認知症疑似体験認知症サポーター養成講座，福井県永平寺町やすらぎの郷ふれあいホール，2017.7.13

清水暢子：看護研究指導，石川県立高松病院 北3病棟，2017.7-2018.3

清水暢子：「認知機能低下予防のための音楽運動療法の実際」出張オープンキャンパス，富山県立南砺福光高等学校，2017.7

瀬戸清華：平成29年度石川県難病医療拠点病院等連絡会 助言者，石川県庁行政庁舎1階102会議室，2018.3.16

曾根志穂：かほく市介護保険認定審査会委員

曾根志穂：宝達志水町在宅医療・介護連携推進協議会委員

曾根志穂：看護研究指導・講評，国民健康保険志雄病院，2017.9～2017.12

曾根志穂：薬物乱用防止教室，かほく市立大海小学校，2017.11

曾根志穂：「看護の統合と実践 I（看護研究）」講義，金沢医療技術専門学校，2018.9～2018.10

多久和典子：日本生理学会評議員・将来計画委員長・FAOPS2019拡大広報委員

多久和典子：自然科学研究機構生理学研究所運営会議委員

多久和典子：日本学術会議会員（第24-25期）

多久和典子：第17回生理学若手サマースクール「基礎生理学講義 ～今更聞けない生理学の基礎～」講師，2017.8.19-20 順天堂大学（東京都文京区）

多久和典子：石川県公害審査会委員

多久和典子：金沢大学大学院医薬保健学総合研究科協力研究員・非常勤講師

多久和典子：出張オープン・キャンパス「からだの小宇宙」，石川県立大聖寺高校，2017.7.11

多久和典子：石川県立看護大学地域ケア総合センター人材育成事業「ベッドサイドで役立つ臨床推論ー症状・フィジカルから検査までー」講師，石川県立看護大学附属図書館，2017.9.30

武山雅志：石川県精神保健福祉協会副会長

武山雅志：石川県精神保健福祉協会会報編集委員

武山雅志：石川県臨床心理士会会長

武山雅志：生徒指導・発達障害サポートチーム委員

武山雅志：（財）いしかわ女性基金運営委員

武山雅志：（公）金沢こころの電話相談役

武山雅志：（公）石川被害者サポートセンター副理事長

武山雅志：金沢市保健審議会委員

武山雅志：金沢市いじめ防止等対策委員会委員

武山雅志：かほく市不登校問題対策運営協議会委員

武山雅志：かほく市地域交通会議委員

武山雅志：かほく市ケーブルテレビ放送番組審議会委員

武山雅志：羽咋郡市広域圏事務組合情報公開及び個人情報保護審査会委員

武山雅志：学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会委員

武山雅志：日本臨床心理士会代議員

武山雅志：日本心理臨床学会代議員

武山雅志：日本心理臨床学会査読委員

武山雅志：かほく市ボランティア連絡協議会総会講師，かほく市七塚健康福祉センター，
2017. 4. 2

武山雅志：家庭教育電話相談員研修会講師，石川県庁行政庁舎1103会議室，2017. 5. 16

武山雅志：訪問看護研修ステップⅠ「基礎研修」講師，石川県地場産業振興センター第4研修室，
2017. 6. 13

武山雅志：「お話し相手ボランティア講座」講師，かほく市七塚健康福祉センター，2017. 6. 21

武山雅志：輪島市推進員総合育成講座講師，輪島市ふれあい健康センター，2017. 8. 29

武山雅志：メンタルヘルス教育講師，ジャパンディスプレイ白山・石川・能美工場，2017. 9. 25、
10. 10、10. 27

武山雅志：セカンドレベル教育課程講師，石川県看護協会研修センター，2017. 10. 14

武山雅志：石川県警察学校専科講師，石川県警察学校，2017. 10. 4

武山雅志：平成29年度新人看護職員研修事業「教育担当者研修会」講師，金大病院CPDセンター，
2017. 10. 7

武山雅志：自殺対策人材育成研修会講師，コンセルのと 多目的ホール，2017. 12. 19

武山雅志：「心理学特殊講義A」非常勤講師，金沢大学，

武山雅志, 曾根志穂, 金谷雅代, 林静子：災害につよい街づくりフォーラム，石川県立看護大学，
2018. 1

谷本千恵：かほく市自立支援協議会 運営委員、会長，かほく市役所，2017. 4～2018. 3

谷本千恵：社会福祉法人のぞみ 理事，指定就労継続支援B型事業所 ひまわり，2017. 4～
2018. 3

谷本千恵：「能登・祭りの環」インターンシップ事業 矢波諏訪祭 参加・学生引率，能登町矢
波地区，2017. 8. 15, 16

田村幸恵：看護研究指導，JCHO金沢病院，2017. 5. 18、2017. 6. 29、2017. 10. 23、2017. 12. 18
2018. 2. 26

塚田久恵：日本公衆衛生看護学会査読委員

塚田久恵：北陸公衆衛生学会査読委員

塚田久恵：かほく市健康づくり推進協議会委員

塚田久恵：かほく市地域包括支援センター運営協議会委員

塚田久恵：かほく市地域福祉計画策定委員(副会長)

塚田久恵：小松市健康づくり推進協議会委員

塚田久恵：一般財団法人北陸産業活性化センター北陸サイエンスクラスター推進室北陸ライフ
ケアシステム研究会委員

塚田久恵, 武山雅志, 林静子, 千原裕香, 川島和代, 金子紀子: かほく市子育て支援学生ボランティア事業, かほく市こども総合センター, 2017. 4~2018. 3

塚田久恵, 曾根志穂, 金子紀子, 石垣和子: 高齢者と看護学生との交流事業, 石川県立看護大学, かほく市内住民宅, 2017. 5, 2017. 11

塚田久恵: JICA日系研修カントリーレポート発表会司会, 石川県立看護大学, 2017. 6

塚田久恵: イオンモールウォーキング事業 モール・健康レッスン講師, かほくイオンモール, 2017. 9

塚田久恵, 石垣和子, 曾根志穂, 金子紀子, 中田恭子, 竹島ゆり: 平成29年度新任保健師研修会講師, 石川県庁, 2017. 11. 14~16

塚田久恵: JICA青年研修地域保健医療実施管理コース講師, 石川県立看護大学, 2017. 12

塚田久恵, 武山雅志, 西田健一: かほく市いきいきシニア活動事業 スマホ・タブレットふれあい教室ー看護大生と交流しようー, 石川県立看護大学, 2017. 12

塚田久恵, 石垣和子, 中田恭子: 平成29年度新任保健師フォローアップ研修会講師, 石川県庁 石川県能登中部保健福祉センター 石川県南加賀保健福祉センター, 2018. 2. 9, 2. 13, 2. 16, 2. 27

塚田久恵, 武山雅志, 川島和代, 金子紀子, 林静子, 千原裕香: 石川県立看護大学「地域連携・貢献事業」, かほく市保育園職員会合同研修会「こどものこころを育てる遊び」, かほく市立大海保育園, 2018. 2

出口まり子: 認定看護管理者ファーストレベル教育課程 講師

出口まり子: 平成29年度新人看護職員研修事業検討委員会委員長

出口まり子: 平成29年度新人看護職員研修推進事業（アドバイザー派遣）におけるアドバイザー派遣, 事業受け入れ病院 金沢脳神経外科病院, 2017. 6. 23, 10. 11, 12. 14, 2. 17

出口まり子: つなげる・ささえる・つくりだす在宅療養移行支援研修 座長, 石川県立看護大学, 2017. 7. 1

出口まり子: 平成29年度新人看護職員研修推進事業（アドバイザー派遣）におけるアドバイザー派遣フォローアップのための派遣, 事業受け入れ病院 加賀こころの病院, 2017. 8. 9

出口まり子: 認定看護管理者ファーストレベル グループマネジメント講師, 石川県看護協会, 2017. 10. 3, 10. 31 - 11. 1

徳田真由美: 文化看護学会編集委員会委員

中田弘子: 公立羽咋病院 平成28年度看護部研修 講師

中田弘子: かほく市食育推進連絡会委員

中田弘子: 石川腎不全看護研究会事例検討, 独立行政法人 地域医療機能推進機構 金沢病院, 2017. 2. 11

中田弘子: 平成29年度 初年次教育実践交流会in北陸 委員, 金沢市, 2017. 5. 20

中田弘子, 川島和代: 平成29年度石川県立看護大学附属地域ケア総合センター事業 看護実践力向上セミナー ジェネラリストのための事例検討, 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター, 2017. 7. 24, 11. 26

中田弘子: かほく健康ウォーキング事業 健康レッスン講義, かほく市イオンモール, 2017. 7. 28, 8. 21~22, 2018. 3

中田弘子: 平成29年度看護科学研究会北陸研修 金沢学習会 チューター, 独立行政法人 地域医療機能推進機構 金沢病院, 2018. 6. 24, 2018. 2. 3

中道淳子：日本認知症予防学会 評議委員
中道淳子：第19回日本救急看護学会 企画実行委員
中道淳子：宝達志水町 介護認定審査委員
中道淳子：石川県介護支援専門員実務研修企画委員
中道淳子：津幡町介護予防メイト養成講座 講師
中道淳子：出張オープンキャンパス模擬授業 講師，富山県立南砺福野高校，2017.7.4
中道淳子：JICA日系研修 コーディネーター・講師，石川県立看護大学，2017.7
中道淳子：ハマナス大学「介護予防教室」講師，内灘町文化会館，2017.9.15
中道淳子：「認知症認定看護師教育課程」講義，石川県立看護大学，2017.9
西村真実子：日本小児保健学会 代議員
西村真実子：石川県小児保健協会 役員
西村真実子：日本小児看護学会誌 査読委員
西村真実子：日本看護科学学会和文誌 査読委員
西村真実子：看護実践学会 理事
西村真実子：石川県要保護児童対策協議会専門家チーム 委員
西村真実子：石川県奨学生選考審査会 委員
西村真実子：親子交流授業プログラム検討委員(公益財団法人いしかわ子育て支援財団)
西村真実子：かほく市子ども・子育て会議 委員・会長
西村真実子：かほく市公私連携法人選定委員会 委員長
西村真実子：北陸小児糖尿病サマーキャンプ運営委員会 委員
西村真実子：NPO法人子どもの虐待防止ネットワーク石川 理事(副代表)
西村真実子，米田昌代，金谷雅代，曾山小織，千原裕香，坂本洋子，山田ちづる：子育てどろっふ・イン・さろんの開催(どろっふ・いん・るーむ&親育ち子育てを考える会、全5回)，北陸スウェーデンハウス(金沢市)，2017.6～10
西村真実子：平成29年度児童福祉司養成研修「児童虐待援助論」講師，石川県庁行政庁舎，2017.7.10.
西村真実子，金谷雅代，千原裕香，坂本洋子：子育て支援・子どもの虐待の勉強会(事例検討等)(全5回)の開催，石川県立看護大学，2017.9～12
西村真実子，米田昌代：BPプログラム(全4回)、フォローアップ1回のファシリテーター，かほく市子ども子育てセンター「おひさま」，2018.8、12
西村真実子，米田昌代：「Nobody's Perfect完璧な親なんかいない(NP)」親支援プログラム(全6回)のファシリテーター，かほく市子ども子育てセンター「おひさま」，2018.9～10
子吉知恵美：模擬授業，石川県立鹿西高校，2017.10.18
子吉知恵美：「日本における発達障害児支援」タイ青年研修講義，石川県立看護大学，2017.12.18
長谷川昇：石川県食品技術者ネットワーク 幹事
長谷川昇：Journal of Ethnopharmacology 査読担当
長谷川昇：来人喜人里創りプロジェクト事業 健康応援倶楽部，能登町 かほく市，2017.4-2018.3
長谷川昇：病態運動生理学，愛知医療学院短期大学(愛知県清須市)，2017.7
長谷川昇：認知症認定看護師教育課程講師「臨床薬理学」，石川県立看護大学，2017.8-2017.9

長谷川昇：講演「骨と健康」，金沢市，2017.9

長谷川昇：JICA青年研修講師「医薬分業制度と薬剤師の役割」，石川県立看護大学，2017.12

瀧耕子：日本公衆衛生学会 認定専門家

瀧耕子：日本母性衛生学会 愛媛県代議員（6月迄）

瀧耕子：日本看護倫理学会 機関誌「日本看護倫理学会誌」 査読者

瀧耕子：河北地区日中友好協会役員 理事

林一美：高松訪問看護ステーション運営委員

林一美：石川県国民健康保険団体連合会介護サービス苦情処理委員会委員

林一美：石川県防災会議震災対策専門委員

林一美：日本災害看護学会査読委員

林一美：津幡町介護認定審査会委員

林一美：かほく市地域密着型サービス運営協議会委員長

林一美：平成29年介護職員等による喀痰吸引等の実施のための研修，石川県立看護大学，2017.7.9

林一美，山崎智可：訪問看護と介護老人保健施設看護職員のためのフィジカルアセスメント，石川県立看護大学，2017.8.19

林一美：第19回災害看護学会年次大会 口演座長「災害看護教育」，鳥取県立倉吉未来中心，2017.8.25

林一美：第19回日本救急看護学会「市民公開講座」座長，金沢歌劇場，2017.9

林静子：看護研究指導・講義，独立行政法人国立病院機構金沢医療センター，2017.6.6

林静子：かほく市イクメン事業 親子ふれあい遊び ボランティア，アクロス高松，2017.7.2

林静子：石川県看護学会・講評，石川県地場産業振興センター，2017.11.11

林静子：かほく市ボランティア交流広場 学生発表引率，七塚健康福祉センター，2017.12.10

牧野智恵：日本がん看護学会誌投稿論文査読委員

牧野智恵：第32回日本がん看護学会学術集会査読委員

牧野智恵：日本がん看護学会代議員

牧野智恵：日本看護科学学会代議員

牧野智恵：第23回石川緩和医療研究会世話人

牧野智恵：第19回日本救急看護学会学術集会企画・実行委員

牧野智恵，松本智里，南堀直之，山崎智可：グリーフの理解とナースに求められること，石川県立看護大学，2017.7.2

牧野智恵：研修名「考えよう！臨床現場の倫理」講師。石川看護協会，石川県地場産業振興センター，2018.10.1

牧野智恵：「がん患者の心のケア」講師。金沢大学附属病院，金沢大学附属病院，2018.9.16

牧野智恵：「グリーフの理解とナースに求められること」北信がんプロ企画・座長。北信がんプロ，石川県立看護大学，2017.7.2

牧野智恵：「医療者・患者への抗がん剤曝露予防を考えよう」北信がんプロ企画・座長。北信がんプロ，ホテル金沢，2018.2.24

松本智里：公立能登総合病院 研究指導・講評

松本智里：日本運動器看護学会認定運動器看護師育成講座 コースIV実践事例報告 評価委員

丸岡直子：石川県看護協会認定看護管理者教育制度運営委員
丸岡直子：日本看護学教育学会 専任査読委員
丸岡直子：日本看護研究学会 評議員・査読委員
丸岡直子：日本老年看護学会 代議員・査読委員 査読担当
丸岡直子：看護実践学会 専任査読委員
丸岡直子：石川県認知症医療体制推進委員会 委員
丸岡直子：石川県医療計画推進委員会在宅療養対策部会 委員
丸岡直子：石川県立中央病院地域医療支援委員会 委員
丸岡直子：かほく市創生総合戦略推進計画策定に係る外部評価委員会 委員長
丸岡直子：かほく市空家等対策審議会 会長
丸岡直子：日本看護学校協議会共済会 代議員
丸岡直子：訪問看護推進事業研修会 講師「在宅療養移行支援」，石川県看護研修センター，
2017. 6. 20
丸岡直子：公開講座 学都石川の才知 講師「人々の在宅療養移行を支援する看護師の役割」，
しいのき迎賓館セミナールーム，2017. 7. 15
丸岡直子：認知症看護認定看護師教育課程 講師（看護管理），石川県立看護大学，2017. 7. 7、7. 25
丸岡直子：認知症看護認定看護師教育課程 講師（リーダーシップ），石川県立看護大学，
2017. 7. 28、8. 3、8. 7
丸岡直子：金沢医科大学大学院看護学研究科 非常勤講師（看護管理特論），金沢医科大学，
2017. 8. 25
丸岡直子：石川県看護協会認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程 講師（看護サービ
ス提供論-問題解決思考），石川県看護研修センター，2017. 11. 21
丸岡直子：石川県看護協会認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程 講師（クオリティマ
ネジメント），石川県看護研修センター，2017. 9. 28
丸岡直子：金沢大学大学院医薬保健学 講師（看護管理特論），金沢大学つるまキャンパス，
2017. 10. 23
丸岡直子：認定看護管理者教育課程サードレベル講師（看護経営者論），石川県立看護大学，
2017. 12. 5
南堀直之：第19回日本救急看護学会学術集会 企画実行委員
南堀直之：第19回日本救急看護学会学術集会 査読員
村井嘉子：第19回日本救急看護学会学術集会会長
村井嘉子：日本救急看護学会評議員
村井嘉子：日本救急看護学会査読員
村井嘉子：日本クリティカル看護学会査読員
村井嘉子：日本循環器看護学会査読員
村井嘉子：看護研究指導・講評，能美市立病院，2017. 7. 11、2017. 12. 3、2018. 2. 17
山崎智可：介護保険認定審査会委員
山崎智可：精神認定看護師の会，2017. 4. 1～2018. 3. 31.
山崎智可：北信がんプロ委員会企画委員，2017. 4. 1～2018. 3. 31.
山崎智可：日中韓国看護フォーラム，ホテル金沢，2017. 8. 11.

米田昌代：石川県看護協会 助産師職能委員
 米田昌代：日本看護研究学会 査読委員
 米田昌代：第12回看護実践学会学術集会 運営委員
 米田昌代：NPO法人ワークライフバランス北陸 副理事長
 米田昌代：SIDS家族の会 医学アドバイザー
 米田昌代：公益社団法人石川県看護協会主催 平成29年度石川県実習指導者講習会講師 母性看護学 2017. 6. 30、7. 7, 公益社団法人石川県看護協会, 2017. 6. 30、7. 7
 米田昌代：社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 平成29年度周産期医療研修会3〈看護Aコース:産科編〉周産期のグリーンケア 講義, 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会, 2017. 9. 21
 井関真理, 米田昌代：金沢市高岡中学校 平成29年度石川県看護協会 助産師が行ういのちの出前授業, 2017. 9. 15
 米田昌代, 佐藤良子：金沢市泉中学校 平成29年度石川県看護協会 助産師が行ういのちの出前授業, 2017. 11. 15
 米田昌代, 坂下美智恵：金沢市港中学校 平成29年度石川県看護協会 助産師が行ういのちの出前授業, 2017. 12. 8
 米田昌代, 曾山小織：ペリネイタル・グリーンケア検討会, 7月 石川県立看護大学 2月 かほく市立七塚生涯学習センター, 2017. 7. 8、2018. 2. 24
 米田昌代：あかちゃんをお空へみ送った方の自助グループに対するサポート活動, 石川県立看護大学, 通年
 渡辺達也：第19回日本救急看護学会学術集会 企画・実行委員

6.6 その他（受賞等）

石垣和子：新聞掲載, 屋台談義
 石川倫子：学位論文, 看護基礎教育課程および新人看護職員研修における看護技術の到達に関する調査研究, 2018. 3
 石川倫子：受賞, 日本私立看護系大学協会 会長賞, 2018. 3
 石川倫子：受賞, 東京医療保健大学大学院博士課程 学長賞, 2018. 3
 垣花渉：新聞掲載, 「地場野菜 ヘルシー弁当」 北陸中日新聞朝刊, 2017. 7
 垣花渉：新聞掲載, 「健康活動」 北國新聞朝刊, 2017. 10
 垣花渉：新聞掲載, 「かほく食材で健康弁当」 北國新聞朝刊, 2018. 1
 垣花渉：受賞, 平成29年度地域課題研究ゼミナール支援事業 優秀賞, 2018. 2
 垣花渉：テレビ出演, NHK総合「かがのとイブニング」, 2018. 2
 三部倫子：新聞掲載, コメント「同性婚、アメリカの現状は あす金沢でシンポ」 北陸中日新聞, 2017. 9
 三部倫子：新聞掲載, 実行委員として当日司会・通訳をした様子が掲載 北陸中日新聞, 2017. 9
 清水暢子：受賞, 石川県立看護大学 ベストティーチャー賞, 2017. 5
 清水暢子：受賞, 第7回 認知症予防学会学術集会 浦上賞 一般演題（口述）優秀賞, 2017. 9
 多久和典子：新聞掲載, 日本学術会議新会員 北國新聞朝刊, 2017. 10
 多久和典子：IPNU掲載, 「多久和教授が日本学術会議会員に任命されました」, 2017. 10

千原裕香：学位論文，石川県立看護大学修士学位論文 高校生のための「親子交流を通して親になることを考えるプログラム」の効果と課題，2017.3

中道淳子：受賞，第18回日本認知症ケア学会 石崎賞，2017.5

子吉知恵美：受賞，2015年度一般公募「在宅医療研究への助成」勇美賞受賞，2017.6

濱耕子：感謝状，China-Japan-Korea Nursing Forum in Ishikawa presentation 「The Expertise and Education of Midwives in Japan」，2017.8

丸岡直子：受賞，石川県立看護大学 ベストティーチャー賞，2017.5

6.7 研究助成金

6.7.1 科学研究費助成事業（日本学術振興会）

6.7.1.1 科学研究費補助金

1. 本学教員が研究代表者のもの

浅見洋，林晋，森雅秀，美濃部仁，秋富克哉，上原正麻有子：西田幾多郎のノート類史料の研究資料化と哲学形成過程の研究，H29～H32，科学研究費補助金基盤研究（B）

大木秀一：双生児家系世代間データによるライフコース疫学モデルでの不妊治療の長期影響の検証，H27～H30，科学研究費補助金基盤研究（B）

三部倫子：医療機関における家族—性的指向と性自認を軸とする患者・看護師の相互行為，H29～H30，科学研究費補助金研究活動スタート支援

2. 他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

奥裕美，中山洋子，三浦友里子，池西静江，松田安弘，石川倫子(他7名)：看護実践能力向上に寄与する看護教員・実習指導者の養成と継続教育に関する研究，平成29-30年度，厚生労働省看護科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業

鈴木みずえ，丸岡直子，泉キヨ子，他6名：認知症高齢者の転倒予防看護質指標による看護介入プログラムと実践継続システムの開発，平成26-29年度，科学研究費補助金基盤研究（B）

6.7.1.2 学術研究助成基金助成金

1. 本学教員が研究代表者のもの

石垣和子，大湾明美，宮崎美砂子，塚田久恵，曾根志穂，金子紀子，米澤洋美，他2名：住民の社会文化的背景に基づく保健師による個別支援方法の開発，H29-31，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

岩城直子：放射線療法中の乳がん患者へのPILテストを手がかりとした看護介入の活用可能性，H28-H31，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

大江真吾：ASD患者の語りから検討する看護師のケアに関する研究，H29～H30，学術研究助成基金助成金若手研究（B）

加藤穰：医療における良心的拒否を通じた権利擁護の射程と限界に関する日米比較調査，H29-31，学術研究助成基金助成金若手研究（B）

木森佳子，丸岡直子，中山和也：目視困難な末梢深層静脈可視化近赤外光反射システムの改良と臨床応用，H29～H32，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

桜井志保美，河野由美子，前川厚子，平井真理：認知症患者の家族介護者に対する睡眠支援を目的としたレスパイトケアの効果検証，H26～H29，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

清水暢子，梅村朋弘，松永昌宏，望月美也子，長谷川昇，加藤真弓，山田恭子：「認知症者の少ないタイ北部に学ぶ認知症予防対策」～脳血流量と生活習慣の関係を基に～，H29-H32，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

多久和典子：マクロファージ機能極性を制御するスフィンゴ脂質シグナリング，H29～H31，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

中田弘子，田淵知世，田村幸恵，林静子：高齢者への懐古的で嗜好性のある音楽聴取が脳活動に及ぼす影響，H29～H31，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

中道淳子，磯光江：ストレス軽減および認知機能の維持向上を意図した笑いヨガプログラムの開発，H27～H30，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

西村真実子，金谷雅代，千原裕香，米田昌代，曾山小織：子ども虐待予防の段階的支援システムの研究：虐待リスクをもつ乳児の母が集う場の評価，H27～H29，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

子吉知恵美，田村須賀子：地域特性や保護者の受容状況に応じた発達障害児の早期療育に向けた保健師による支援，H29年～H31年度，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

長谷川昇，高山成子，清水暢子，他3名：高齢者が自立した生活を維持するための非侵襲的評価指標の検討，H27～H29，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

濱耕子，杉山隆，松原圭一，濱田雄行：産前産後の骨盤矯正機能付き筋力サポートアンダーウェアの開発評価，H28～H29，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

林一美，山崎智可：地域包括ケアシステムにおける診療所看護のプライマリケアに関する質指標の開発，H28-30，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

牧野智恵，長谷川昇：外来化学療法における患者への暴露防止対策に関する研究，H28-H30，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

松本智里：女性人工股関節全置換術患者の歩容の自己評価と心理社会的側面の相互の影響，H27～H29，学術研究助成基金助成金若手研究（B）

丸岡直子，林一美，武山雅志，石川倫子，林静子，田村幸恵，田淵知世，吉田千文，樋口キエ子：外来-病棟一元化による看護師の患者・家族包括的在宅移行支援力育成プログラムの開発，平成26-29年度，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

米田昌代：周産期の死を経験した母親・家族を社会全体で支えるシステムの実現可能性の検討，H26～H28（H29まで延長中），学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

2. 他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

野口美和子，大湾明美，石垣和子，春山早苗，他2名：島しょ看護学の学習指導書作成に関する

る研究, H27-H29, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

伊藤隆子, 吉田千文, 石垣和子, 辻村真由子, 他3名: 在宅療養の場における倫理的ビリーフの解明とケアマネジメント能力育成プログラム開発, H28-H30, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

辻村真由子, 石垣和子: 訪問看護師による一人暮らし高齢者の家族支援指針の開発, H28-H30, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

阿川啓子, 金子紀子, 石垣和子: 地域で暮らす子どもの母親支援; 先天性心疾患を持つ子どもへの看護連携の構築, H29-31, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

大湾明美, 野口美和子, 石垣和子, 田場由紀, 山口初代, 佐久川政吉, 砂川ゆかり: 地域の生活文化を基盤にした高齢者ケアの創出のプロセス評価, H29-31, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

橋本智江, 川島和代, 平松知子: 介護老人福祉施設における援助者の負担軽減に向けた入浴ケア体制の開発, H29~31, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

河野由美子, 桜井志保美, 小泉由美: 介護職の虐待予防を目指したストレス緩和を目的とするストレッチ方法の開発, H29~H31, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

望月美也子, 長谷川昇, 吉村篤: 脂溶性ビタミンと運動に着目したアンドロゲン低下に伴う肥満とうつ状態の改善, H28~H30, 学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

6.7.2 学内研究助成費

本学専任教員が行う「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を発展させることを目的とする。

石川倫子, 竹村美和, 西原寿代, 嶋田由美子, 中川かつ枝, 丸岡直子: 感染管理認定看護師の活動と支援ニーズ

市丸徹: 重点課題「少子高齢化に伴う問題」生殖機能の中枢制御機構の解明に関する研究

大木秀一, 彦聖美: 重点課題「少子高齢化に伴う課題」多胎育児当事者のニーズに基づく「母子健康手帳の多胎家庭用副読本」の開発と評価

垣花渉, 徳本真理, 荒井初代, 斉藤陽子: 重点課題「少子高齢化に伴う課題」フレイルの予防を目指した「歩くライフスタイル」の短期的効果

加藤穰: 環太平洋地域の4カ国を対象とした医療における良心的拒否の文献調査

小林宏光: 砂浜歩行時の姿勢および体幹加速度の解析

清水暢子, 梅村朋弘, 松永昌宏, 望月美也子, 長谷川昇, 加藤真弓, 山田恭子, 中村こと美, 廣瀬美香, Hunsu Sethabouppha, Decha Tamdee: 重点課題「少子高齢化に伴う問題」認知症者の少ないタイ北部に学ぶ認知症予防対策～脳血流量と生活習慣の関係を基に～

曾根志穂, 武山雅志, 金谷雅代, 林静子, 石垣和子: 地域住民の健康管理における防災対策に関する研究

多久和典子, 石丸和宏, 安藝翔, 吉岡和晃: 抗がん剤による臓器傷害におけるマクロファージの役割 —S1P2受容体を介する増悪のメカニズムの解明—

田村幸恵, 木森佳子, 多久和典子: 重点課題「退院してからの在宅ケアに関する課題」看護師

が行うポケットエコーを使用した心不全評価方法の構築

西村真実子, *前川弓枝, 金谷雅代, 米田昌代, 曾山小織, 千原裕香, 坂本洋子: 重点課題「少
子高齢化に伴う課題」早期産褥期の母親を対象とした「安心ママのための子育てプログラム」
の効果

子吉知恵美: 重点課題「少子高齢化に伴う課題」ルーラルエリアにおける地域特性や保護者の
受容状況に応じた保健師による発達障害児への支援

長谷川昇, 清水暢子, 福本泰明, 岩田美智子, 望月美也子: 糖尿病患者の重症化と認知機能低
下予防に関する検討ービタミンD濃度とカルシウム摂取量を指標としてー

林静子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 田淵知世, 丸岡直子, 神宮英夫, *油田遥花, *馬藤里奈: 車
椅子移送速度の違いによる高齢者の眼球運動と不安の関係

牧野智恵, 長谷川昇, *藪下佳子, 我妻孝則, 村上真由美, 高地弥里, 浦嶋ひとみ, 山瀬勝巳,
内村恵里子, 久保博子, 高野智早: 重点課題「がん看護に関する課題」化学療法を受ける乳
がん患者・家族への曝露防止支援の検討ー曝露防止対策実施前後の排泄物調査からー(その2)

山崎智可, 林一美, 桜井志保美: 産業看護職によるメンタルヘルス不調休職者の家族への支援
に関する研究

6.7.3 その他助成金等

1. 本学教員が研究代表者のもの

浅見洋: 自分らしい人生の旅立ち・看取りを考える集い, H29~H30, 公益財団法人 在宅助成
勇美記念財団・市民の集い開催への助成

垣花渉, 北山幸枝, 石川倫子, 澤田忠幸, 小椋賢治: 「主体的に学ぶ力」を育てる授業法の開発,
H29~30, 石川県立看護大学と石川県立大学との共同研究助成

垣花渉, *梅村遙, *木村将太, *藤崎真美, 他5名: 老人クラブに入ると健康になれるプロジェ
クトー健康カフェによる高齢者の社会参加の促進ー, H29, 平成29年度地域課題研究ゼミナ
ール支援事業

川島和代, 石垣和子, 渡辺達也, *市野由香, *羽左間成美: 配食事業者によるICT技術を活用し
た在宅高齢者のリアルタイム見守りシステム構築に関する実証試験, H28-29, 平成28年度いし
かわ次世代産業創造ファンド事業助成事業

清水暢子, 山崎智可, 石田元彦, 長井誠, 浅野圭吾, 竹中誠, 吉豊太朗, 円山卓治: 石川県型
農福連携(石川ラム)畜産型事業の開発と評価 H29年度 石川県公立大学法人 石川県立看
護大学と石川県立大学との共同研究助成

武山雅志, 曾根志穂, 金谷雅代, 林静子, 石垣和子: 石川県における女性防災士の活動の現状
と課題, H29, 平成29年度いしかわ女性基金調査研究

西村真実子, 千原裕香: 高校生のための「親子交流授業のプログラム」の効果に関連する要因,
H29, 公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団受託研究

長谷川昇, 西本荘吾: 椿茶の骨粗鬆症予防に関する研究, H29, 石川県公立大学法人, 石川県
立看護大学と石川県立大学との共同研究助成

林一美, 石川倫子, 塚田久恵, 大江真吾, 松本智里: 大学院プライマリケア看護カリキュラム

構築のための基礎研究, H28, 9, 学長裁量研究費

2. 他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

該当なし

7. 国際交流

7.1 国際交流委員会

委員長：濱 耕子（教授）

委員：西村教授、加藤准教授、木森准教授、塚田准教授、阿部准教授、市丸講師、
金谷講師、中道講師、山崎助教、清水助教、大江助教、大西助手、瀬戸助手

事務局：宮川主任主事

活動内容：

1. 学生の夏期アメリカ看護研修（学部科目「国際看護演習」）（7.2参照）

本学では、国際的に活躍できる人材の育成をめざし、夏期アメリカ看護研修（国際看護演習、1単位・30時間）が行われている。参加経費は学生の自費によることから、より多くの学生が参加できるように、研修プランの策定にあたっては、平成29年度も業者にプロポーザル方式でプランを提案させ、経費負担の抑制を図った。その結果、参加経費が346,000円（諸経費含む）となり、22名の学生が参加した。また、事前学習として、2015年度から研修内容に応じて日本とアメリカの保健医療制度や実情を自己学習させ、自己紹介の英会話を取り入れてきた。

今後の課題として、日本学生支援機構（JASSO）の留学生支援資金取得により、研修機会を広げていく。JASSOが謳う「グローバル人材育成」に向けて「自立する能力」「将来の進路を触発する」ためにも、MOU締結先のワシントン大学と連携した高度実践看護師（特に専門看護師、ナースプラクティショナー等）や留学生との交流、英語力強化やプログラム評価の方法を検討し、評価結果を基にした改善に取り組む必要がある。

2. 国際交流意識の向上をめざした取り組み

学生および教職員の国際交流意識の向上をめざし、以下について取り組んだ。

1) 国際交流の集い

日時：2018年2月20日（火）15：00～16：40

場所：地域ケア総合センター研修室

ねらい：本学学生が留学生等の講演や対話を通して、異文化のなかの多様な価値観を知る。

国際的視野を広げるとともに、海外で学ぶことの動機付けの機会とする。

プログラム：学生部長挨拶

講話1「留学の楽しさと辛さ」

講師：Franziska Nakamura [中村 フランツィスカ]さん
（研究者、現在は主婦、ドイツ出身）

講話2「The Struggles and Triumphs of Living Abroad」

（海外生活での挫折と成長）

講師：Calum Galt [カルム ガルト]さん
（石川県国際交流員、アメリカ出身）

講話1～2に対する質疑応答

講師を囲んで小グループでフリートーク&質疑応答

国際交流委員長挨拶

参加者：学生12名(2年生7名、4年生3名、大学院生2名)、教職員14名

大雪のため2月8日から開催を延期した。開催日は時間制限があるなか、終始、和やかだが笑顔の絶えない交流会となった。スピーカーに質問している学生や見送りをする学生の様子から交流は十分にできていた。今後は開催時期や時間の設定を考慮する必要もある。

アンケートを実施し、10名(83%)から回収した結果、参加学生は当会で国際交流への興味を持ち、交流行事に対する参加希望や貴重な機会と捉えていた。具体的には、「留学のメリットとデメリット、外国語の学び方が分かりよかった、勉強を頑張ろう」という意見があり、「日本語で質問でき楽しかった、固くない雰囲気がよかった」と参加しやすさを求める声も聞かれた。

加えて、「外国の現状、考え方を知ることができ、視野が広がった」、「文化の違いや共通点から日本の制度がどうなのか考えた」、「今後専門職として働く上での姿勢や気をつけなければいけない」と記載されており、他国の価値観や文化に興味を持つことが、国際的視野を広げることや海外で学んだり、専門職に就くことへの動機付けの機会になったと思われる。

今後はこのような国際交流の機会を学生の地域活動として取り上げていく工夫も必要である。

2) 教職員等向けの英会話の運営および方法の検討

教職員等向けの英会話を毎週金曜日に以下のように実施した。主な参加者は12名ほどで、1回のクラスの参加者は「グループレッスン」1～7名、「プライベートレッスン」1名固定であった。「グループレッスン」の延べ参加者数の平均(1週当たり)については、前期3.1名、後期3.3名と例年(2015年度前期2.5名、後期2.3名、2016年度前期3.1名、後期3.3名)同様に少数固定化で経過した。そのため、今年度はクラス形態を変更し、改善を試みたが目立った増加はなかった(※)。大学院生を新たに対象とした分、全体の参加率が保たれていた。委員会メンバー4名が交替で講師との連絡調整、教職員・大学院生への周知、当日の準備を行った。

※今年度は、グループレッスンの参加が少数固定化していることへの対応として、4月に語学の難易度でfirstコースとadvancedコースにクラス分けを行い、隔週開催とし、同時に大学院生もグループレッスンに受け入れた。7月と9月にはアフタヌーンサロン(第1週目のみ、グループレッスン13時30分～14時30分、プライベートレッスン14時30分～15時30分)を開催したが、全体としての参加者は増えずに続かなかった(理由：語学力修得へのニーズが様々、臨地実習業務等で多忙)。8月にグループのクラス分けも廃止し、元来のグループレッスンとプライベートレッスンの形態に戻った。

一方で、プライベートレッスンは2016年5月以降、今年度も安定して需要があった。

【英会話教室の概要】

日時：毎週金曜日

レッスン形態：

- (A) 18時～18時50分：グループレッスン(フリートーク、一部テキストを用いた文法修得)
4～6月のグループレッスンはfirst course(挨拶や自己紹介ができる程度の英会話力対象)とadvanced course(海外旅行で困らない程度の英会話力対象)に分け、隔週開催
- (B) 19時～19時50分：プライベートレッスン(予約制：フリートーク、手紙、論文、学会抄録、メール等の英作文、英文読解に関する修得)

場所：教育研究棟3階演習室4

講師：Mr. Clive Ross

なお、国際交流委員会主催の英会話教室開催は終了した(次年度以降は、プライベートレッスンは、同講師により個人契約・有料となる)。

3) 国際交流の掲示板の内容の更新

本学の国際交流活動を広く周知するために設けられた学内2か所に国際交流の掲示板の内容を平成29年度版に更新した。更新した内容は、アメリカのワシントン大学との提携覚書(Memorandum of Understanding)の更新、同大学クリスマン教授への感謝状贈呈、夏期アメリカ看護研修、JICAからの委託研修(日系：パラグアイ、青年：タイ)、春期韓国全北大学校看護・文化研修である。

なお、平成28年3月末に訪問した、中国の南京中医薬大学(江蘇省)および吉林大学看護学部(吉林省)との提携覚書の締結、タイのチェンマイ大学における保健医療福祉研修の写真は継続して掲示している。

4) その他

グローバル化する社会において、教員と大学院生の英語能力向上が喫緊の課題となっており、日頃から英語に触れ、読み書きする機会が重要視されるようになった。今年度は本学の行事として、学外講師を招聘し、本学教員と大学院生対象に看護研究の国際学会出席、抄録作成、国際誌への投稿に際する準備・動機付けに有用となる研修会を実施している。

その機会(12月8日)に、国際交流委員会主催で学外講師(飯田恭子氏)と本学英会話教室講師(Mr. Clive Ross)を交えて合同交流会を実施した。教員と大学院生10名程度の参加があり、グループに分かれて英語での自己紹介(出身、自身の研究テーマ等)、学会発表のポイントや使える英語について意見交換・共有した。最後にグループ発表を行い、学外講師より助言・講評をいただいた。

参考【研修会の概要】

日時：2017年9月22日(金)、※※12月8日(金)

講師：飯田恭子氏(東京医療保健大学非常勤講師、看護英語の専門家)

研修会テーマ：「書いてみよう、増やして行こう英語論文」(第1弾、第2弾)

※※同時期(8～9日)に、教員・大学院生対象の個別指導、大学院生対象のミニ講演も実施

7.2 夏期アメリカ看護研修（学部科目「国際看護演習」）

2017年9月1日～9月14日の2週間にわたり、夏期アメリカ看護研修がワシントン州シアトルで行われ、学生22名（3年18名、2年3名、1年1名）が参加した。

研修内容

1. 講義

1) テーマ：「アメリカのナースの役割・教育・保健医療システムについて」

講師：上月頼子先生（ワシントン大学看護学部准教授）

内容：

- ①アメリカの保健医療システム
- ②アメリカのNSが働いている場（病院・クリニックやそれ以外の場）
- ③NSが提供しているサービス／メディカルスタッフの中での役割分担（Dr、SW、PT、OT、ST、NSのそれぞれの役割）、日本のNSとの違い
- ④看護教育制度（NPの紹介、ライセンスを得るための教育、権限・責務など）

2) テーマ：「日米の医療の様々な違いについて」

講師：Yuko Hansen先生（Children's Hospital）

内容：日米の医療システム、医療現場の違い

3) テーマ：「プライマリーケア」

講師：Richard D. Kovar 先生 他複数のNP

内容：アメリカの地域医療、訪問医療 クリニックで活躍するNPの役割

2. 語学研修

日常英会話、看護英語など

3. 保健医療・福祉施設の見学

- 1) University of Washington
- 2) University of Washington School of Nursing
- 3) Country Doctor Community Clinic
- 4) Harborview Medical Center
- 5) Keiro Northwest
- 6) Nikkei Manor
- 7) Seattle Central College
- 8) Health Education Center

4. 日程

	月日 (曜)	都 市 名	発着	交通機関	時刻	日 程	宿泊・食事 (朝・昼・夕)
1	9/1 (金)	小松空港 成田空港 成田空港	発着 発着 発着	全日空 3118 " 全日空 178	14:40 15:55 18:05	着後、リムジンバスにて成田空港へ 一路、シアトルへ 《日付変更線》	(- - 機)
		シアトル	着	専用車	11:25 午後 夕	入国審査後、専用車でワシントン大学キャンパスへ スーツケースを預け、歩いてキャンパスへ オリエンテーション ホストファミリーと対面。ホームステイ宅へ	ホームステイ (機 - ○)
2	9/2 (土)	シアトル		市バス 徒歩	午前 午後	ワシントン大学への行き方を学ぶ ワシントン大学 Light Rail Station 集合 Orca Card チャージ シアトルダウンタウン観光：パイプレイスマーケットやウォーターフロントなど	ホームステイ (○ ○ ○)
3	9/3 (日)	シアトル		市バス/LLR	11:00 13:30	ワシントン大学 Light Rail Station 集合 メジャーリーグ観戦 (マリナーズ vs アスレティクス)	ホームステイ (○ ○ ○)
4	9/4 (月)	シアトル		市バス/LLR	終日	フリータイム (Labor Day のため休日)	ホームステイ (○ ○ ○)
5	9/5 (火)	シアトル		市バス/LLR 市バス/LLR	09:30 13:20	ワシントン大学へ ワシントン大学看護学部教員による講義： 「アメリカのナースやナースプラクティショナーの 役割・教育・保健医療システムについて」 Country Doctor Community Clinic 訪問	ホームステイ (○ ○ ○)
6	9/6 (水)	シアトル		市バス/LLR 徒歩	09:30 午後	ワシントン大学へ English Lesson (日常英語) ワシントン大学学生によるキャンパスツアー	ホームステイ (○ ○ ○)
7	9/7 (木)	シアトル		市バス/LLR 市バス/LLR Uber?	09:30 14:15	Keiro Northwest 訪問 ボランティアスタッフとして入居者と触れ合い、ケアだけでなくアメリカの日系人の歴史について学ぶ Nikkei Manor 訪問 軽介護施設での高齢者との触れ合いと看護ケアについて学ぶ。 Pizza party	ホームステイ (○ ○ -)
8	9/8 (金)	シアトル		市バス/LLR 市バス/LLR	09:00 午後	Seattle Central College Health Education Center 訪問 ワシントン大学へ English Lesson (日常英語と視察事前学習)	ホームステイ (○ ○ ○)
9	9/9 (土)	シアトル		市バス/LLR	終日	エクスカージョン フェリーで Bain Bridge Island へ ：初期の日系移民の歴史が始まった日本人ゆかりの島	ホームステイ (○ ○ ○)
10	9/10 (日)	シアトル		市バス/LLR	終日	終日フリータイム	ホームステイ (○ ○ ○)
11	9/11 (月)	シアトル		市バス/LLR 市バス/LLR	午前 09:30 13:00	ワシントン大学へ 日本人ナースによる看護セミナー ：現場から見た日米医療と看護の違いについて Harborview Medical Center へ (通訳付き) ※第1級外傷センターとして高い評価を得ている病院の病棟やICU, リハビリセンター、Medic 1などを視察	ホームステイ (○ ○ ○)
12	9/12 (火)	シアトル		市バス/LLR	09:30 午後	Seattle Central College へ 現地学生との交流 *現地学生や留学生との交流会 (Seattle Central College) ワシントン大学へ Presentation / Closing ceremony	ホームステイ (○ ○ ○)
13	9/13 (水)	シアトル	発着	専用車 全日空 177	09:30 13:20	ワシントン大学に集合 シアトル空港へ 一路帰国の途へ	機内泊 (○ - 機)
14	9/14 (木)	成田空港 成田空港 小松空港	着 発着 着	" 全日空 3119 "	15:20 18:30 19:40	入国後、国内線ターミナルへ 着後、解散	(機 - -)

7.3 春期韓国看護文化研修（全北大学校看護大学）

本学は2014年11月17日に全北大学校看護大学と提携覚書(MOU:Memorandum of Understanding)を締結した。このMOU締結を期に韓国全北大学校ならびに全羅北道の協力を得て、大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローバル人材育成システムの構築」における石川県立看護大学企画の研修を立案した。2015年の夏期休業中に全北大学校看護大学において14日間のプログラムで研修を実施する予定であったが、感染症MERS（Middle East Respiratory Syndrome：中東呼吸器症候群）の韓国内のアウトブレイクにより延期せざるを得なくなり、翌年3月下旬に8日間に期間を短縮し実施した。参加者は本学学部生・大学院生・教員計14名であった。第2回目の研修は、大学間連携共同教育推進事業の事業終了に伴い、本学の国際交流事業として実施することになった。プログラムは、2018年3月18日～3月25日（8日間）に、全北大学校国際交流部のFeeling Koreaの文化体験を中心とした内容に本学のグローバル人材の育成を目的とした内容を折衷しての内容で実施した。参加者は学部生10名・大学院生1名・教員4名の計15名であった。詳細は以下の通りである。

1. 研修名：春期韓国全北大学校看護・文化研修

2. 目的

韓国の政治や文化、保健システムを知り、地域における住民の暮らしや健康課題への対処方法について学ぶことにより、視野を広め、今後学生の将来の活動において、様々な地域住民の健康づくりにアプローチできるグローバル人材を育成する。

3. 目標

- 1) 韓国の保健医療福祉システムを理解する。
- 2) 韓国の特徴的な看護について理解する。
- 3) 韓国の町中心部、かつ過疎地域での看護職の活動を理解する。
- 4) 韓国語レッスンを受け、韓国語に親しむ。
- 5) 文化交流を通して韓国文化を理解する。

4. 内容

1) 期間：2018年3月18日（日）～3月25日（日）

2) 研修先：韓国 全北大学校 全羅北道全州市内施設

3) 研修内容

(1) 講義

全北大学の看護教育、韓国の保健の動向と健康問題

講師：全北大学校看護大学長

(2) 保健医療・福祉施設の見学

①都市部のフィールドワーク

・医療機関、保健所、高齢者保健福祉関連施設、母子保健福祉関連施設の見学

②農村部のフィールドワーク

・保健診療所見学(処方権を持つ看護師が運営する保健診療所)、及び保健診療員(NP)が行う健康教育等に同行

③その他

・国民健康保険関連施設の見学

- (3) 全羅北道全州市内の文化施設の見学や体験
- (4) 韓国語研修
- (5) 全北大学校学生との交流、ディスカッション

5. 日程

Date	Time	Program	Accommodation
3月18日 (日)	AM PM	From Komatsu Airport 12:00 → arrive at Incheon Airport 14:05 → arrive at Hunsan guest house' in CBNU 19:30	Hunsan guest house in CBNU
3月19日 (月)	AM	CBNU campus tour Courtesy visit to Jeonbuk Provincial government Jeonbuk Provincial government building Tour - Lunch with the staff of the International Exchange Division, Jeonbuk Provincial government	"
	PM	Visit Nursing department- Look around inside (classroom etc) Audit Nursing department class Meeting with CBNU Students Welcome dinner- With CBNU Students	"
3月20日 (火)	AM	Korea paper art (Making Traditional Fan) Jeonju Hanok village tour Making Traditional Food (Bibimbap) - Making & Eating	"
	PM	Free time in Hanok Village Korean Language Class	"
3月21日 (水)	AM	Korean Language Class	"
	PM	Visit Jeonju Public Health Center & tea time Visit CBNU hospital - Children' s ward, Children' s outpatient clinic (Radiology, Endoscope, Urology, Internal medicine etc.), MFICU	"
3月22日 (木)	AM	Lecture from professor of Nursing department Lecturer: Dean of College of Nursing ,Professor. Kim Hyeon Ok Visit National Health Insurance Corporation	"
	PM	Korea Language Class	"
3月23日 (金)	AM	Visit Gimje Committed Nursing Home (Senior Care Center)	"
	PM	Visit Gimje Sangjung Health Center Visit Daedong Health Center Visit Yogyo Group Home (for elderly living alone) & Yogyo Gyeong-nodang Visit Tree House (by Masayuki Mizuno) tour and discussion	
3月24日 (土)	AM	Jeonju → Seoul (Move by bus at CBNU)	Vabien Suite 2 Serviced Residence
	PM	Free time in Seoul	
3月25日 (日)	AM	From Incheon Airport 7:55 → arrive at Komatsu Airport 9:40	

7.4 日中韓看護フォーラム

1. 目的

石川県立看護大学が2014～2016年にMOU協定を結んだ南京中医薬大学(中国江蘇省)、吉林大学(中国吉林省)、全北大学(韓国全羅北道)との交流を実質化し、石川県や北陸地域の医療機関や看護系大学と極東アジア各国の看護教育について情報共有を図ることを目的とする。併せて本学が助産師養成を次年度から開始することを受け、そのキックオフフォーラムとも位置づけ、助産師教育の情報共有をも諮る。

2. 開催日時、場所、参加者数、支援団体など

- (1)開催日程 2017年8月11日(金・祝) 13:00-17:40
- (2)開催地 石川県金沢市
- (3)開催会場 ホテル金沢
- (4)参加者数 約80名
- (5)支援団体 石川県日本中国友好協会・河北地区日中友好協会、金沢医科大学、北陸大学、NPOいしかわ在宅支援ねっと、河北ロータリークラブ、(株)高松印刷高松ライオンズクラブ、かほく中央ライオンズクラブ

3. プログラムの内容と講演(群長大学の金賢淑教授は来日が叶わなかった。)

	時間	演者	テーマ
1	13:20~13:45	南京中医薬大学 副学長 徐桂華 (Xu Guihua)	中国における看護師教育の歴史と現状 (中医系を中心に)
2	13:45~14:10	吉林大学看護学院 副院長 李昆 (Li Kun)	中国における看護師教育の歴史と現状 (非中医系を中心に)
3	14:10~14:35	イェス大学 教授 孔恩淑 (Kong Eun-Suk)	韓国における看護師教育の歴史と現状
4	14:35~14:50	石川県立看護大学 教授 川島和代	日本における看護師教育の歴史と現状
休憩 (15分間)			
5	15:05~15:30	群長大学 教授 金賢淑 (Kim Hyun-Sook)	韓国における出産/育児支援の現状及び助産師教育
6	15:30~15:55	吉林大学看護学院 准教授 孫皎 (Sun Jiao)	中国における出産/育児支援の現状及び助産師教育 (非中医系を中心に)
7	15:55~16:20	南京中医薬大学看護学院 准教授 康健 (Jian Kang)	中国における出産/育児支援の現状及び助産師教育 (中医系を中心に)
8	16:20~16:35	石川県立看護大学 教授 濱耕子	日本における助産師の専門性と教育
休憩 (5分間)			
9	16:40~17:00	質疑応答、意見交換	

4. 準備委員会メンバー構成

石垣和子(学長)、出村邦夫(事務局長)、濱耕子(国際交流委員長)、西村真実子(副国際交流委員長)、川島和代(広報委員長)、塚田久恵(国際交流委員)、清水暢子(国際交流委員) 宮川泰生(総務課)

8. 地域創生

8.1 地域創生委員会

委員長：川島 和代（教授（学長補佐））

委員：浅見教授（特任教授兼アドバイザー）、瀨教授、垣花准教授、塚田准教授、金谷講師、
出村事務局長

事務局：宮川主任主事

活動内容：

1. 地域創生にかかわる活動について

平成28年度の本学委員会組織の改変により本学の地域創生事業を所掌する委員会として「地域創生委員会」が新設された。次の3つの事業班（部会）との連携を図りながら各事業を統括している。

1) 地域創生委員会の活動

大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローバル人材育成システムの構築」石川県における高等教育機関 19の大学・短期大学・高専（大学コンソーシアム石川加盟校）統括本部・事業推進責任は金沢大学が所掌している。

平成28年度にて文部科学省補助金事業の「大学間連携共同教育推進事業」は終了したが、大学コンソーシアム石川内に「グローバル人材育成・共創インターンシップ専門部会」が設置され、事業は継続となった。次年度より本学内でも名称変更が必要である。

2) 平成29年度の成果

本学では、学内授業を『学都いしかわ課題解決型グローバル人材育成プログラム』のスタンダードリストに搭載すること、民泊型フィールド実習の継続、海外研修（タイ チェンマイ大学看護学部、韓国全北大学看護学部等へ隔年で研修）の実施、その他地域ボランティア等に取り組んだ学生活動をHHC科目で認定するなどの活動を継続している。平成29年度はグローバル・ヤングリーダー 1名を輩出した。

8.2 能登キャンパス構想事業

実施団体名

能登キャンパス構想推進協議会：

石川県、金沢大学、石川県立大学、石川県立看護大学、金沢星稜大学、珠洲市、輪島市、
能登町、穴水町

概要

高等教育機関のない奥能登地区をキャンパスと捉え学びの場とすることで能登の活性化（交流人口の拡大や若者の移住・定着等）を目的とした能登キャンパス構想推進協議会に本学が正式加盟して7年目である。本協議会は、石川県（能登半島地震復興基金）、上記4大学、奥能登2市2町が出資して運営している。事務局は輪島市である。

8.2.1 能登キャンパス構想事業班

班 長：林 一美（教授）

班 員：牧野教授（研究科長）、谷本准教授、垣花准教授、出村事務局長

事 務 局：宮川主任主事

活動内容：

1. 協議会・幹事会の出席

協議会2回、幹事会4回開催があり参加した。

2. 活動内容

①今年度は教育研究棟2階の掲示板を活用して能登地区紹介コーナーを設ける、また大学祭に能登地区の6病院の看護部紹介ブースを設ける活動に取り組んだ。

②「能登・祭りの環」インターンシップ事業（当日・短期）「能登町・矢波諏訪祭り」について、インターンシップの準備・広報及び引率をおこない、学生8名の参加があった。

外部報告

該当なし

外部資金

該当なし

8.3 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

実施団体名

（参加大学）金沢大学、金沢工業大学、石川県立看護大学、石川県立大学、金沢星稜大学、北陸大学、金沢学院大学、金城大学、（協力大学）7校

（自治体）石川県はじめ県内すべての自治体20

（企業・団体）企業・団体18

概要

本事業は文部科学省が募集した地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）に金沢大学が中心となって応募した「金沢・加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材育成」が採択された。本事業の目的は、地方創生の鍵となる若者の定着と産業と地域の活性化をめざし、グローバルな視点で地域を思考できる学生を育成し、地方創生を担う次世代の人材の輩出、また、地域関係機関（企業・自治体等）と連携した雇用創出を含む地域定着モデルの構築である。平成31年度までに石川県内の学生の就職率10%向上、うち10%は起業等による雇用創出をめざす数値目標を掲げている。

8.3.1 COCプラス事業班

班 長：小林 宏光（教授）

班 員：大木教授、垣花准教授、織田准教授、中道講師、川村講師

事 務 局：宮川主任主事

活動内容：

平成29年度、石川県立看護大学は、地域創生概論受講を勧めたが、その他の積極的な活動には至らなかった。大学コンソーシアム石川内の専門部会「グローバル人材育成・共創インターンシップ専門部会」の委員（川島）が、他大学の共創インターンシップの成果報告やプログラムの採択に加わった。

外部報告

該当なし

外部資金

大学改革推進等補助金（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業） 50千円

8.4 COI事業班

委員長：大木 秀一（教授）

委員：川島教授、塚田准教授

活動内容：

COI (Center of Innovation) 事業の一環として、石川県、保健医療従事者を育成する等の県内外複数大学および企業が参加する北陸ライフケア研究会を通じて、ライフケアに関して情報産業、ビッグデータ処理、看護学など様々な視点から学際的な勉強会、意見交換会を定期的で開催している。

平成29年度、石川県立看護大学は研究会における話題提供者（次世代創造ファンド研究助成事業：ITを活用した配食事業者による高齢者の見守りに関する研究成果の報告）として参加した。今年度をもって北陸ライフケアシステム研究会は解散するため、石川県立看護大学におけるCOI事業班も解散予定である。次年度以降の取り組みは検討中である。

9. 附属図書館

9.1 図書館運営委員会

委員長：西村 真実子（教授（附属図書館長））

委員：浅見教授、多久和教授、北山准教授、林講師、川村講師、松田総務課長

事務局：山本囑託

活動内容：

1 本学の学術情報リポジトリに本学教員の研究を追加登載

本学の学術情報リポジトリには、これまで石川看護雑誌、本学大学院の博士学位論文を公開してきた。世界および日本の学術情報のオープンアクセス化(論文をインターネット上で自由に利用できる)の進展を鑑み、今年度初めて本学教職員の教育・研究活動の成果物(論文等)の公開を依頼し、2件の論文を公開した。また、教職員のオープンアクセス化に関する意識啓発をめざし、以下の研修会を開催した。今後、教員の参加を増やすための啓発方法を検討する必要がある。

日時：2017年9月22日(金) 15:00～16:30

講演タイトル：危機に瀕する学術情報の現状とその将来—電子ジャーナル問題のこれから

講師：安達 淳氏（国立情報学研究所 教授・副所長）

場所：石川県立看護大学 大講義室

*石川県大学図書館協議会特別研修会(本学が当番校)として開催し、本学教員も参加した。

2 図書館による学習支援：3年生向けの文献検索セミナー基礎編&体験編

科目「情報リテラシー（1年前期開講）」において、2016年度より文献検索等の講義内容が強化されたことを受け、これを受講していない3年生を対象に「文献検索セミナー基礎編&体験編」を昨年度に引き続き実施した。基礎編は科目「研究方法論（3年次後期開講）」の最終回後に3年生全員に実施し、実践編は2～3月にかけて6回開催し、25名の参加があった。また、「文献検索アドバンス編（2017年度は教職員・院生向けとして実施）」については、昨年度好評を得て、2018年度からは大学院科目「看護研究」に盛り込まれることになった。

今後は、文献検索能力を向上させることの重要性の啓発とさらなる同能力向上をめざし、データベースの使い方や文献管理ソフトの使い方のミニ講習会を図書館において定期的に開催することを検討する。

3 学習環境の整備

1) 電子図書・データベースの学外からのアクセス

本学では実習等で学生が学外のさまざまな施設で学ぶことが多い。また、社会人の院生が多く、自宅等の大学の外における学習を支援する必要がある。これまでインターネット環境を活用し、大学の外から図書館ホームページ経由で本学が契約している電子図書を閲覧することができたが、未だ電子図書の数も少なく、また学外から閲覧可能なことを学生・教職員に十分に周知されている状況とは言えなかった。そこで、2017年4月のガイダンス時やメー

ル等により周知するとともに、教職員対象の購入推薦図書の調査においても電子図書を推薦してもらおうよう働きかけた。

また、文献検索においても学外からもアクセスできるデータベースがあると便利である。これまでの利用者が比較的多かったデータベース「メディカルライン」に外部からのアクセス(リモートアクセス)サービスが始まり、本学では10月からこれを試験導入した。2017年10月～2018年1月上旬までのリモートアクセス数は60件であった。

今後も実習に必要な電子図書と社会人院生に必要な看護研究等の電子図書およびデータベースの充実について検討が必要である。

2) 学習コーナーの改善、デスクライトの設置

学生向け調査の結果に「手元が暗い」があり、今年度全ての閲覧コーナーにLEDのデスクライト36台を設置した(コンセント工事も含む)。また、2階のビデオデッキ・DVD視聴コーナーの利用数が極端に少ないことを受け、視聴コーナーを3つに減らし、その他をビデオデッキを撤去し学習コーナーとして整えた。

4 学生の要望把握などのための方法の工夫

これまで教職員を対象に購入推薦図書の調査を行ってきたが、学生の希望については個別に把握するに留まっていた。そこで、学生の図書館に対する要望・意見を把握するために、次の3つの取り組みを行った。

一つは、閲覧コーナー等の随所に要望等を記載する小さなメモと投函ボックスを設置した。二つ目は、学生が気軽に使えるホワイトボードを設置した。学生がホワイトボードに図書館への要望等を書いたり、実習に役立つ文献やお勧めの本等の情報共有に使ってもらえるように、司書の方がホワイトボード上で呼びかけをする等さまざまな工夫をこらした。学生や教職員の記載が少しずつ増えている。三つ目は、学生委員会と連携し、クラス委員に学生の図書館への要望を集約してもらい役割をってもらうことにした。次年度は、クラス委員にどのように働きかけ、希望図書や要望を把握していくかなどについて検討する必要がある

5 ホームページの整理・改善

図書館のホームページを現状に応じた使いやすいものにするために、内容の整理・改善案を検討した。次年度に修正が加えられる予定である。

6 シラバス記載内容の整理・修正

シラバスの「第V章 附属図書館利用案内」を現状に即したものに、また新入生ガイダンスの説明用資料として使用することを想定して整理・修正した。

7 図書等の整備状況

平成27～30年度までの「図書整備計画」に基づき、図書・視聴覚教材を整備すべく、例年通りに教職員を対象に購入推薦図書の調査を行ない、図書1,020冊、視聴覚教材9点を受入れ・整理し、利用に供した。また、図書316冊、視聴覚教材14点が寄贈された。

9.2 今年度の主な活動概況

9.2.1 図書館事業の実施

1. 石川県大学図書館協議会幹事館として以下の事業を実施した。
 - 1) 定例会議の開催 6月29日 14大学19名参加
定例会議終了後、本大学教授、川島先生が「ナイチンゲールからの贈り物
― すべての人の健康を願って ―」と題して講演会を行った。
 - 2) 特別研修会の開催 9月22日 13大学21名参加
講師：国立情報学研究所 教授・副所長 安達 淳氏
演題：「危機に瀕する学術情報の現状とその将来
― 電子ジャーナル問題のこれから ―」
2. 閲覧室の各テーブルに、電気スタンドを設置 10月1日
3. 学生、教員から、図書館の運営や看護学実習等に関する情報を共有するために、「ツブヤキボード」を設置 8月1日 : テーマ「看護学実習」
4. リユース図書の実施
図書館が複本で所蔵する図書と、学生、教員から寄贈を受けた、リユース用図書を6月から常時提供を開始した。
5. わく・ワーク (work) 体験事業
かほく市立高松中学校2年生2名が、7月25日(火)～26日(水)の2日間「わく・ワーク (work) 体験事業」に参加、図書の移動、配架、図書装備、カウンター業務等、図書館業務を体験した。
6. 企画展示の実施
テーマ別に企画展示を行った。(カッコ内展示期間 冊数)
 - 1) 大学生になったら洋書を読もう「はじめての洋書」(4/15～5/15 26冊)
 - 2) 「あなたのスタート新生活応援！図書展」(4/11～5/15)
 - ・学び始める編 21冊
 - ・暮らし始める編 21冊
 - ・「卒論・レポートの書き方」「大学をもっと知ろう」展 (5/1～6/10 65点)
 - 3) 開学記念「発達障害について理解を深めよう」(5/22～6/5 26点)
 - 4) ビアトリクス・ポターの愛した風景 (7/10～7/31 54冊)
 - 5) 常設展示「おすすめの本」
 - 6) 日野原重明追悼展示 (7/19～10/2 11冊)
 - 7) 看護学実習おすすめ本 (8/1～3/15 20冊)
 - 8) 柳田邦男氏講演会展示「検証・福島一起きたこと起きていることそしてこれから―」
関連資料展示 (3/1～3/31 21点)
 - 9) 卒業論文おすすめ本 (3/1～ 80点)

9.3 資料整備状況

資料整備状況（平成30年3月31日現在）（ ）内平成29年度受入れ数

コレクション別		総数	内訳	合計
図書	和書	52,313冊（1,331冊）	購入：1,015冊 寄贈：316冊	合計58,324冊 （1,336冊）
	洋書	6,011冊（5冊）	購入：5冊	
雑誌	和雑誌	453誌	継続購入99誌	合計 622誌 （内購入129誌）
	洋雑誌	169誌	継続購入30誌	
新聞	日本紙	6紙	—	7紙
	英字紙	1紙	—	
視聴覚資料	CD-ROM	163点（0点）	購入：0点	合計 2,225点 （23点）
	ビデオ	1,376点	—	
	DVD	665点（18点）	購入：4点 寄贈：14点	
	eBOOK	21点（5点）	購入：5点	

9.3.1 分野別蔵書構成（平成30年3月31日現在）

○総冊数：58,324冊

分類	0	1	2	3	4-480	49	N	5	6	7	8	9
標目	総記	哲学宗教	歴史	社会科学	自然科学	医学	看護学	技術・工学	産業	芸術	言語	文学
冊数	4,413	2,932	675	8,192	1,628	19,731	14,194	1,167	238	1,435	1,309	2,410

9.3.2 医学分類蔵書構成（平成30年3月31日現在）

○医学書（看護学を除く）の総冊数：19,731冊

分類	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499
標目	医学総記	基礎医学	臨床医学	内科学	外科学	周産期医学	耳鼻咽喉科	歯学	公衆衛生学	薬学
冊数	1,551	2,970	1,414	6,520	2,034	908	110	118	3,881	225

9.3.3 看護系資料分類別構成（平成30年3月31日現在）

○看護学関係図書総冊数：14,194冊

分類	N0	N1	N2	N3	N4	N5	N6	N7	N8	N9
標目	看護総記	看護理論	看護実践	母性看護	小児看護	成人看護	老年看護	精神看護	地域家族看護	状態別看護
冊数	2,399	977	3,842	680	450	1,847	542	406	2,007	1,044

9.4 利用統計

9.4.1 開館日数・入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	24	23	26	25	23	24	26	23	22	20	22	19	277
入館者数	5,230	4,918	5,589	7,670	5,300	3,958	6,252	5,219	4,038	4,131	4,614	1,577	58,496
1日平均	218	214	215	307	230	165	240	227	184	207	210	83	211

9.4.2 館外利用者数及び冊数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学生	人数	437	397	406	332	249	299	486	354	239	204	145	74	3,622
	冊数	850	855	920	741	522	835	1,356	878	596	618	300	192	8,663
院生	人数	46	35	31	69	79	95	103	60	76	24	20	15	653
	冊数	121	99	71	163	196	237	244	166	199	88	54	39	1,677
教職員	人数	44	50	51	45	44	52	53	50	44	38	27	41	539
	冊数	132	148	146	122	118	138	136	130	154	91	88	113	1,516
一般	人数	75	80	91	92	116	92	90	91	54	50	66	66	963
	冊数	184	170	213	210	270	211	196	231	131	152	145	169	2,282
計	人数	602	569	579	538	488	538	732	555	413	316	258	196	5,777
	冊数	1,287	1,272	1,350	1,236	1,106	1,421	1,932	1,405	1,080	949	587	513	14,138

9.4.3 他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	21	9	24	28	32	19	16	56	37	11	7	19	279
学生	37	53	73	13	37	50	15	1	1	2	6	22	310
一般	1	0	4	4	0	0	0	0	2	0	0	0	11
計	59	62	101	45	69	69	31	57	40	13	13	41	600

9.4.4 他大学・公共図書館・個人からの文献複写受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	7	10	4	10	6	10	8	7	8	2	7	3	82
学生	61	47	62	49	44	33	32	32	31	27	12	7	437
一般	7	14	20	21	6	7	2	9	6	14	4	13	123
計	75	71	86	80	56	50	42	48	45	43	23	23	642

9.4.5 館内設置コピー機による複写件数・枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	154	157	175	212	163	193	267	227	211	88	104	60	2,011
枚数	2,782	2,621	2,343	3,567	2,519	2,479	4,472	3,641	4,070	1,018	2,323	901	32,736

9.4.6 相互貸借貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	3	7	6	9	14	15	18	34	12	8	8	9	143
大学	1	4	2	7	1	5	4	3	7	5	1	0	40
合計	4	11	8	16	15	20	22	37	19	13	9	9	183

9.4.7 相互貸借借受冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	104	123	128	151	128	138	152	136	175	131	128	155	1,649
大学	2	3	3	0	2	0	0	2	0	0	2	4	18
合計	106	126	131	151	130	138	152	138	175	131	130	159	1,667

9.4.8 データベースアクセス状況

○洋雑誌：CINAHL（EBSCO社）（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	350	266	318	268	334	849	454	334	487	92	514	215	4,481

○和雑誌：メディカルオンライン（メテオゲート社）（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	1,612	1,274	1,309	3,029	1,795	1,465	1,976	1,259	1,680	473	608	816	17,296

9.5 利用者サービス

9.5.1 学内向図書館サービス

新入生、新任教職員等を対象に、図書館の利用方法等について説明した。

実施時期	対象者	対象・参加人数	内容
4月5日（水）	新大学院生ガイダンス	約10名	図書館の使い方 図書館の概要説明
4月7日（金）	新入生・編入生ガイダンス	約90名	図書館の使い方 図書館の概要説明
4月10日（月）	新任教員ガイダンス	約5名	図書館の使い方 図書館の概要説明
4月18日（火） ～ 4月20日（木）	新入生を対象に「図書館へ行こう！」	1回約20名 計4回実施	DVD情報の達人・説明館内の案内
7月10日（月）	認知症看護認定看護師 文献研修感染管理認定 看護師教育課程オリエンテーション	受講生 約33名	図書館の利用方法とオンラインデータベース講習
2月22日（木） ～ 3月20日（火）	「図書館を活用しよう！」 ハンズオンセミナー開催	受講生 約30名	新4年生を対象に、卒業論文のテーマに合った文献を探すためのセミナーを開催

9.5.2 学外向図書館サービス

県政バス、県内の中高校生等を対象に、図書館の概要説明や、図書館の利用方法とオンラインデータベース講習会等を実施した。

日 時	名 称	対象・参加人数	内 容
7月15日（土）	オープンキャンパス	高校生、父兄	図書館の開放、施設説明 図書リユースコーナー設置
7月25・26日 （火・水）	かほく市立高松中学校 「わく・ワーク(work) 体験事業」	生徒2名	図書装備体験 カウンター業務体験 資料の複写業務体験
8月9日（水）	県立田鶴浜高等学校衛生看護科	生徒35名	図書館の利用方法とデータベースの講習
9月15日（金）	羽咋高等学校PTA	約30名	図書館の概要説明
10月16日（月）	星稜高等学校	生徒40名	図書館の概要説明
10月17日（火）	サードレベル教育課程図書館 ガイダンス	30名	図書館の利用方法とデータベースの講習
10月20日（金）	県立門前高等学校	保護者15名	図書館の概要説明
10月28・29日 （土・日）	大学祭 秋のオープンキャンパス	一般、高校生	図書館の開放 リユースコーナーの設置

日 時	名 称	対象・参加人数	内 容
10月30日（月）	駒ヶ根市議会	議員2名	図書館の概要説明
5月15日（月） ～10月18日（水）	県政バス（輪島市他） 計7回	約300名	図書館の概要説明

9.5.3 学内で利用できるデータベース

	内 容	同時 使用
最新看護 索引web	看護分野に限定した雑誌文献情報データベース。「日本看護学会論文集」平成23年度（第42回）より、電子版を掲載。全10領域の「論文集（電子版）」を閲覧・ダウンロードできる。収録件数、約20万件、収録誌数812誌。更新頻度月1回。	3
PubMed	医学分野の代表的文献情報データベース。米国NLM作成。医学・歯学・生命科学関係の4,800誌以上の雑誌から収録。収録データ数約1,600万件。	フリー アクセス
メディカル オンライン	医学文献の検索をはじめ、医薬品・医療機器・医療関連サービスの情報を幅広く提供。10月から、リモートアクセスも可能となる。	フリー アクセス
CINAHL	看護学・保健学分野の文献情報データベース。約3,000誌の専門誌が対象。データ数約42万件。（EBSCO社）	4
PsycINFO	心理学、行動科学、精神医学分野の文献情報データベース。29カ国、20以上の言語で出版されている2,400点の心理学関連資料から収録。	フリー アクセス
医学中央雑誌	日本国内の医学・歯学・薬学及び関連分野の文献を網羅した文献情報データベース。収録誌数約5,000誌。収録件数約630万件。	8
JDreamⅢ	日本国内の科学関連分野の文献を網羅した総合抄録誌のインターネット版。医学・薬学領域予稿集全DB。収録約5,200万件。	10
Nii、CiNii (国立情報学研究所)	国立情報学研究所主宰の資料検索、学術雑誌文献検索、研究成果論文検索等を収録した総合検索システム。 (主宰：国立情報学研究所)	フリー アクセス
ELSEVIER Science Direct	購読タイトル（9誌）の2007年以降に出版された論文全て。購読誌「Applied Nursing Research」他9誌 サブジェクト・コレクションの論文すべて 対象サブジェクト：Nursing and Health Professions	4

9.6 職員研修

9.6.1 附属図書館職員の研修

日 時	場 所	名 称	内 容	参加者名
4月14日（金）	金沢市	平成29年度図書館協力業務・ネットワーク担当者会議 主催：石川県公共図書館協議会	県立図書館との相互協力について	山村 徹
6月9日（金）	和歌山市	公立大学協会図書館協議会事務長会・同総会、東海・北陸地区会議 主催：公立大学協会図書館協議会	・公立大学図書館の活動について ・東海・北陸地区会議の出席	山本 晃暢
6月29日（木）	かほく市	平成29年度石川県大学図書館協議会定例会議及び講演会 主催：石川県大学図書館協議会 (本学幹事館)	県内大学図書館の活動について	図書館運営委員会委員
9月22日（金）	かほく市	平成29年度石川県大学図書館協議会特別研修会 主催：石川県大学図書館協議会 (本学幹事館)	危機に瀕する学術情報の現状とその将来 -電子ジャーナル問題のこれから-	図書館運営委員会委員
9月29日（金）	金沢市	平成29年度東海北陸地区国立大学図書館協会講演会 後援：北陸地区国立大学連合図書館系専門委員会	熊本地震を経験した大学図書館職員から体験談を聞き、地震にいかに関わるかを学び、考察する。	山本 晃暢
11月7日（火）	金沢市	平成29年度石川県図書館大会 主催：石川県図書館協会	・記念講演：これからの図書館 ・第1部会：図書館のさまざまな取り組み ・第2部会：子どもを図書館に呼び込むには	山本 晃暢

10. 附属地域ケア総合センター

10.1 地域ケア総合センター運営委員会

委員長：武山 雅志（教授（附属地域ケア総合センター長））

委員：多久和教授、西村教授（附属図書館長）、川島教授（学長補佐）、岩城准教授、塚田准教授、桜井准教授、谷本准教授、石川准教授、寺沢教務学生課長

委員補佐：川端助教、金子助教、清水助教、千原助教

事務局：宮川主任主事

開催頻度：年4回開催

活動内容：

運営委員会では人材育成、地域活動、国際貢献の3部会の報告を元に、全体のセンター事業の進捗状況を把握するとともに、提示された課題について検討した。また中期計画における年度計画に基づいて平成30年度事業の方向性について検討を行った。

平成29年度はかほく市との包括的連携協定締結に係わる協議会を2回開催し、意見交換を行った。平成28年度から始まった「健康ブランド化事業」を継続するとともに、有料の形で在宅療養移行に関する人材育成事業を行った。各事業について本学HPやメールマガジンを活用し積極的に情報提供するように務めた。

10.1.1 人材育成部会

部長：石川 倫子（准教授）

部員：田村助教、磯助教

開催頻度：随時

活動内容：

人材育成事業の専門職研修として5講座、本学教員主催の研究会・事例検討会として4講座を実施した。相談サービス事業としては病院、行政、職能団体、福祉・高齢者関係の任意団体より合計20件の依頼があり、研修会講師や看護研究の指導を行った。

人材育成部会として、専門職研修の「つながる・ささえる・つくりだす在宅療養移行支援（参加者141名）」など2つの研修を有料講座として実施した。また看護の質向上のために必要な教育・研修のニーズ把握のために、奥能登地区の公立病院を中心に聞き取り調査を実施した。その結果に基づき、平成30年度の人材育成事業に能登地区の看護職を対象とした研修の企画をした。

10.1.2 地域活動部会

部長：塚田 久恵（准教授）

部員：長谷川教授（学生部長）、川島教授（学長補佐）、塚田准教授、林講師

開催頻度：随時

活動内容：

地域連携・貢献事業の地域連携事業として7講座、生涯学習講座として2講座を実施した。ワンストップサービス事業として1件の依頼があった。

地域活動部会としては「子育てしやすい街づくり」について、かほく市子育て支援課と議論を重ね、学生ボランティアによる子育て支援に方向を転換し、乳幼児わくわく運動会をはじめ、託児ボランティアなど学生によるボランティア活動を支援した。また、本学とかほく市保育園職員会合同で、「こどものこころを育てる遊び」のテーマで研修会を開催し、保育士及び学生ボランティア合わせて約160名が参加した。その他、冬場の健康づくりを目的とした「か歩く健康ウォーキング事業」への協力を行い、参加住民の健康チェックとミニ講話などを実施した。

10.1.3 国際貢献部会

部会長：岩城 直子（准教授）

部会員：桜井准教授、中道講師、田淵助教

開催頻度：随時

活動内容：

国際貢献事業のJICA日系研修において、今年度より、日本人会幹部向けの2週間の視察型の研修を企画した。研修生2名（パラグアイ）を迎え、高齢者福祉対策の組織的な対応を行うための仕組みや機能を講義と施設見学を通して学んでいただいた。JICA青年研修ではタイから14名の研修生を迎え、予防医学・公衆衛生分野における実施体制の課題解決を担う青年層の知識と意識の向上を目指して、講義や施設の視察を行った。

国際貢献部会としては上記の研修について、JICA北陸および羽咋市社会福祉協議会と協議を重ねて円滑な運営に努めた。

11. 附属看護キャリア支援センター

11.1 看護キャリア支援センター運営委員会

委員長：丸岡 直子（教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長））

委員：川島教授（学長補佐）、林教授、木森准教授、石川准教授、徳田特任准教授、
出口特任講師、田村助教、清水助教、堅田助教

事務局：寺井囑託

活動内容：

1. 前年度の実状および問題点・課題等

前年度の当センターの事業は、2つの教育課程（感染看護認定看護師と認定看護管理者）の受講生の募集と選考および教育の実施、さらに県委託事業の実施したために、教務事務的作業の増大や履修・指導場所の確保などの課題が生じた。そのために、事業計画立案では、受講生の募集・選考、開講期間などの状況から、教職員が無理のない状況で事業を計画していく必要性があった。

認知症看護認定看護師教育課程の開設にむけて準備をすすめ、教育機関として認可され、専任教員の確保、入学試験の実施、開講に向けての準備を整える必要があったが、関係機関の協力を得ることができた。県の医療施策の一環でもあり、3年の開講を予定しているが受講生の定員確保は重要な課題であり、看護職者の資格取得に関するニーズ調査と分析が必要である。

2. 今年度の目標

1) 今年度の事業計画を円滑に実施する。

- 事業内容
- ①認知症看護認定看護師教育課程の開設
 - ②認定看護管理者（サードレベル）教育課程
 - ③県委託事業
 - 看護教員研修事業
 - 看護管理経営研修
 - ④感染管理認定看護師フォローアップ 研修

2) 看護職者の資格取得（認知症看護認定看護師および認定看護管理者）へのニーズ調査を実施し、開講継続の可能性を検討する。

3) 認定看護管理者（サードレベル）教育機関承認後の確認審査受審

4) 平成29年度の事業報告書のホームページ掲載

3. 今年度の活動内容・その評価

1) 今年度の事業内容は円滑に実施できた。年度当初に、所属教員および委員で役割を分担し各事業の運営にあたった。（各事業の実施概要はp114～116を参照）

2) 平成29年7月に、北陸3県の病院の看護部責任者に認知症看護認定看護師および認定看護管理者の受講ニーズを調査し、開講継続の判断資料を得た。

3) 平成26～28年度の事業報告書をホームページに掲載した。平成29年度は次年度当初に掲

載予定である。

4. 次年度以降に向けた課題・発展

- 1) 看護キャリア支援センターの主たる財源は受講料であるため、受講生の定員確保は重要な課題である。受講生の確保方策や開講の継続を検討するために、毎年、看護職者の資格取得に関するニーズ調査を実施する必要がある。
- 2) 感染管理認定看護師教育課程では平成28年度までに70名が修了し、認知症看護認定看護師教育課程では今年度33名が修了した。分野は異なるが、修了生の活動支援のためのフォローアップ方策は引き続き検討し、適切な内容で実施する。
- 3) 認知症看護認定看護師教育課程は次年度も開講予定であり、教育課程の遂行を円滑に実施する。また、開講後の確認審査を受審予定であるため適切に対応する。
- 4) 認知症看護認定看護師教育課程の継続開講にむけて、専任教員を確保するため関係機関と調整を行う。

11.2 認知症看護認定看護師教育課程

11.2.1 受講生の受講・修了状況

	定員	入学者数	修了者数
平成29年度	30	33	33

11.2.2 入学試験・入試説明会の実施

1) 入学試験の実施

平成29年5月13日（土）（平成29年度入学生）

平成30年3月 3日（土）（平成30年度入学生）

	定員	応募数	合格者数
平成29年度入学生	30	86	33
平成30年度入学生	30	49	31

2) 入試説明会の実施

平成29年11月11日（土） 参加者：52名

11.2.3 認知症看護認定看護師教育課程入試委員会

委員長：丸岡 直子（教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長））

委員：徳田特任准教授、中道講師、堅田助教

久米真代（金城大学）、多幡明美（石川県立高松病院）、福井亜紀（芳珠記念病院）
（地域医療機能推進機構金沢病院）、和田博之（福井県立すこやかシルバー病院）

事務局：寺井囑託

- 活動内容：1. 入学者募集要項・選抜方法の検討
2. 入学試験の実施体制の検討
3. 入学者の可否判定

11.2.4 認知症看護認定看護師教育課程教員会

委員長：丸岡 直子（教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長））

委員：川島教授（学長補佐）、徳田特任准教授、堅田助教

吉野幸枝（石川県看護協会）、永田厚子（石川県立高松病院）、富澤ゆかり（金沢赤十字病院）、林浩靖（光が丘病院）

事務局：寺井囑託

- 活動内容：1. 教育課程の内容、教育環境整備に関する検討
2. 受講生の修了判定

11.3 認定看護管理者教育課程

11.3.1 受講生の受講・修了状況

	定員	応募数	入学者数	修了者数
平成29年度	25	24	24	24

11.3.2 認定看護管理者教育運営委員会

委員長：丸岡 直子（教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長））

委員：武山教授（附属地域ケア総合センター長）、林教授、石川准教授、出口特任講師

塩村京美（石川県看護協会）、中西容子（金沢市立病院）、野村仁美（地域医療機能推進機構金沢病院）、中瀬美恵子（浅ノ川総合病院）

事務局：寺井囑託

- 活動内容：1. 受講生の決定と修了判定
2. 教育課程の内容・方法、教育環境整備に関する検討

11.4 石川县委託事業の開催

11.4.1 石川県看護教員現任研修事業

〈看護学教育におけるパフォーマンス評価〉

- 1) 目的：課題を解決する思考力・判断力・表現力を育成するための授業づくりをパフォーマンス評価の観点から考える。
- 2) 開催時期：平成29年6月3日、6月17日
- 3) 受講者：25名

- 4) 内 容：看護学教育におけるパフォーマンス評価の実践報告、パフォーマンス課題とルーブリック作成など12時間

〈看護学教育の質を高めるための看護学校マネージメント〉

- 1) 目 的：看護学教育の質を高めるための看護学校マネージメントを学ぶ。
- 2) 開催時期：平成29年8月25日、26日
- 3) 受 講 者：15名
- 4) 内 容：看護学校マネージメントの実施に対する講義・グループ討議など12時間

11.4.2 管理者経営研修

- 1) 目 的：地域包括ケア時代における看護管理者の役割を果たすうえでの知識を修得し、自らの行動を明確にする。
- 2) 開催時期：平成29年9月8日～9月30日の4日間
- 3) 受 講 者：32名（看護師長以上の職位にある者）
- 4) 内 容：看護と介護の連携を考える、人々の在宅療養を支援し地域に根ざす病院の役割、看護現場学から考えるナースのキャリア開発支援、看護管理者のための病院経営数字力、組織分析に基づく看護管理上の課題解決に向けた戦略 24時間

11.5 感染管理認定看護師フォローアップ研修

- 1) 目 的：感染管理認定看護師として活動していくにあたって、一人ひとりの課題解決につなげる。
- 2) 開催時期：平成29年9月30日
- 3) 受 講 者：52名
- 4) 内 容：感染管理認定看護師の活動報告（それぞれの軌跡）に関するシンポジウム

12. 大学として取り組んでいる連携事業

12.1 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

実施団体名

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

：金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、信州大学、石川県立看護大学

概要

北信がんプロの実施内容として、1) 6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース（本科10、インテンシブ9）。2) テレビ会議システムを発展させた、北信オンコロジーセミナー、事例検討会。3) スタッフ研修として海外FD研修の実施。4) 他のがんプロ拠点や、人材育成プログラムとも積極的に連携し、国際シンポジウム、合同シンポジウムの実施。5) 市民啓発、がん教育活動の一環として患者会との連携や、北信4県の自治体、医師会、がん拠点病院と連携し、市民公開講座やシンポジウムの開催などである。本学は主に、大学院教育では、がん看護専門看護師の育成（本科生）と、テレビ会議システムを活かした事例検討会を実施し、がんに関心ある看護師の育成に努める。

12.1.1 がんプロ企画委員会

委員長：牧野 智恵（教授（研究科長））

委員：石垣教授（学長）、今井教授、岩城准教授、林講師、金谷講師、
松本助教、磯助教、山崎助教、南堀助教、大西助手、樋口特任助手、
澤本主幹 納橋専門員

活動内容：

1. がん看護専門看護師（本科生）の育成

1) 第2期がんプロに引き続き、38単位履修によるがん看護専門看護師の育成をおこなった。

2. インテンシブコースによるがん看護の知識の普及実施・評価

以下の4つのコースへの募集および成績判定を行った。

①「がん看護インテンシブAコース」

平成19年度から実施しているコースの一つで、北陸がんプロのがん看護本科生（大学院のがん看護専門看護師課程）を修了し、今後がん看護師専門看護師の受験をめざしている看護師、または更新予定のがん看護専門看護師を対象としたコースである。今年度は1名が履修した。

また、8月と9月にがん看護専門看護師と本コース申請者を対象に、がん看護専門看護師の知識と技術のブラッシュアップと専門看護師の受験に向けた学習のための事例検討会を実施した。今年度は、特別コメンテーターとして8月には北里大学病院の坂下智珠子がん看護専門看護師、10月には北海道医療大学の石垣靖子先生にお越しいただいた。

②「地域がん看護師養成コース」

第2期がんプロのコースの継続である本コースのうち『地域がん看護師養成コースⅠ』として、入学前がん看護専門看護師の参加する事例検討会に参加することによって、日々の実践を見直せると同時に、その科目を入学後の履修単位としてカウントできるコースである。本年度は1名であった。

また、『地域がん看護師養成コースⅡ』では、大学院への入学は予定していないが、がん看護事例会への出席や本学開催の市民公開講座、リンパ浮腫研修、倫理事例検討会などに出席し、最新のがん看護の知識を得たい人を対象としたものである。既に認定看護師の資格を持っている人や、がん看護専門看護師の資格を持っている人が、資格更新のために利用することもできるように修了証の発行を行って来た。今年度は2名であった。

③「地域がん看護活性化コース」

第2期がんプロのコースの継続である本コースでは、休職中の看護師を復帰教育することを目的としたものであり、今年度の受講者は、1名であった。

3. がんプロ企画の実施と評価

1) 「グリーフの理解とナースに求められること」公開講演会の実施・評価

7月2日に本学大講義室にて、モナシュ大学の下稲葉かおり先生を招き、「グリーフの理解とナースに求められること」の講演を行っていただいた。89名が参加し、抗がん剤暴露予防に関する知識が固まったとの意見が聞かれた。

2) 「臨床で行なうリンパ浮腫ケア」基礎編・アドバンス編の企画・評価

今年度は、石川県済生会金沢病院（がん看護専門看護師・日本医療リンパドレナージ協会認定セラピスト）の高地弥里さんを講師として招き、9月9日（土）に本学成人看護学実習室にて実施した。64名の看護師が参加した。演習では、一人ずつマッサージでの圧の加減について高地先生に指導していただいたこともあり、自由記載において、「今回の実演により、これからは実践していけそう」という意見も得られた。また「浮腫のアセスメントをしっかりとすうえで、施術方法も把握して対応したい」など、知識を持つことやアセスメントの重要性も学べたことが伺えた。

また、2月17日（土）には、北陸在住の3名の日本医療リンパドレナージセラピストを招き、リンパ浮腫ケアのアドバンス編を実施し、13名が参加した。基礎編に引き続き、実践に活かせる内容にした。

3) ライフステージ事例検討会およびCNS対象クローズド事例検討会企画・評価

① ライフステージ事例検討会を実施した。

今年度は、6月から翌年3月までの期間に計8回の事例検討会を企画し、2月は大雪のため中止となり、計499名の看護師、医師、薬剤師、OT/PTが参加した。今年度は、信州大学からの参加が増え、活発な意見交換が行えた。

② CNSおよびCNS候補者を対象に、CNSクローズド事例検討会を2回実施した。8月22日には、北里大学病院のがん看護専門看護師の坂下智珠子さんをお呼びし、18名が参加した。10月22日には、石垣靖子先生をお呼びし、11名が参加した。

4) FD・SD講演会の企画・評価

① 「ケアの意味を見つめる事例研究」の実施

平成30年1月28日（日）に本学研修室にて、東京大学医学系研究科の山本則子教授を迎え、

「ケアの意味を見つめる事例研究」のテーマでの研修を開催した。病院看護師、教育関係者、大学院生等40名の参加があった。午前中は、事例研究の定義や、事例研究を進めていく手順、看護実践内容を人に伝えるためにどのように言語化していくか、などについての講義があり、8グループに分かれて、提示された事例の「キャッチコピー」を練るグループワークを行い、午後には、キャッチコピーとも向き合いながら、看護実践内容をカテゴリー化する過程まで行った。他のグループの発表を聴くことで、自分達のグループにない発想に気づけたり、事例研究の必要性や意欲が高まり、とても有意義な研修だったといった参加者からの感想があった。

②「医療者・患者の抗がん剤曝露予防を考えよう」の実施

石川県立中央病院薬剤師の米沢美和先生、四国がんセンター臨床研究推進部長の青儀健二郎先生、四国がんセンターがん化学療法認定看護師の岸田恵先生をお招きし、ホテル金沢にてSD講演会『医療者・患者への抗がん剤曝露予防を考えよう』を開催した。本学の牧野教授と、金沢大学薬学系の菅准教授が座長を務め、薬剤師・看護師合わせて56名の参加があった。日頃の臨床現場で何気なく取り扱っている抗がん剤が、医療者へ及ぼす影響と対策について、医師、薬剤師、看護師の異なる視点から見つめ直すことができ、抗がん剤曝露について正しく恐れ、多職種が共通の認識を持つことの重要性を学ぶ機会となったとの意見が聞かれた。

4. 海外研修

3月24日(土)～3月30日(金)の期間、オーストラリアのメルボルンに、「メルボルン緩和ケア視察研修2018」を企画し、14名(看護師、医師、薬剤師)が、石川県、福井県、富山県、長野県から参加した。オーストラリアにおける緩和ケアの歴史は長く、在宅緩和ケアの実践の歴史のあるオーストラリアの緩和ケアの現状を視察することで、北信地域における緩和ケア実践のヒントを得ることができた。

外部報告

平成29年度事業報告書

外部資金

研究拠点形成費等補助金(がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン)連携大学の負担金
10,580千円

13. 大学施設の開放

実施年月日	内 容	参加 人数(人)
29. 4～29.12 木曜	バレーボール練習	10
29. 4～30. 3 火曜	スポーツ教室	50
29. 4～30. 3 土曜・日曜	野球練習	15
29. 5～30. 1	介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修 研修会	40～80
29. 4. 8	研修会	100
29. 4.22・23	吹奏楽コンサート、リハーサル	300
29. 5. 4	テニス練習	4
29. 6.17・18	第23回石川県紙ひこうき大会inかほく	350
29. 6.22	ソフトボール練習	10
29. 7.22	認知症高齢者サポートを考える会講演会	250
29. 7.27	教育研究中間集会	200
29. 8. 8	研修会	200
29. 8.18	教育フェスタ 講演会	200
29. 8.19	ピアノ教室コンサート	50
29. 8.22	教育研究総括集会	200
29. 8.23	食品衛生責任者研修会	200
29. 9. 9・17	作品展審査	10
29. 9.17・18	定期演奏会・リハーサル	400
29.10. 7・8	介護支援専門員実務研修受講試験	300
29.10. 8	合唱練習	50
29.10.15	音楽発表会	20
29.11.19	JA石川かほく地域農業推進大会	350
29.11.25・26	原子力防災訓練	500
29.12.17	クリスマスコンサート	100
30. 3. 3	院内学会	100
30. 3. 4	理容師美容師国家試験	350
30. 3.17・18	ピアノ発表会・リハーサル	100
30. 3.21	ピアノ発表会	50
30. 3.31	柳田邦男さんと生きることを学ぶ会 講演会	400

編集後記

平成29年度の年報をお届けします。本学教員の1年間の活動記録がぎっしりと詰まった一冊となっています。小さな単科大学で、限られた人数の教員が、同じく限られた人数の事務職員のサポートのもとに、さまざまな学内委員会を運営し、地域に根差した継続的な社会貢献や国際社会の人材育成に寄与する無償の啓発活動を地道に推進し、さらには学生とともに海外3か国に出かけて研修を指導し、その上、教員各自がそれぞれの専門分野における研究活動・学会活動を展開しています。例年同様に、教員各位におかれては平成29年度が如何に忙しかったかを振り返る記録となっています。

さて、平成29年度は、本学の最も重要なミッションである教育に関して、どのような創意・工夫がなされ、どんな成果が得られたのでしょうか？昨年度もこの欄に記しましたが、年報にはそのことを詳細に記述する項目が設けられていませんので、この欄を借りてささやかな記録をしたためたいと思います。

平成29年度は本学の近未来の教育カリキュラム上大きな変革が決断された年でありました。我が国の大学においては、各大学の特色ある教育の実現を担保するため、講義科目1単位あたりの時間数を規定の15時間を超えて独自に設定できるよう、一定の範囲内での裁量権が各大学にゆだねられています。しかし、本学ではその裁量権をあえて返上し、規定どおりの最小時間数の中で講義を組み立てる事を選択し、平成30年7月に文科省への申請と疑義に対する補足説明を経て裁可され、平成31年度からの施行が8月の教員全体会議で周知されました。自学自習の支援のため、平成29年度には食堂の一角を仕切ってラーニング・コモنزのスペースとし、演習室を自習室に転換するなどの当面の環境整備も実施されました。

本学では、すでに前回のカリキュラム改定の際に、アクティブラーニングを推進することを目指して、学生の自主性に基づく自学自習の時間を確保するために大幅な講義時間数の削減が行われました。その結果、自学自習をナビゲートする「課題」が各科目から豊富に出される一方で、複数科目の課題提出期限が重なると十分な時間をあてられない、課題の提出期限と他教科の中間試験が重なると試験勉強の時間を十分とれない等の「副作用」が発生し、後者の場合、中間試験の成績不振者の大量発生という深刻な事態を招いています。そもそも、アクティブラーニングを標榜する現行カリキュラムで育った学生の学習到達度・パフォーマンスは旧カリのそれと比較してどうでしょうか？自学自習・アクティブラーニングの前提となる、学生自身の自主性や自ら食欲に学び取っていく主体性は育っているのでしょうか？現行カリキュラムから新カリへ移行するこの時点で、いちど振り返ってPDCAのcheck, actionを実施し、現時点での教員にとっての「課題」を明らかにし、新カリキュラムでの教育に生かすことを考える時ではないのでしょうか？

来年度から施行される新たなカリキュラムでは、自学自習の時間を今までにも増して多く確保するために、講義時間のさらなる削減が行われます。持ち越しとなる前述の課題に加えて、新カリキュラムでは、自学自習の基礎となる講義において、縮小された時間数の範囲内で大学教育に相応しい豊かな内容を如何に効果的に教授するか、という新たな課題が加わります。科目配置に関しても、従来の教育の順序性に従って検討した結果、1年生の前期後半から疾病・障害に関する臨床科目を開始することになりました。果たしてこのような斬新な試みが可能なのか、医学部

医学科においては臨床科目が概ね3年後期から開始されることを考えると、大きなチャレンジとなります。各科目における周到な授業計画に加えて科目間の綿密な連携が重要となります。学習項目の順序性はもとより、科目間連携を密にして、重要項目は繰り返し学習により知識定着をはかり、その基礎がための上に応用力を養うことができる屋根瓦方式の知識体系の構築が必要です。その構築の骨組みとなるような本学独自のポートフォリオの作成が望まれます。

この年報がお手許に届くころ、新カリキュラムに向けてどのような連携が生まれているでしょうか？新カリキュラムへの本学クルー一丸となったアクションが現代社会の要望に応える新しい教育に結実し、我が国の新たな看護基礎教育の展開に結びつくことを切に祈念します。

年報編集委員長 多久和典子

平成29年度 石川県立看護大学年報 第18巻
2018年9月30日 発行

編集：石川県立看護大学 自己点検・評価委員会
年報編集部会

発行：石川県公立大学法人 石川県立看護大学
〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地
tel.076-281-8300 (代) fax.076-281-8319

「著作権は石川県公立大学法人に帰属する。」

(この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます。)

